



2022 年度  
兵庫県保健師キャリア支援センター事業  
実績報告書

2023 年 3 月  
兵庫県保健師キャリア支援センター  
公立大学法人 神戸市看護大学



# 目 次

## 緒 言

兵庫県保健師キャリア支援センター2年目を迎えて	・・・3
-------------------------	------

## 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

### 1) 兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会

兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会設置要綱	・・・7
---------------------------	------

### 2) 保健師人材育成研修

#### (1) 新任期保健師研修

2022年度 新任期保健師研修会実施要領	・・・15
2022年度 新任期保健師研修会実施状況	・・・22
2022年度 新任期研修会アンケート結果	・・・26
新任期保健師研修会(合同研修)アンケート結果	・・・26
新任期保健師研修会(前期Ⅰ研修)アンケート結果	・・・34
新任期保健師研修会(前期Ⅱ研修)アンケート結果	・・・46
新任期保健師研修会(後期研修)アンケート結果	・・・60

#### (2) プリセプター研修

2022年度 プリセプター研修会実施要領	・・・77
2022年度 プリセプター研修会実施状況	・・・79
2022年度 プリセプター研修会アンケート結果	・・・80

#### (3) 地域ケアの総合調整研修

2022年度 地域ケアの総合調整研修事業実施要領	・・・86
2022年度 地域ケアの総合調整研修会実施状況	・・・89
2022年度 地域ケアの総合調整研修会アンケート結果	・・・90

#### (4) 統括期保健師研修

2022年度 統括期保健師研修会実施要領	・・・92
2022年度 統括期保健師研修会実施状況	・・・95
2022年度 統括期研修会アンケート結果	・・・96

### 3) 保健師及び地域保健に携わる関係者への調査研究

現在実施中の調査研究課題	・・・101
--------------	--------

### 4) 保健師キャリア支援(再就業支援含む)

#### (1) 保健師キャリア相談

2022年度保健師キャリア相談	・・・105
2022年度保健師キャリア相談実績	・・・106
2022年度保健師キャリア相談に関するアンケート結果	・・・107

#### (2) 保健師就業・復職支援研修会

2022年度 保健師就業・復職支援研修会実施要領	・・・110
2022年度 保健師就業・復職支援研修会実施状況	・・・112
2022年度 保健師就業・復職支援研修会アンケート結果	・・・113

#### (3) オンデマンド研修

2022年度オンデマンド研修実施状況	・・・118
--------------------	--------

<b>5)総括</b>	
兵庫県保健師キャリア支援センター事業総括	・・・121
<b>2. 巻末資料</b>	
兵庫県の保健師の現任教育体系	・・・125
兵庫県保健師のキャリアラダー	・・・126
兵庫県保健師キャリア支援センター事業(2022年度実績版)	・・・130
新任期保健師研修 専門的能力評価表	・・・131
保健師キャリア相談チラシ	・・・136
兵庫県保健師キャリア支援センターチラシ	・・・137
兵庫県保健師キャリア支援センター事務局名簿	・・・138
<b>編集後記</b>	・・・139

# 緒 言



## 兵庫県保健師キャリア支援センター2年目を迎えて

兵庫県保健師キャリア支援センターが発足して2年が経とうとしています。当センターでは、兵庫県保健師人材育成ガイドラインに基づく人材育成研修や、キャリアアップを図るための相談・支援、保健師活動に関する調査研究や情報発信等、地域で活動される保健師の方々の資質向上につながる様々な取組を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響下ではありましたが、できる限り対面での研修を企画いたしました。参加者からは、久しぶりの対面研修で、顔を見てコミュニケーションや情報交換ができる喜びの声を多くお寄せいただきました。保健師は、住民の中にあり、住民とともに歩みながら、人々の健康に関わっていく専門職です。その活動の基盤には、住民、関係者を問わず、様々な立場の人々とコミュニケーションを図ることの大切さがあります。特に新型コロナウイルス感染症流行期に入職された新任期の方々にとっては、研修でつながった同期同士の人脈は、きっとこれからも財産となって積み重なっていくことと思います。

また、一時実施を見合わせておりました「地域ケアの総合調整研修」も再開いたしました。この研修は、科学的手法を用いて保健活動における課題や疑問を明らかにし、根拠を持った保健活動を支援する研修です。本研修は、自治体と大学がチームを組んで取り組む、協働を基盤とした研修として実施しています。

さらに今年度は、潜在保健師の方々の、行政保健師への就業や復職を促進するために、「保健師就業・復職支援研修会」も実施いたしました。研修会では、最近の社会情勢を踏まえた施策や実際の保健師活動の理解を深めるための講義を始め、現職保健師を交えた座談会を行いました。大変活発な意見や情報交換の場となり、参加者一人ひとりにとって、日々専門職として前進する気持ちを高める機会としていただくことができました。

近年の新型コロナウイルス感染症の流行は、住民同士のみならず、保健師同士の交流の機会も減少させてしまいました。しかし、少しずつ以前の状況を取り戻しつつあり、研修を通じた交流の場も確保できるようになってまいりました。当センターの行う情報発信や研修、相談・支援等の取組を通して、貴重な人脈づくり、及び現場と大学をつなぐ場としてもご活用いただくことを期待しております。今後とも保健師の皆様と共に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

兵庫県保健師キャリア支援センター事務局代表

公立大学法人 神戸市看護大学学長 南 裕子



# 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会



## 兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会設置要綱

### (設置)

第1条 保健師の質の向上を目的として、保健師人材育成の拠点となる兵庫県保健師キャリア支援センター（以下「センター」という。）を設置・運営するため、兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

### (所掌事務)

第2条 協議会は、次に掲げる事項を所掌するものとする。

- (1) センターの設置・運営
- (2) その他目的を達成するために必要な事業に関すること。

### (組織)

第3条 協議会は、次に掲げる者（以下「委員」という。）をもって組織する。

- (1) 学識経験を有する者
  - (2) 保健師養成機関を代表する者
  - (3) 行政機関の保健師を代表する者
  - (4) 看護師関係団体を代表する者
  - (5) その他適当と認められる者
- 2 委員は別表に掲げる者とする。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (会長)

第4条 協議会に、会長1人を置く。

- 2 会長は、学識経験を有する者をもって充てる。
- 3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長が事前に指名した委員がその職務を行う。

### (会議)

第5条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 委員は、事故その他のやむを得ない理由により会議に出席できないときは、あらかじめ会長の承認を得て、代理人を出席させることができる。この場合において、代理人は会議が開かれる前に委任状を会長に提出しなければならない。
- 5 会長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(謝金)

第6条 委員(県の職員である委員を除く。)もしくは第5条第5項の規定に基づき会長が認めた者(以下「委員等」という。)が、会議その他の協議会の職務に従事したときは、謝金を支給する。

2 第5条第4項の規定に基づき、代理人が会議に出席したときは、代理人に対して、委員と同額の謝金を支給する。

(旅費)

第7条 委員等が協議会の職務を行うため会議に出席し、又は旅行したときは、旅費を支給する。

2 第5条第4項の規定に基づき、代理人が会議に出席したときは、代理人に対して、旅費を支給する。

(センター)

第8条 センターは以下の事業を行う。

- (1) 保健師人材育成研修の実施
- (2) 公衆衛生看護等に資する調査研究
- (3) 保健師キャリア支援
- (4) その他、保健師の資質向上に関する事業の実施

2 センターの事務所は、協議会事務局に設置する。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、協議会事務局において処理する。事務局は公立大学法人神戸市看護大学に置く。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

## 別表

神戸大学大学院保健学研究科 公衆衛生看護学分野 教授

兵庫県立大学看護学部 公衆衛生看護学分野 教授

神戸市看護大学看護学部 公衆衛生看護学分野 教授

兵庫県看護系大学協議会代表

兵庫県保健師現任教育所管課 保健師

神戸市保健師現任教育所管課 保健師

姫路市保健師現任教育所管課 保健師

尼崎市保健師現任教育所管課 保健師

西宮市保健師現任教育所管課 保健師

明石市保健師現任教育所管課 保健師

兵庫県市町保健師協議会 保健師

兵庫県看護協会 理事（保健師職能）







# 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

保健師人材育成研修



## 2022年度 新任期保健師研修会実施要領

### 1. 目的

行政機関で公衆衛生に携わる新任期保健師が、公衆衛生看護活動の原点である個別支援の重要性を学び、対象及び地域の理解を深め、地域特性を踏まえた上で、地域の健康課題解決に向けた事業の展開につなげる、保健師活動の一連のプロセスを理解し、実践できる能力を養うことを目的とする。

### 2. 目標

- (1) 個別支援において、相談者と信頼関係を築くことの大切さや、生活者としての価値観、思いを踏まえた上で支援することの重要性を理解することができる。併せて、情報収集からアセスメント、課題の明確化及び課題に応じた目標設定、訪問計画、実施、評価という一連のプロセスを理解し、実践することができる。
- (2) 地域診断において、個別支援から把握した情報をはじめ、日常的な保健活動から得られる情報・データの内容及び重要性を理解することができる。これらのアセスメントし、地域全体の健康課題について明らかにするとともに、地域の強みを活かした事業展開（目標設定及び計画立案まで）を実践することができる。
- (3) 地域の関係機関と連携して立案した事業計画を実際に実践し、評価・修正するといった、PDCAの一連の過程について理解することができる。また、最終的に評価計画に基づいた事業評価を行うことができる。
- (4) 災害時または感染症流行時等の健康危機管理としての保健師活動の展開について理解することができる。

### 3. 実施主体

兵庫県（運営：兵庫県保健師キャリア支援センター）

### 4. 対象

新任期保健師（原則採用後3年未満の保健師で、非常勤等含む）

### 5. 内容

- |       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 1年目相当 | 個別支援（情報収集、アセスメント、目標・課題設定、支援計画作成等） |
| 2年目相当 | 地域診断（地域診断の方法及び実践、PDCAサイクルとの関係等）   |
| 3年目相当 | 地域連携（保健事業の計画と評価、地域ケアシステムの構築）      |
| 合 同   | 健康危機管理時の保健師活動                     |

### 6. スケジュール

#### (1) 合同研修（オンライン研修：別途案内）

6月研修案内

6月24日（金）参加締め切り

6月29日（水）10:30～12:00

講義「災害時における保健師活動（仮題）」

講師：兵庫県保健医療部

#### (2) 継続研修（採用年数別研修） ※プログラムは別紙1～4参照

##### 1) 前期Ⅰ研修（オンライン研修）※研修URLは研修案内文書に記載

###### ①1年目相当（個別支援）：

日時：7月11日（月）13:00～16:30

内容：①講義「個別支援について（仮題）」

講師：神戸大学大学院教授 和泉比佐子氏

②講義「1年目の課題の取り組み方について」

講師：県庁健康増進課

**②2年目相当（地域診断）：**

日時：7月14日（木）10:00～14:20

内容：①講義「地域診断について（仮題）」

講師：神戸大学大学院教授 和泉比佐子氏

②講義「2年目の課題の取り組み方について」

講師：県庁健康増進課

**③3年目相当（地域連携）：**

日時：7月14日（木）13:00～16:30

内容：①講義「地域連携について（仮題）」

講師：神戸大学大学院教授 和泉比佐子氏

②講義「3年目の課題の取り組み方について」

講師：県庁健康増進課

**2)前期Ⅱ研修（対面研修）**

**①1年目相当（個別支援）：**

日時：10月17日（月）10:00～16:30

会場：三宮研修センター 6階 605

神戸市中央区八幡通4-2-12 カサベラFRⅡビル TEL:078-232-0081(代)

内容：①先輩保健師からの講話「研修の学びと後輩保健師に伝えたいこと（仮題）」

②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（中間）

**②2年目相当（地域診断）：**

日時：10月21日（金）10:00～16:30

会場：兵庫県民会館 10階 福

神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 TEL:078-321-2131(代)

内容：①先輩保健師からの講話「研修の学びと後輩保健師に伝えたいこと（仮題）」

②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（中間）

**③3年目相当（地域連携）：**

日時：10月24日（月）10:00～16:30

会場：兵庫県中央労働センター 1階 小ホール

神戸市中央区下山手通6丁目3番28号 TEL:078-341-2271(代)

内容：①先輩保健師からの講話「研修の学びと後輩保健師に伝えたいこと（仮題）」

②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（中間）

**3)後期研修（対面研修）**

**①1年目相当（個別支援）：**

日時：1月19日（木）10:30～16:00

会場：兵庫県民会館 11階 パルテホール

神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 TEL:078-321-2131(代)

内容：①中堅期以降保健師による講話「個別支援の実際（仮題）」

②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（最終）

**②2年目相当（地域診断）：**

日時：1月23日（月）10:30～16:00

会場：兵庫県民会館 10階 福

神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 TEL:078-321-2131(代)

内容：①中堅期以降保健師による講話「地域診断の実際（仮題）」

②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（最終）

**③3年目相当（地域連携）：**

日時：1月26日（木）10:30～16:00

会場：兵庫県民会館 10階 福

神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 TEL:078-321-2131(代)

内容：①中堅期以降保健師による講話「地域連携の実際（仮題）」

②グループワーク及び全体発表、課題への助言指導（最終）

#### 4)各所属でのフィードバック

所属の実情に合わせて、個別指導または発表会等によるフィードバック  
(個々に派遣調整・依頼する。必要に応じて様式6により、兵庫県保健師キャリア  
支援センターあてに派遣調整依頼も可能)

### 7. 課題の取り組み方及び提出物等について

#### (1)事前課題

1)提出期限 7月8日(金)

2)提出方法

ホームページの研修案内サイト内の課題提出フォームに各自添付し提出する。

研修案内サイトのURL <https://kobe-phn-cc.jp/news/939/>

3)提出物

「兵庫県保健師人材ガイドライン」の専門的能力評価表(研修前評価)

1年目相当:1 個別支援(P52)

2年目相当:2 地域診断(P53~54)

3年目相当:3 地域連携(P55~56)

※自己評価及び指導保健師(プリセプター保健師及び係長または専門員等)による評価を行い、自己評価及び指導保健師評価として各1部ご提出ください。

※ファイル名は様式名の冒頭に【所属機関\_受講者/指導者\_受講者氏名】を追記してお送りください。

例)健康福祉事務所の場合

【A 健福\_受講者\_兵庫花子】新任期専門的能力評価表(様式)

【A 健福\_指導者\_兵庫花子分】新任期専門的能力評価表(様式)

市町の場合

【B市\_受講者\_兵庫花子】新任期専門的能力評価表(様式)

【B市\_指導者\_兵庫花子分】新任期専門的能力評価表(様式)

#### (2)研修課題

1)中間提出

①提出期限 9月30日(金)

②提出方法

ホームページの研修案内サイト内の課題提出フォームに各自添付し提出する。

研修案内サイトのURL <https://kobe-phn-cc.jp/news/939/>

③提出物(詳細は前期研修Iで説明)

1年目:①様式1 家庭訪問支援記録(ケースの概要と現状~訪問計画まで)

②様式2 個別事例関連図(様式1に準じた箇所まで)

2年目:①様式3 保健師活動計画表(個別支援から把握した情報~課題まで)

②様式4 社会資源関連図(様式3に準じた箇所まで)

3年目:①様式5-1 保健事業あるいは地域のシステム構築の計画のための現状分析  
様式5-2 保健事業あるいは地域のシステム構築の計画と評価

(様式5-1:全て、様式5-2:評価計画まで(様式のうち、評価結果と総合評価を除く箇所まで)

②様式5(別紙)改変 保健活動・事業の含まれる政策・施策全体(様式5-1、5-2に準じた箇所まで)

2)最終提出

①提出期限 1月5日(木)

②提出方法

ホームページの研修案内サイト内の課題提出フォームに各自添付し提出する。

研修案内サイトのURL <https://kobe-phn-cc.jp/news/939/>

③提出物

1年目:①様式1 家庭訪問支援記録(今までの修正を踏まえ、完成)

②様式2 個別事例関連図(完成)

- 2年目：①様式3 保健師活動計画表（今までの修正を踏まえ、完成）  
②様式4 社会資源関連図（完成）  
3年目：①様式5-1 保健事業あるいは地域のシステム構築の計画のための現状分析  
様式5-2 保健事業あるいは地域のシステム構築の計画と評価  
（今までの修正を踏まえ、それぞれ完成）  
②様式5（別紙）改変 保健活動・事業の含まれる政策・施策全体（完成）

### (3) 事後課題

1) 提出期限 2月28日（火）

2) 提出方法

ホームページの研修案内サイト内の課題提出フォームに各自添付し提出する。

研修案内サイトの URL <https://kobe-phn-cc.jp/news/939/>

3) 提出物

①「兵庫県保健師人材ガイドライン」の専門的能力評価表（研修前評価）

1年目相当：1 個別支援（P52）

2年目相当：2 地域診断（P53～54）

3年目相当：3 地域連携（P55～56）

※自己評価及び指導保健師（プリセプター保健師及び係長または専門員等）による評価を行い、自己評価及び指導保健師評価として各1部ご提出ください。

※ファイル名は様式名の冒頭に【所属機関\_受講者/指導者\_受講者氏名】を追記してお送りください。

例) 健康福祉事務所の場合

【A 健福\_受講者\_兵庫花子】 新任期専門的能力評価表(様式)

【A 健福\_指導者\_兵庫花子分】 新任期専門的能力評価表(様式)

市町の場合

【B 市\_受講者\_兵庫花子】 新任期専門的能力評価表(様式)

【B 市\_指導者\_兵庫花子分】 新任期専門的能力評価表(様式)

②研修後アンケート（後日配布）

## 8. 申し込み

(1) 申し込み期限 7月4日（月）

(2) 申し込み方法

兵庫県保健師キャリア支援センターホームページより、各自申し込む。

研修案内サイトの URL <https://kobe-phn-cc.jp/news/939/>

## 9. 研修のすすめ方

### (1) 受講者の留意事項

1) 研修課題に関すること

①研修課題にあたっては、前期I研修を受講し、課題に取り組む準備性を高めて臨み、所属での助言を得て作成すること。

②研修申し込み及び課題提出にあたっては、必ず所属機関の確認を行うこと。

③研修にあたっては、全受講者の研修課題をPDFファイルにて事前配布するので、課題作成にあたっては、配布資料とすることを前提に、個人情報等の取り扱いには十分留意して作成すること。

④各課題を提出物する際は、ファイル名を以下の通りとして提出すること。

様式名の冒頭に【所属機関\_受講者/指導者\_受講者氏名】を追記する。

例) 健康福祉事務所の場合

【A 健福\_受講者\_兵庫花子】 新任期専門的能力評価表(様式)

【A 健福\_指導者\_兵庫花子分】 新任期専門的能力評価表(様式)

市町の場合

【B 市\_受講者\_兵庫花子】 新任期専門的能力評価表(様式)

【B 市\_指導者\_兵庫花子分】 新任期専門的能力評価表(様式)

2) 研修時に持参するもの

- ①各自グループメンバーの資料を印刷して当日参加すること(グループは後日通知)。

**(2) 研修全体に関すること**

1) 研修の進め方について

- ①3か年を目途として、体系的に実施する。  
②全ての研修に参加することを原則とする。  
③研修は、集合研修と職場での助言指導を交えた実践型研修とする。  
④前期Ⅱ研修及び後期研修の集合研修は、自治体保健師及び大学教員によるファシリテーターの助言のもと進める。  
⑤各所属でのフィードバックの際に教員の派遣を希望する場合は、個々に講師と交渉し、派遣の調整・依頼を行うものとする。兵庫県保健師キャリア支援センターに県内の看護系大学の教員の派遣調整を依頼する場合は、10月31日(月)までに、「新任期保健師研修における派遣依頼書(様式6)」により、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールにて依頼すること。申し込みを受けて派遣調整を行うが、必ずしも希望に添えない場合もあることをご了承願いたい。

2) 研修に係る講師等の協力依頼及び推薦について

- ①ファシリテーター、先輩保健師及び中堅期以降保健師の講話講師の協力については、別途依頼するものとする。  
②今年度の研修の受講者に対して、翌年度の新任期研修における先輩保健師の講話の講師を依頼する場合がある。については、県及び市町からの受講者については、それぞれ県庁健康増進課及び兵庫県市町保健師協議会へ受講者名簿(研修名、受講者の所属機関、氏名、現職での経験年数)を情報提供させていただき、推薦を依頼することとする。受講者名簿による情報提供を望まない場合は、研修申し込み時に備考欄へその旨を記載して申し込むこと。記載がない場合は、同意を得たものとして取り扱うものとする。  
③講師の選定にあたっては、県、中核市、市町で1～3年目研修の講師をいずれか担当するよう調整する。  
④情報提供を希望しないことによる研修受講上の不利益は生じない。

**(3) その他**

1) 感染予防対策等の措置について

- ①対面研修の受講時に発熱等の症状がある場合は、事務局へ連絡の上、参加を見合わせること。  
②対面研修の受講者等は、マスクの着用や手指消毒等各自感染対策を講じて参加すること。  
③新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、研修の形式を変更する場合がある。その場合は、別途通知するものとする。

**10. 問合せ先**

兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会事務局 担当：磯濱

TEL 078-794-8084 (直通) / 078-794-8080 (代表)

FAX 078-794-8084

E-mail phncenter@kobe-ccn.ac.jp

2022年度 新任保健師研修年間スケジュール

別紙1

時期			1年目	2年目	3年目	
月	日	時間/会場				
【合同研修】	6/29 (水)	会場	オンライン			
		10:30	災害時における保健師活動講義(60分) 質疑応答 講師: 県庁保健医療部			
		12:00				
参加申込み	7/4(月)		参加申込み締め切り			
事前課題	7/8(金)		事前課題(専門的能力評価表)提出締め切り			
【前期Ⅰ】	7/11 (月)	会場	オンライン			
		13:00	講義(個別支援)(90分) 質疑応答 講師: 神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏			
		15:00	休憩			
		15:10 16:30	課題の説明(60分) 質疑応答 講師: 県庁健康増進課			
	7/14 (木)	会場	オンライン			
		10:00	講義(地域診断)(90分) 質疑応答 講師: 神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏			
		12:00	休憩			
		13:00	課題の説明(60分) 質疑応答 講師: 県庁健康増進課			
		14:20 15:00	講義(地域連携)(90分) 質疑応答 講師: 神戸大学大学院 教授 和泉比佐子氏			
		15:10 16:30	休憩 課題の説明(60分) 質疑応答 講師: 県庁健康増進課			
	9/30(金)		研修課題(中間)提出締め切り			
	【前期Ⅱ】	10/17 (月)	会場	三宮研修センター		
			10:00	先輩保健師の講話(60分)		
			12:00	グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)		
			休憩			
13:00			グループワーク(120分)			
15:00			課題の共有・質疑応答・意見交換			
			休憩			
15:10			グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成			
15:40		全体発表(30分) 課題に取り組んでの気づき・学び・ 今後に向けて等				
16:10						
16:30		ファシリテーターから総評				
10/21 (金)		会場	兵庫県民会館			
		10:00	先輩保健師の講話(60分)			
		12:00	グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)			
		休憩				
	13:00	グループワーク(120分)				
	15:00	課題の共有・質疑応答・意見交換				
		休憩				
	15:10	グループワーク(30分) 全体発表の準備・資料作成				
15:40	全体発表(30分) 課題に取り組んでの気づき・学び・ 今後に向けて等					
16:10						
16:30	ファシリテーターから総評					

時期			1年目	2年目	3年目	
月	日	時間/会場				
【前期Ⅱ】	10/24 (月)	会場			兵庫県中央労働センター	
		10:00			先輩保健師の講話(60分)	
		12:00			グループワーク (日頃の活動の振り返り)(60分)	
					休憩	
		13:00			グループワーク(120分)	
		15:00			課題の共有・質疑応答・意見交換	
					休憩	
		15:10			グループワーク(30分)	
	15:40			全体発表の準備・資料作成		
					全体発表(30分)	
					課題に取り組んでの気づき・学び・ 今後に向けて等	
					ファシリテーターから総評	
	1/5(木)		研修課題(最終)提出締め切り			
【後期】	1/19 (木)	会場	兵庫県民会館			
		10:30	個別支援の実際(講話)(60分)			
		11:30	講師:中堅期以降の保健師			
			休憩			
		12:30	グループワーク(120分)			
		14:30	課題・研修全体を通して 学び等意見交換			
			休憩			
		14:40	グループワーク(30分)			
		15:10	全体発表の準備・資料作成			
						全体発表(30分)
						課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて
						ファシリテーターから総評
	1/23 (月)	会場	兵庫県民会館			
		10:30	地域診断の実際(講話)(60分)			
		11:30	講師:中堅期以降の保健師			
			休憩			
		12:30	グループワーク(120分)			
		14:30	課題・研修全体を通して 学び等意見交換			
			休憩			
		14:40	グループワーク(30分)			
		15:10	全体発表の準備・資料作成			
						全体発表(30分)
						課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて
					ファシリテーターから総評	
1/26 (木)	会場	兵庫県民会館				
	10:30	地域連携の実際(講話)(60分)				
	11:30	講師:中堅期以降の保健師				
		休憩				
	12:30	グループワーク(120分)				
	14:30	課題・研修全体を通して 学び等意見交換				
		休憩				
	14:40	グループワーク(30分)				
	15:10	全体発表の準備・資料作成				
					全体発表(30分)	
					課題や研修全体での気づき・学び・ 今後に向けて	
					ファシリテーターから総評	
事後課題	2/28(火)	事後課題(①研修事後アンケート及び②専門的能力評価表)提出締め切り				
2月下旬~3月		各所属の実情に合わせて、受講者へのフィードバック(個別指導、合同発表会等) ※必要時教員の派遣依頼も可能				

## 2022 年度 新任期保健師研修会実施状況

### 1. 合同研修

- 1) 日時:2022 年 6 月 29 日(水) 10:30~12:00
- 2) 開催方法:オンライン研修
- 3) 参加状況:170 名参加  
内訳:・新任期保健師 169 名  
(健康福祉事務所 47 名、政令・中核市 62 名、市町 60 名)  
・災害担当保健師 1 名
- 4) 研修内容:講義「伝える:災害時の保健活動」  
講師:兵庫県保健医療部
- 5) 研修結果アンケート:回答数 138 回答率 81.2% (結果は P26~33 参照)
- 6) 特記事項:本研修は、オンデマンド研修としても配信(内容は P117 参照)

### 2. 継続研修(採用年数別研修)

#### 1) 前期 I 研修(オンライン研修)

##### (1) 1 年目相当(個別支援)

- ① 日時:2022 年 7 月 11 日(月) 13:00~16:30
- ② 参加状況:86 名(新任期保健師 82 名、聴講者 4 名)
- ③ 研修内容:講義「個別支援」  
講師:神戸大学大学院 教授 和泉 比佐子 氏  
講義「1 年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課
- ④ 研修結果アンケート:回答数 76 回答率 92.7% (結果は P34~38 参照)
- ⑤ 特記事項:本研修の課題の取り組み方に関する講義は、オンデマンド研修としても配信(内容は P117 参照)

##### (2) 2 年目相当(地域診断)

- ① 日時:2022 年 7 月 14 日(木) 10:00~14:20
- ② 参加状況:59 名(新任期保健師 57 名、聴講者 2 名)
- ③ 研修内容:講義「地域診断」  
講師:神戸大学大学院 教授 和泉 比佐子 氏  
講義「2 年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課
- ④ 研修結果アンケート:回答数 46 回答率 83.6% (結果は P39~42 参照)
- ⑤ 特記事項:本研修の課題の取り組み方に関する講義は、オンデマンド研修としても配信(内容は P117 参照)

### (3)3年目相当(地域診断)

- ①日時:2022年7月14日(木) 13:00~16:30
- ②参加状況:40名(新任期保健師38名、聴講者2名)
- ③研修内容:講義「地域診断に基づく事業計画と評価について」  
講師:神戸大学大学院 教授 和泉 比佐子 氏  
講義「3年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課
- ④研修結果アンケート:回答数30 回答率83.3%(結果はP43~45参照)
- ⑤特記事項:本研修の課題の取り組み方に関する講義は、オンデマンド研修としても配信(内容はP117参照)

## 2)前期Ⅱ研修

### (1)1年目相当(個別支援)

- ①日時:2022年10月17日(月) 10:00~16:30
- ②場所:三宮研修センター 6階 605・601
- ③参加状況:103名  
内訳:・新任期保健師83名  
(健康福祉事務所19名、中核市26名、市町38名)  
・ファシリテーター20名  
(大学9名、健康福祉事務所3名、中核市6名、県庁2名)
- ④研修内容:・先輩保健師からの講話「2年目の保健師として伝えたいこと」  
講師:自治体 2年目 保健師  
・グループワーク「日頃の活動の振り返り」  
「課題の取組について共有・意見交換」
- ⑤研修結果アンケート:回答数63 回答率75.9%(結果はP46~50参照)

### (2)2年目相当(地域診断)

- ①日時:2022年10月21日(金) 10:00~16:30
- ②場所:兵庫県民会館 10階 福
- ③参加状況:68名  
内訳:・新任期保健師55名  
(健康福祉事務所15名、中核市15名、市町25名)  
・ファシリテーター13名  
(大学6名、中核市5名、県庁2名)
- ④研修内容:・先輩保健師からの講話「後輩保健師に伝えたいこと~これまでの保健師活動を振り返って~」  
講師:自治体 3年目 保健師  
・グループワーク「日頃の活動の振り返り」  
「課題の取組について共有・意見交換」
- ⑤研修結果アンケート:回答数29 回答率51.8%(結果はP51~55参照)

### (3)3 年目相当(地域連携)

①日時:2022年10月24日(月) 10:00~16:30

②場所:兵庫県中央労働センター 1階 小ホール

③参加状況:45名

内訳:・新任期保健師 36名  
(健康福祉事務所 9、中核市 11名、市町 16名)  
・ファシリテーター9名  
(大学 4名、中核市 3名、市 1名、県庁 1名)

④研修内容:・先輩保健師からの講話「新任期保健師に伝えたいこと」

講師:自治体 4年目 保健師

・グループワーク「日頃の活動の振り返り」

「課題の取組について共有・意見交換」

⑤研修結果アンケート:回答数 30 回答率 81.1% (結果は P56~59 参照)

### 3)後期研修

#### (1)1 年目相当(個別支援)

①日時:2023年1月19日(木) 10:30~16:00

②場所:兵庫県民会館 11階 パルテホール

③参加状況:101名

内訳:・新任期保健師 81名  
(健康福祉事務所 18名、中核市 26名、市町 37名)  
・ファシリテーター20名  
(大学 8名、健康福祉事務所 2名、中核市 8名、市 1名、県庁 1名)

④研修内容:・中堅期保健師からの講話「個別支援の実際について」

講師:兵庫県保健医療部健康増進課

・グループワーク「課題の取組について共有・意見交換」

⑤研修結果アンケート:回答数 63 回答率 77.8% (結果は P60~64 参照)

#### (2)2 年目相当(地域診断)

①日時:2023年1月23日(月) 10:30~16:00

②場所:兵庫県民会館 10階 福

③参加状況:67名

内訳:・新任期保健師 54名  
(健康福祉事務所 15名、中核市 15名、市町 24名)  
・ファシリテーター13名  
(大学 5名、中核市 5名、市 1名、県庁 2名)

④研修内容:・中堅期保健師からの講話「地域診断の実際について」

講師:自治体 中堅期保健師

・グループワーク「課題の取組について共有・意見交換」

⑤研修結果アンケート:回答数 35 回答率 64.8% (結果は P65~71 参照)

### (3)3年目相当(地域連携)

①日時:2023年1月26日(木) 10:30~16:00

②場所:兵庫県民会館 10階 福

③参加状況 42名

内訳:・新任期保健師 33名

(健康福祉事務所 15名、中核市 15名、市町 24名)

・ファシリテーター9名

(大学 5名、中核市 5名、市 1名、県庁 2名)

④研修内容:・中堅期保健師からの講話「PDCAに基づく保健活動の実際 特定健診・保健指導の実践例から」

講師:自治体 中堅期保健師

・グループワーク「課題の取組について共有・意見交換」

⑤研修結果アンケート:回答数 30 回答率 90.9% (結果は P72~76 参照)

## 4)フィードバック研修(講師派遣調整)

### (1)洲本市新任期保健師研修会

①日時:2023年3月1日(水) 13:30~16:00

②場所:洲本市みなと元気館 2階 多目的室

③参加状況:10名

(新任期保健師 3名、指導保健師 3名、人材育成担当 3名、トレーナー保健師 1名)

④研修内容:・話題提供「新任期保健師研修の振り返り」

講師:神戸市看護大学いちかんダイバーシティ看護開発センター  
特任講師 磯濱 亜矢子 氏

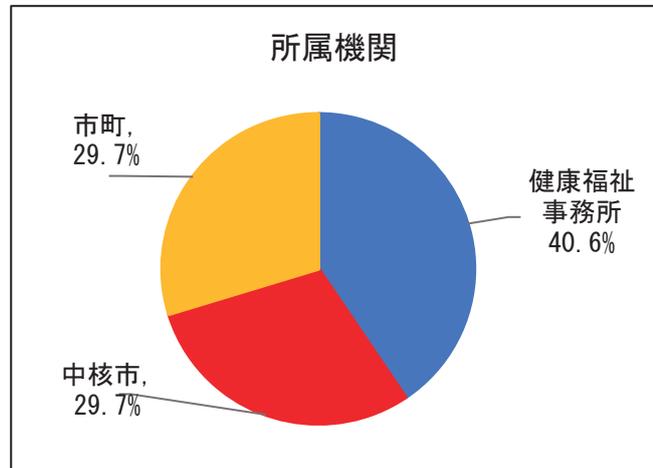
・グループワーク「今後の課題や取組について」

研修参加者：170名 アンケート回答者数：138名 回答率：81.2%

I. 研修参加者の状況

1. 所属機関

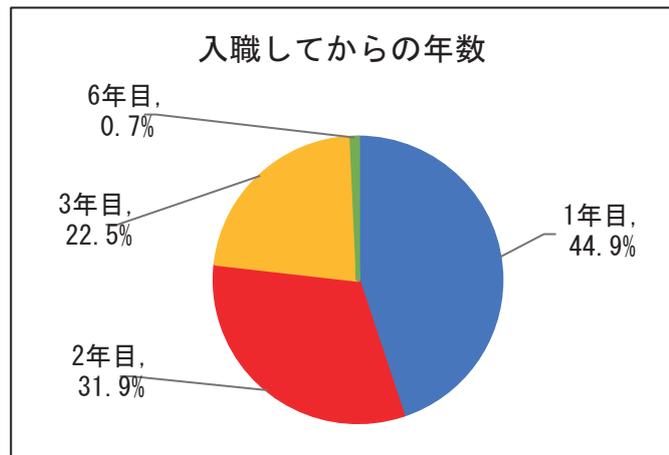
	人数	割合(%)
健康福祉事務所	56	40.6
中核市	41	29.7
市町	41	29.7



2. 現職場に入職してからの年数

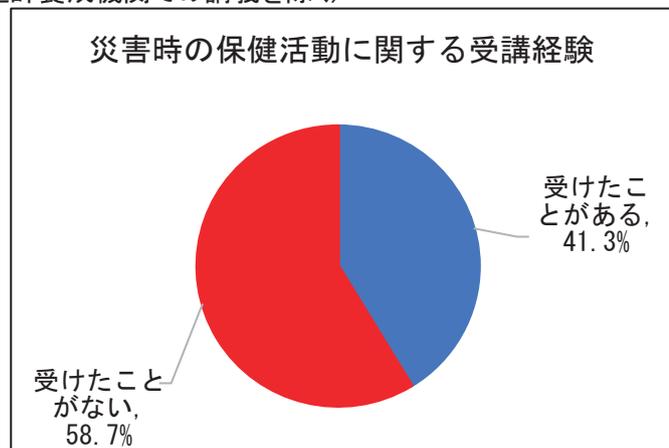
	人数	割合(%)
1年目	62	44.9
2年目	44	31.9
3年目*	31	22.5
6年目	1	0.7

※「3年目（産休育休1年半含む）」と回答した1名を含む



3. 災害時の保健活動に関する受講経験(保健師養成機関での講義を除く)

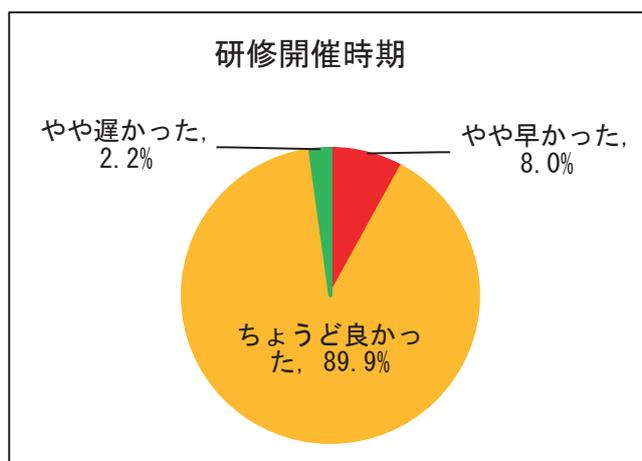
	人数	割合(%)
受けたことがある	57	41.3
受けたことがない	81	58.7



## Ⅱ. 講義について

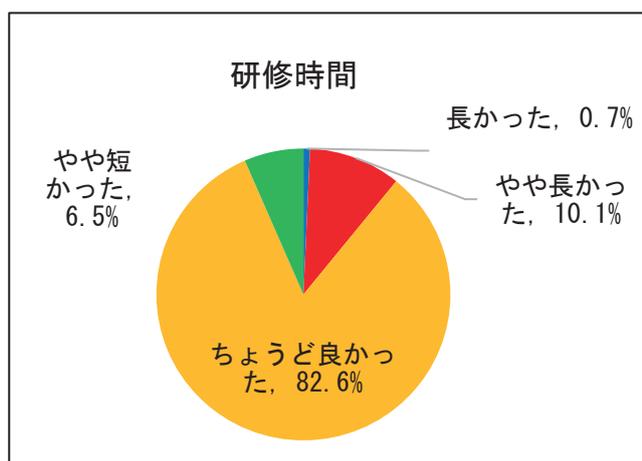
### 1. 研修開催時期

	人数	割合(%)
早かった	0	0.0
やや早かった	11	8.0
ちょうど良かった	124	89.9
やや遅かった	3	2.2
遅かった	0	0.0



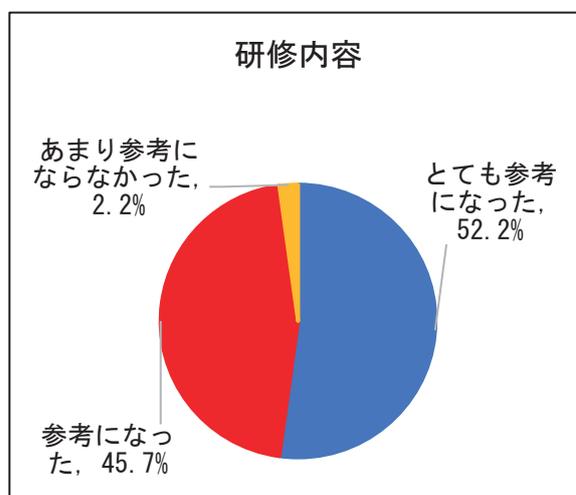
### 2. 研修時間

	人数	割合(%)
長かった	1	0.7
やや長かった	14	10.1
ちょうど良かった	114	82.6
やや短かった	9	6.5
短かった	0	0.0



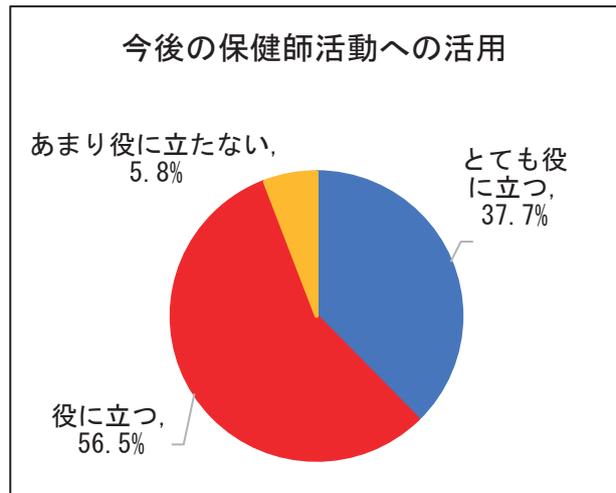
### 3. 研修内容

	人数	割合(%)
とても参考になった	72	52.2
参考になった	63	45.7
あまり参考にならなかった	3	2.2
参考にならなかった	0	0.0



#### 4. 今後の保健師活動への活用

	人数	割合(%)
とても役に立つ	52	37.7
役に立つ	78	56.5
あまり役に立たない	8	5.8
役に立たない	0	0.0



**社会人経験についてお尋ねします。看護職の前歴がある方は職種と通算経験年数を教えてください。  
(回答者数 71 人、%は回答者数のうちの占める割合)**

看護師 3 年未満	8 人 (11.3%)
看護師 3 年以上	25 人 (35.2%)
保健師 3 年未満	2 人 (2.8%)
保健師 3 年以上	6 人 (8.5%)
助産師 3 年未満	0 人 (0%)
助産師 3 年以上	5 人 (7.0%)
看護師+保健師	19 人 (26.8%)
看護師+助産師	1 人 (1.4%)
保健師+助産師	0 人 (0%)
その他 (看護教員含む等)	5 人 (7.0%)

**問 4 で、「とても役に立つ」「役に立つ」と回答された方にお尋ねします。  
どのように役に立つと思われたのか具体的にご記入ください(主な意見の抜粋)**

平時からの活動の重要性の再認識	改めて、平時の保健活動の大切さを感じることができました。地域の人に保健師として認識してもらうことも、活動の一部なのだと知ることができました。
	平時の業務が活かされるという参事のお話にとっても共感致しました。
	平時から災害時への対策の必要性がわかりました。業務を行う際に災害時を意識することや、日頃からの地域との連携づくりに努めていきたいと思えます。
	災害に備えて、平時の取り組みが重要と改めて感じた。これからの平時の取り組みで災害の視点を大切にしようと感じた。
	いつ発生するか分からない災害で保健師として十分な働きが出来るのか不安があったが、日頃の保健師活動をきちんと行う事が重要であると学ぶことが出来て良かった。災害時の保健師活動も平時とかわらず心身の健康維持等であり、どのような活動をすれば良いのかという漠然とした不安も解消された。
	平常時からの取り組みが重要ということを再認識できた。普段の訪問や研修会で住民と出会ったり、業務で地域の支援者と出会うことも、顔の知れた関係ということで緊急時にも役立っていくのだとふりかえりました。
	災害はいつどのように発生するかわからないが、それに備えて平時から意識していくことの必要性を実感できました。今、行っている業務や市民の皆様との関りが災害時にはどの様になっていくのかを日々意識しながら災害に対しての自身の心構えを持っていきたいです。” 災害時には普段以上はできない” という言葉をこころに留めて、知識や技術を身につけていきたいです。
	普段活動する中で災害について意識はしていなかったもので、災害を意識した平時の活動をすることか地域への理解になり、災害時にも役立つと思うため。
普段の保健活動を丁寧に行っていくことが災害保健活動にもつながることを認識できたこと。また、コロナや普段の業務に追われ、災害マニュアルを簡単にしか読めていなかったためきちんと読む必要があることを認識できたこと。	

災害時における具体的活動内容の理解	平時にできることというのを、具体的に改めて認識することができ、災害時のイメージを持つこともできた。
	災害時の保健活動について具体的にイメージ出来ました。
	保健師一年目にできること、備えることが明確かつ具体的でわかりやすかった。
	新任期で災害時支援の経験がないため具体的にどのようなことをすればいいのかわかった。
	実例を挙げた研修で、イメージが付きやすかった。
	普段からの保健活動が災害時対応に繋がるという事や保健福祉のトリアージを知っておく事で災害時に認知症の方や車椅子の方などその人にあった避難場所へ案内できると感じたため。
	災害を経験したことがないので、実際の活動を聞くことができ参考になりました。災害の話を聞く機会は多くないので、貴重な時間でした。
今後の保健活動に活かせる視点の気づき	現時点では、訪問活動等の活動を行っていない部署で勤務しています。健康管理支援事業として今後訪問活動を開始する予定ですが、そのためにどのような学習を行っていけばよいのか悩んでいたタイミングであったので、一つの方向性としてとても学びになりました。
	保健師として必要なスキルについて学ぶことができた。
	日々の保健師業務に活かせる内容だった。
	自部署での対応について考える機会になりました。
	現在のガイドラインに目を通して災害に備える
	実際に災害の現場に行ったことがないなかで、経験からの説明が中心だったため、する必要があることが分かりやすかったため。

災害等の健康危機管理時の保健活動の理解を深めるために、今後、研修で学びたいことや取り入れてほしい内容をご自由にご記入ください。	
役割やマニュアルに関すること	業務や役割別での災害時の対応について詳しく学びたい。 各行政で使われているマニュアル（地域、個別）が知りたい。
保健師の具体的活動に関すること	応援時の持ち物や、避難所活動をする際の持ち物等、経験しないとわからない具体的なことも知りたいと思いました。
	災害時、保健師活動の具体的な1日の流れ、被災地での体験談を聞いてみたい。
	保健活動で困ったことなどを聞けるとイメージしやすかった。
	重点的に学んでおくとよい分野を知りたい。
	健康危機管理の具体的な活動（例えば衛生管理の方法、プライバシーの確保、安全管理、心のケアの方法など）を知りたいです。
	災害時の感染症対策
	こころのケアへの実際の対応
	病院とは違いフィジカルアセスメントを使用する機会が行政は少ないため、災害時の巡回等をするときに困難感が生じると不安もある。災害時に特徴的な身体症状や支援方法、医療につなぐポイントなど学びを深めていかなければならないと思います。市町の災害対策についても学びを深めたい。

事例検討（個別事例）	災害時保健の事例を基にグループワークを取り組みたい。
	困難事例に対して具体的にどのように対応していたのか学びたいです。
	全体の流れや重要な視点を今回の研修で学べたため、実際の事例（対象者の発見、問題点、どのように対応を行ったか）を学びたい。
事例検討（連携）	災害時、どんな職種の方々とどのように協働していくのか具体的な事例を交えながら教えていただきたいです。
	災害時に具体的に何から始めたらよいのか、また他の職種との連携をスムーズに行う方法について過去の実例を交えてお話を聞きたい。
トリアージ	避難所での事例を取り上げてトリアージの方法やコミュニケーションの取り方について
	福祉避難所等への避難が必要だという判断の基準。簡単な事例検討等
	災害時の心のケアや保健師のトリアージについてなど一つに絞って具体的にどういった手法で、どのような観察点を持ち、関わるか、具体的なことが知れたらと思いました。
	危機管理アセスメントの仕方
	福祉的トリアージについては初めて聞く視点であり、保健師として避難所全体の事を考える大切さを知った。ただ身体的トリアージも災害時には必ず必要と考えるが、臨床の経験があってもトリアージはしたことが無いため不安に思う。地域とのつながりは平時から築くことができても、フィジカルアセスメント等はトレーニングの機会がないため研修があればありがたい。
保健師への支援	子供がいらっしゃる方が災害時の保健師活動に従事するにあたり、どのようなことを配慮してやってきたのか、具体例を教えてください。
	保健師が PTSD になってしまった時の対処方。
	自身のメンタルヘルスもどのように保たれたのか。
実習・演習	より具体的な活動内容の説明、実習など
	実際どこかの市町村でシミュレーションをすれば、もっと具体的なイメージがつくと思います。
	初動が一番戸惑いかつスピードを要求されるのではないかと思いますので、そこをイメージできるような研修。
	全体的な災害フェーズで何を行ったのかよくわかった。応援に行った方がどのフェーズで、どんな活動をしたのか、もう少し詳しくきいてみたい。
	実践型演習で学びたい。

新任期研修で、今後、研修で学びたいことや取り入れてほしい内容をご自由にご記入ください。	
分野別： 感染症に関すること	結核保健指導、感染症対応について法的根拠と一緒に始めの方に研修してほしい。 新型コロナ対策について。保健師の役割と感染した病院、企業、個人に対する具体的な指導法 新型コロナウイルスの対応と現在の状況を学びたいです。
分野別： 母子保健に関すること	母子保健事業（妊娠期から出産・育児を通して母親の心のケア） 乳幼児の発達について 心理学、発達心理学をベースとしたアセスメント方法や支援について 乳幼児の発達、精神疾患を持つ母親の育児支援など、母子保健活動に必要な知識が得られる研修があればと思います。 災害時の母子保健事業の実施について知りたい。 発達障害を抱える家族の支援について
分野別： （共通または一部意見）	各分野(精神、難病、母子、感染症等)において、保健師として大切な姿勢や考えを、もう少し早い時期に学びたい。業務への取り組み方がわからず、入職1,2ヶ月程、戸惑いばかりだったので、講義を聞きたいと思った。 精神、難病の対象者が利用できるサービスと、サービスにつなげるための保健師の役割について 健康づくり（働き盛り世代へのかかわりかた）
事例検討（困難事例含む）	個別ケースの困難事例に対して支援を検討する事例検討を取り入れていただきたいです。 母子や成人、精神等、実際にあったケースを取り上げて、このようなケースにはこうして対応したという事例を共有することができれば、今後の活動時に参考になると思いました。 事例検討会等で同じ事例でどんなところが観察ポイントか、どんな質問をするか、一緒に考えてみたいです。他の人がどんなことに気をつけて面談や訪問をしているのか、どんなアセスメントをしているのかを知りたい。それに対してのフィードバックをいただけると嬉しいです。
先輩の講話	先輩方の1年目の時の思い。不安だったことやどう乗り越えてきたかなど身近な話が聞ける機会があれば。 先輩保健師の新任時の経験
保健師のキャリアに関すること	保健師のキャリアについて聞いてみたい。コロナで同期や年齢の近い保健師との繋がりが薄れ、情報交換がしにくい。 他職種と比較したときに保健師に求められている役割。保健所以外にいる保健師にも適応できる話が聞きたいです。
その他	保健師のメンタルのセルフケアについて 傾聴・コミュニケーションの技術 保健師として対象者と関わる上で必要な視点やスキルについて学びたい。 行動変容を促すための技術について、他の学問等も交えながら学ぶことができる機会があれば嬉しいです。 統計情報の活用

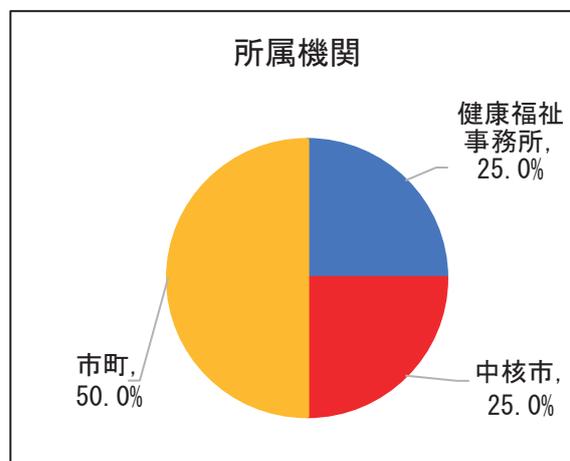
**研修全体を通して学んだことや、感想などをお聞かせください。**

<p>保健師活動の振り返り (災害時を中心に)</p>	<p>今回、研修を受けるとき最初は研修を受けるのはまだ早いのではという思いがありました。しかし、研修を受ける中で保健師として市民の皆様と関りをもち活動していく上で必要な研修内容であると思いました。平時から備えることの必要性も再認識でき、研修を受けてよかったと思いました。今、様々な制度や業務について学びと実践を行っています。市民の皆様より良い生活を第一に考え、様々な状況下の中でも支援が行えるように自己の学習を深め、経験を積んでいきたいと思います。</p> <p>保健師の活動は、災害だからといって特別ではないこと、保健師の活動の原点はすべての人々の命を守る事だと、改めて勉強になりました。</p> <p>今の仕事を丁寧にする。専門性をみにつける事が災害時にも役立つとあって頂いたのが、心強かった。その反面、業務分担制で保健師活動をおこなっており、地区分担となった際に、他の分野の対応をどのようにすればいいのか。まずは、ニーズや分からない事は持ち帰る対応だとはおもうが、災害時では、分からない事を周囲にきけるのかどうかも、少し不安に思いました。</p> <p>入庁してから災害に関する研修や指導はなかったためとても勉強になりました。平時からの備えが大切であり、特に妊産婦や子供、高齢者や難病や障害を持つ方などはそれぞれが対応できるように話し合っておくことが大切だとわかりました。また、状況によっては被災者であり支援者でもあるため覚悟が必要であると学びました。勤め先と居住地の市が違うため近所の方々よりも勤め先の市民を支援するのは葛藤があるなど感じました。</p> <p>被災体験がないため、支援に関わっていけるのか不安だった。日常的な支援の延長上であるということが、保健師活動のモチベーションに繋がる上、自分も役に立てると言う裏打ちになって、講義を受けてよかったと思いました。</p> <p>阪神淡路大震災と東日本大震災の両方についてきけたので、災害の種類・時代・地域による違いも含めて勉強になりました。</p> <p>保健師自身も被災している中でも、周囲との信頼関係を活かして地域を支援する必要があるため、日頃からの支援体制の構築や関係機関との連携が災害時に役に立つと学んだ。また、被災地が経験を伝えていくことで、前回からの反省をいかしていくことができると学んだ。</p>
<p>保健師活動全般の振り返り (全般)</p>	<p>看護師視点での見方をしているだけではなく、保健師視点でも見方が出来るように、平時業務を意識して行っていきたいと思います。</p> <p>医療の分野とは違い、保健の分野では地域のリーダーとして様々な活動が必要であることが理解できた。今回の研修での学びを活かしていきたい。</p> <p>通常業務に追われてしまいなかなか地域全体を見た保健活動ができていないため、研修の機会を通して今一度業務の優先順位や目的を見直したいと感じた。</p> <p>市の保健師としての経験はあるものの、新任期研修は初心に戻って保健師活動を頑張りたいと思う内容だった。中堅期の保健師が改めて新任期の研修を受けてもとてもためになったと思う。</p>
<p>その他</p>	<p>コロナ禍で新任期研修がオンラインとなり横のつながりが少なかったですが、今年は研修機会が多いため学びながら知り合いを増やしていけたらと思います。</p>

研修参加者：82 名 聴講：4 名 アンケート回答者数 76 名（回答率 92.7%）

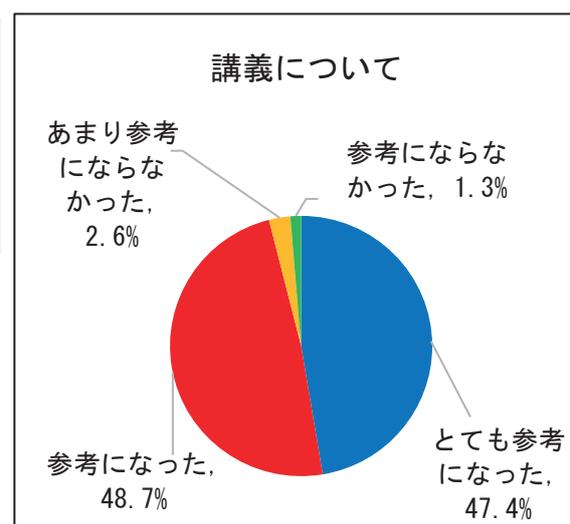
### 1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	19	25.0
中核市	19	25.0
市町	38	50.0



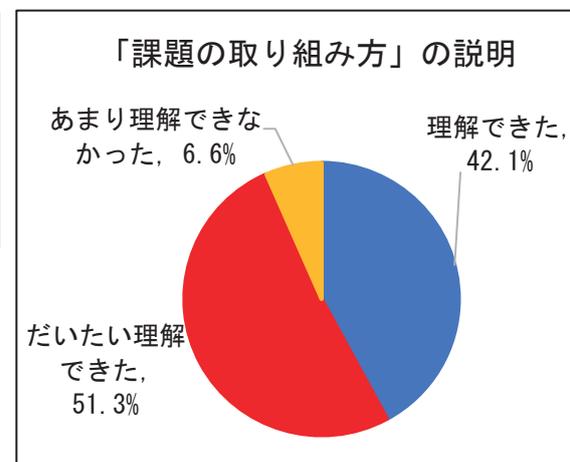
### 2. 講義「個別支援」について

	人数	割合(%)
とても参考になった	36	47.4
参考になった	37	48.7
あまり参考にならなかった	2	2.6
参考にならなかった	1	1.3



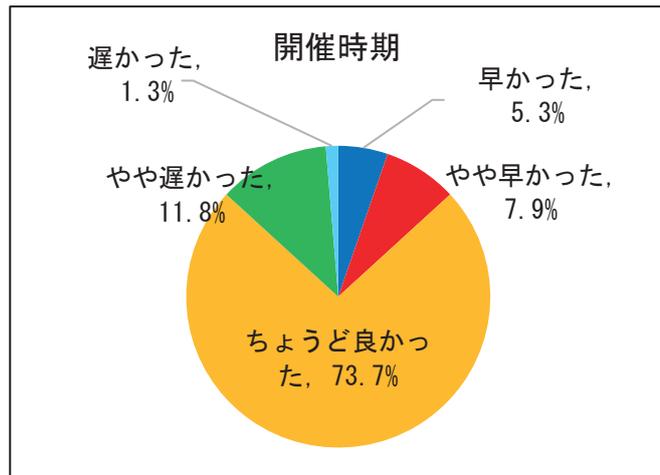
### 3. 「課題の取り組み方」の説明について

	人数	割合(%)
理解できた	32	42.1
だいたい理解できた	39	51.3
あまり理解できなかった	5	6.6
理解できなかった	0	0.0



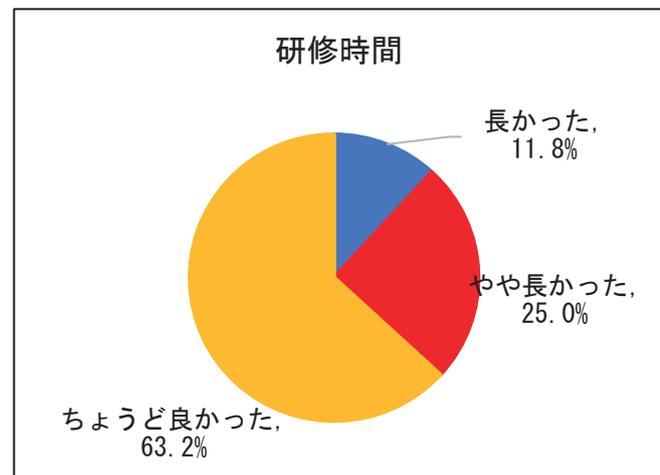
#### 4. 研修開催時期

	人数	割合(%)
早かった	4	5.3
やや早かった	6	7.9
ちょうど良かった	56	73.7
やや遅かった	9	11.8
遅かった	1	1.3



#### 5. 研修時間

	人数	割合(%)
長かった	9	11.8
やや長かった	19	25.0
ちょうど良かった	48	63.2
やや短かった	0	0.0
短かった	0	0.0



講義「個別支援について」で、そのように思われた理由をご記入ください。(主な意見の抜粋)	
アセスメントの理解 振り返り	アセスメントの仕方や、情報収集の視点まで詳しく説明していただき、とても理解しやすかったため。
	情報収集の枠組やアセスメントの観点など新任保健師として知りたかったことを知ることができたから。
	特に家族アセスメント・支援について必要性やその方法について新しく知ることが多かったです。
	何となく感覚で訪問して、大体で枠組みを使いアセスメントしていたが、理論の指標があることで判断や思考の整理になると感じたため。
	個別支援について漠然と考えていたことが、エビデンスを持ってアセスメントする視点を持って改めて振り返り、学ぶことができました。
個別支援の理解 振り返り	個別支援のアセスメントの方法や計画の立案の方法、個別支援のプロセスがわかりやすかった。
	個別支援する上で必要な知識や視点を学ぶことができたため。
	個別支援するにあたってどのような視点を持って対象者と関わらべきかが見えてきたため。
	個別支援時に使う理論やコミュニケーションのポイントが理解できた。
看護過程の理解 振り返り	具体例を示しながら、一年目の多くが疑問に思うことや陥りやすいパターンについて説明があり、保健師の看護過程についてわかった。
	大学で学んだどの理論や看護過程が参考になるかなども教えていただきわかりやすかったから。
	看護過程が地域にも応用でき、家族の理論などどのように活用したら良いか理解出来た。
知識や業務の振り返り	基礎的な知識を振り返ることができました。
	日々のケース対応の中で、個別のケースについて丁寧に PDCA サイクルを意識して関わっていないことを改める機会となったため。
	大学で勉強したことの復習になり、大変ためになったから。
	これまで仕事をしてきた中で実践してきたものを理論的に振り返ることが出来たことと、看護師視点で行ってきたことを保健師視点で学びなおすことが出来たため。
家庭訪問の意義信頼関係の構築の重要性の再認識	訪問の大切さがわかったため。
	家庭訪問は、何回でも行けるわけではなく、信頼関係を築いたり、情報収集の大切な機会であり、その家庭訪問について、よりよく行える方法や考え方を知ることができたので。
	保健指導では信頼関係が重要であることが理解できた。

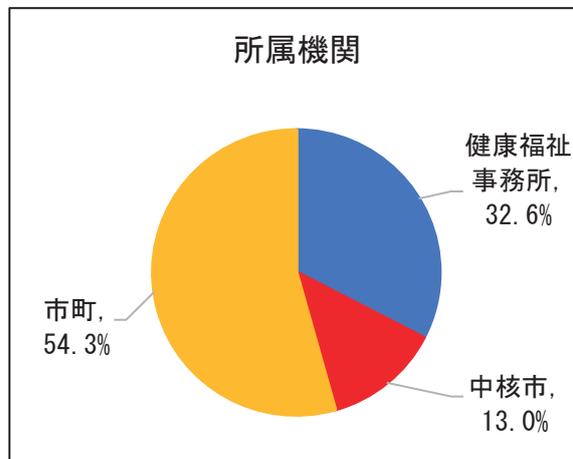
『『課題の取り組み方について』の説明について』で、そのように思われた理由をご記入ください。 (主な意見の抜粋)	
実際の様式を用いた説明	訪問支援計画や関連図の書き方について詳しく説明してもらえたため。
	参考資料をみても分かりにくかったので、今回説明があつてよかった。
	実際の資料を使って説明してくださったためわかりやすかったです
	説明いただけたおかげで、課題をどのように進めると良いか想像できたため良かった。録画しているため、個人情報を出すことが難しいと思うが、昨年の先輩の課題の見本等を見せていただけるとより良かったと思う。
	アセスメントの視点や構成要素など分かりやすく説明していただいたため。
課題の取り組み方の理解	図を用いてジェノグラム等の説明がありわかりやすかった
	課題の意義を理解することができたから。
	課題を進めていくにあたり、重要な点を学ぶことができました。
	課題の目的や進め方等一連の流れを知ることができたため
	今後、すべきことが明確になったため。
課題に取り組む上での不安	実際に取り組んでいないのであまりイメージができない。
	説明は分かりやすかったですが、実際にやると迷いそうと思いました。
	流れとしての理解は大体できたと思うが、実際に自身のケースにあてはめる時に不明な点などが出てくると思う。
課題と家庭訪問の関連	課題のために訪問する感じがある
	家庭訪問が業務のなかで主としてあつて当然という前提で話されている印象を受けました。
	家庭訪問がないので、どのように課題に取り組めば良いのかわからない。

研修全体を通しての感想などをご自由にご記入ください。	
家庭訪問（個別支援）の理解	個別支援を実施するために必要な知識や、支援方法を書き出すことの重要性を学ぶことができた。
	家庭訪問の大切さ、学びの大きさ、保健師としての一番の支援方法である事を改めて感じました。
対象者の理解とアセスメントの重要性	対象者を理解するために様々な視点から対象者を見ることが出来るように知識を深めることと、まず信頼関係を結ぶことの大切さを再認識できました。
	家族がいる場合の行動的な側面アセスメントでは、着替えという動作一つとっても、その着替えを用意したのは誰か、選択は誰がしているのかなど、誰がどの部分の家事を行なっているのかを知ることが対象者のセルフケアがどこまで出来ているのか知る指標にもつながると学んだ。
	個別支援として、対象者にどのような視点で関わるべきか、アセスメントするにはどのような情報が必要かを改めて考えることが出来ました。
信頼関係構築の重要性	まず、信頼関係を築き、情報収集を行い、よりよい支援につなげていくためにも、本日の学びを活かしたいと思いました。
	対象者を理解するために様々な視点から対象者を見ることが出来るように知識を深めることと、まず信頼関係を結ぶことの大切さを再認識できました。
課題としての個別支援の取組に関する意見	家庭訪問のケースが少なく、一回きりとなるため、評価できず、課題が不安である。
	家庭訪問を実施する意義については理解できますが、コロナ禍で訪問を断られるかどうかについては社会情勢やそのときの対象者の状況にもよるため、計画の段階で判断することは困難なので、なかなか難しいなと思いました。
	研修の内容についてはとてもよい学びになりました。"
	研修の内容は非常に有意義で、時期も丁度良かった。ただ、なかなか継続的に家庭訪問に行くことができるケースもあまりないので、家庭訪問に行くケースで1年目の保健師研修はやらないといけないということを、もう少し早めに把握したかったなと感じた。
	個別訪問がない部署なので、研修内容と今の仕事内容との差があると感じています。基礎的な内容とのことなので、しっかりと身につけたいと思います。
	講義や課題の取り組み方は理解できたが、家庭訪問を全員ができるわけではないので、別の方法も提示してほしかったです。
その他	家庭訪問の楽しみを見つけないと思った。
	保健師の根本として個別支援が楽しくできるようになりたいと思いました。

研修参加者：57 名 聴講：2 名 アンケート回答者数 46 名 (回答率 83.6%)

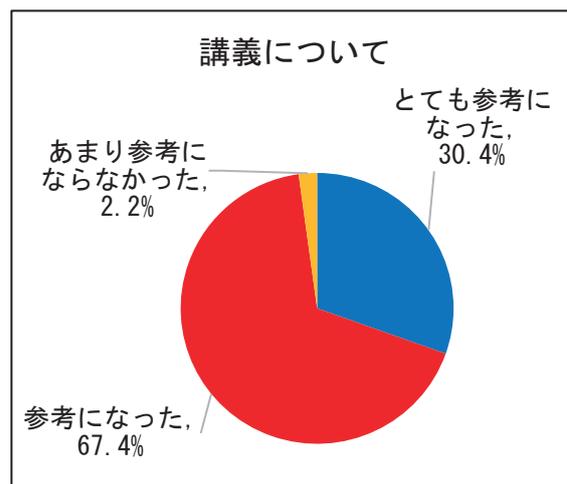
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	15	32.6
中核市	6	13.0
市町	25	54.3



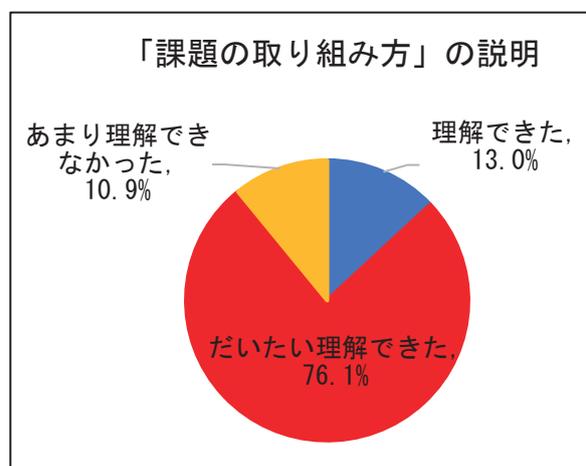
2. 講義「地域診断」について

	人数	割合(%)
とても参考になった	14	30.4
参考になった	31	67.4
あまり参考にならなかった	1	2.2
参考にならなかった	0	0.0



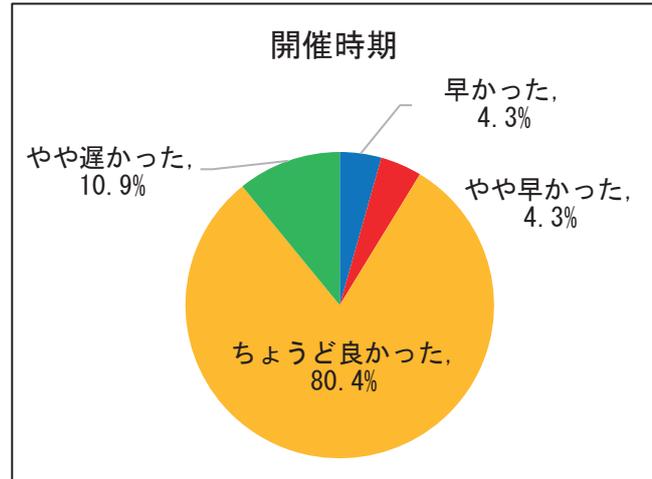
3. 「課題の取り組み方」の説明について

	人数	割合(%)
理解できた	6	13.0
だいたい理解できた	35	76.1
あまり理解できなかった	5	10.9
理解できなかった	0	0.0



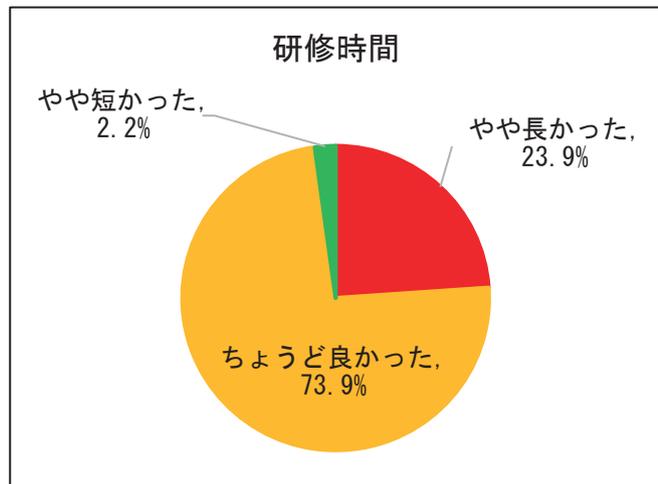
#### 4. 開催時期

	人数	割合(%)
早かった	2	4.3
やや早かった	2	4.3
ちょうど良かった	37	80.4
やや遅かった	5	10.9
遅かった	0	0.0



#### 5. 研修時間

	人数	割合(%)
長かった	0	0.0
やや長かった	11	23.9
ちょうど良かった	34	73.9
やや短かった	1	2.2
短かった	0	0.0



講義「地域診断について」で、そのように思われた理由をご記入ください。(主な意見の抜粋)	
地域診断の理解 (復習)	サブシステムや対外システムなど、地域の外との関連も見なければならぬことなどを学び、地域診断における視野が広がったため。
	地域の分析の手段や概論が分かった。
	具体例も交えながら説明していただいたので、イメージしやすかったです。
	地区診断の概要や、今回取り組む点について再確認できた。
	地域診断は学校でも学ぶ機会はありませんでしたが、データベースアセスメント等のアセスメントの種類やデータ収集方法、健康課題を構造化することで潜在している健康課題の把握の仕方等具体的に詳しく教えていただいたのでわかりやすかったです。情報の種類や活用の仕方等も様々でややこしいと思うこともありますが、丁寧に情報を分析していきたいと思います。
	大学で学んでから数年経過し、地域診断の方法を再度思い出すことができたから。
	地域診断でどのようなデータが必要かがわかったから。
	学生時代に学んでから10年以上が経つので、改めて講義いただけて、復習になり良かったです。
学生時に勉強していることだが、知識や実際の分析方法が曖昧になっていたので振り返りの機会になった。学生時代に学んだことと大きく違いはないはずだが、短時間のため理解が追いついていない部分がある。	

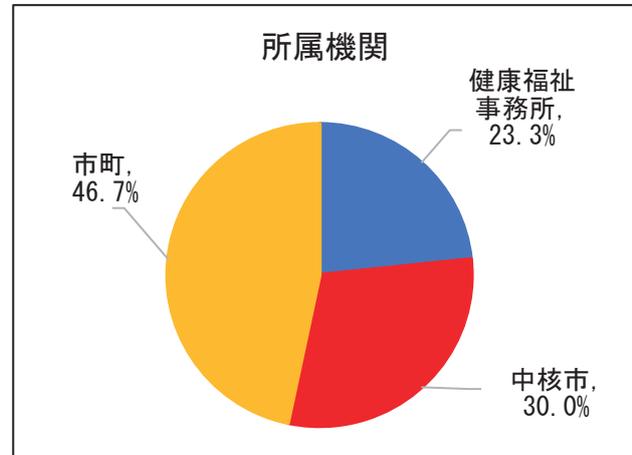
『課題の取り組み方について』の説明についてで、そのように思われた理由をご記入ください。(主な意見の抜粋)	
課題の取り組み方の理解	どのように課題を進めていけばよいのか知ることができた。
	記入方法が不明であったところが明確にできたから。
	複数のデータベースを紹介していただいたため。
	昨年度の先輩の課題を参考にさせていただいたので、それを見ながら説明していただいて、具体的なイメージができました。
課題の様式について大まかにはわかった。実際に記入する中で不明な部分についてはプリセプターや先輩保健師に確認、相談しながら進めていきたいと思う。	
課題に取り組む上での不安	まだ課題に着手していないのでイメージが湧きにくかった。
	なんとなくの概要は掴めたが、やってみてから出てくる疑問もありそうで、少し不安です。
	様式に情報等を当てはめるとき混同しそうだなと思いました。しかし様式を埋めていく順番やその欄に該当する情報を具体的に教えていただいたので、今把握している情報から落とし込んでいきたいと思います。
	事例を口頭で示していただいたので、各様式に記入することが理解できた。取組例を示していただけると、よりわかりやすいと思う。(事務所で先輩の記入例を見せてもらい理解できた)
質疑応答で不明な点を知れた。書き方、取り組み方の例などを資料に載せていただくと更に分かりやすかったと感じた。	

研修全体を通しての感想などをご自由にご記入ください。(主な意見の抜粋)	
研修の意気込み	地域診断の視点やその上でのデータなど知ることができた。今回の研修を通し、地域の課題を抽出し、今後にかかしていきたい。
	地区診断について、基本に戻って学ぶことができ、再確認出来ることが多く有意義であった。地域課題を抽出し、地域ニーズに合った事業を展開していけるよう、課題に取り組んでいきたい。
	個人的に地域診断は苦手な情報のどこまで把握すればいいのかわかりにくいなと思うところがありました。ですが就職し、地域や事業に携わる中でこういう情報が欲しいとか、このところについて担当地域はどういう対策や方法をとっているのだろうと、自然に欲しい情報について考えられる機会が増えましたと思います。今回の研修で自分の疑問点や地域の課題を可視化できることにつながるため、じっくり考えながら取り組んでいきたいです。
	課題は少し負担に感じてしまいますが、今年度は細かく研修が設定されており、とてもわかりやすいです。学生時代に学んでから年数が経過していることもあり、改めて学ぶ機会となっており、とても助かります
今後の学びとして希望すること	具体的な分析方法についてもう少し学びたいです
	課題の説明について、もう少し具体的な記載方法を提示してもらえたらありがたいです。(ウェブでの研修でイメージがしにくいところもあったので)
課題としての地域診断の取組に関する意見	所属の部署、業務が基本的に市民の方と関わる、声を聞くという機会がほとんどないため、地域を知る一番の方法が、市民さんと関わることというお話を受け、課題が取り組みにくいと思ったのと同時に、きちんと地域を知ることができていないのではないかと自信がなくなりました。
	感染症部門では、コロナの影響で入院中患者への面談は面会禁止でかなわず、自宅訪問もほとんどできていない。また、事業が軒並み中止となっており、昨年度入庁した身では事業のイメージもつかず、訪問もできず、地域の情報を吸い上げるのが非常に難しい。先輩方に指導いただきながら取り組んでいきたい。
研修方法に関すること	チャットで質問を思いついたときに入力できるのでよかったです。
	Zoom研修は移動がなく楽ではあるが、やはり質問がしにくい。
	コロナで業務が煩雑になる中、オンライン研修で移動時間短縮になりよかったです。

研修参加者：38 名 聴講：2 名 アンケート回答者数 30 名 (回答率 83.3%)

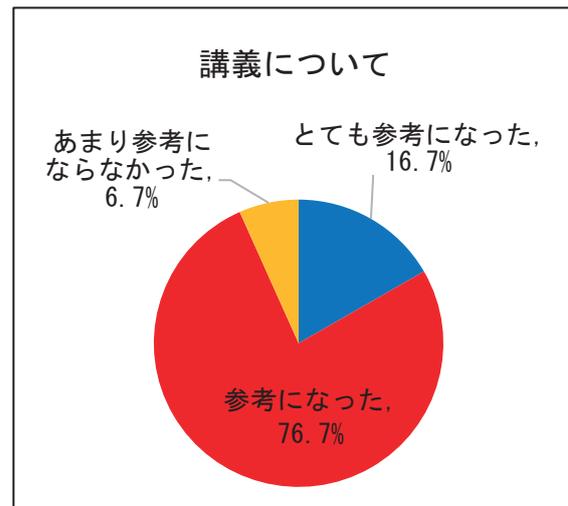
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	7	23.3
中核市	9	30.0
市町	14	46.7



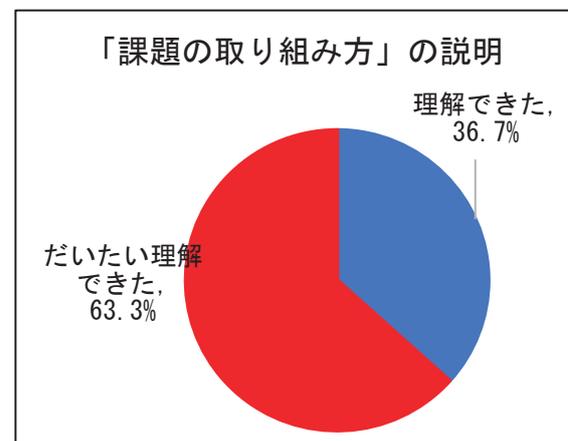
2. 講義「地域診断に基づく事業計画と評価」について

	人数	割合(%)
とても参考になった	5	16.7
参考になった	23	76.7
あまり参考にならなかった	2	6.7
参考にならなかった	0	0.0



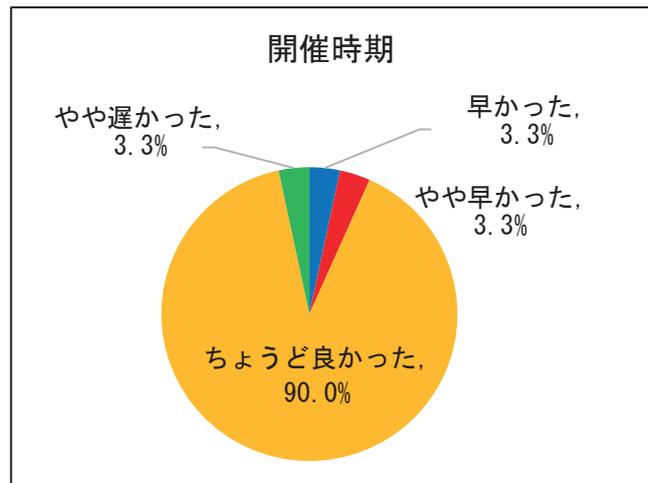
3. 「課題の取り組み方」の説明について

	人数	割合(%)
理解できた	11	36.7
だいたい理解できた	19	63.3
あまり理解できなかった	0	0.0
理解できなかった	0	0.0



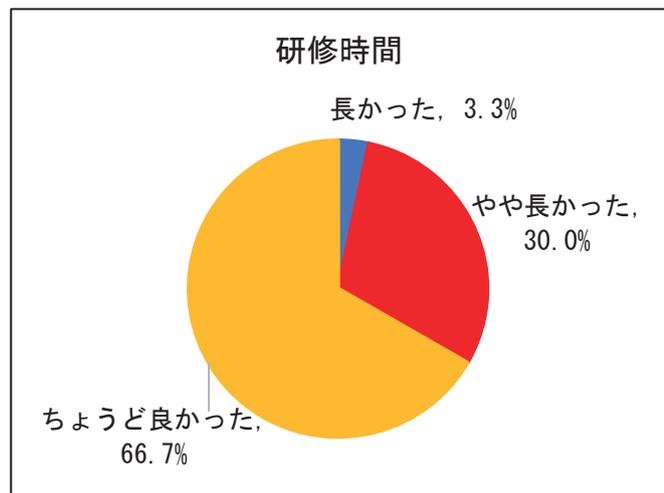
#### 4. 開催時期

	人数	割合(%)
早かった	1	3.3
やや早かった	1	3.3
ちょうど良かった	27	90.0
やや遅かった	1	3.3
遅かった	0	0.0



#### 5. 研修時間

	人数	割合(%)
長かった	1	3.3
やや長かった	9	30.0
ちょうど良かった	20	66.7
やや短かった	0	0.0
短かった	0	0.0



講義「地域診断に基づく事業計画と評価について」で、そのように思われた理由をご記入ください。 (主な意見の抜粋)	
健康課題と行政課題の理解	課題を考える時に、人々の健康課題と行政課題を分けて考える必要があると理解できた。講義を受講し、もっと様々な視点で考える必要があると感じた。
事業評価について (統計の活用含む)	事業評価の種類や考え方、統計的検定について等、課題作成にそのまま繋がる内容だったので、分かりやすかったです。
	事業の目標設定や評価について（ストラクチャー、プロセス、アウトプット、アウトカム）具体的に知れたから。
	事業評価のポイントや統計の活用の仕方が参考になった。
保健師活動での気づき (PDCA に関連)	事業の計画、実施、評価について改めて順序立てて聞くことができよかった。
	普段は事業を回すことに精一杯で目的や市の計画などへの意識があまりできていないことに気がついた。この度の研修で、計画や課の目標と、事業内容を照らし合わせながら行うことでより効率的に地域課題を解決していけることがわかった。
	これからの保健師活動で大切な視点について考えることができた。
	実際の事業と講義内容を関連づけながらきくことが難しかった。普段、そこまで考えながらできていないと感じた。

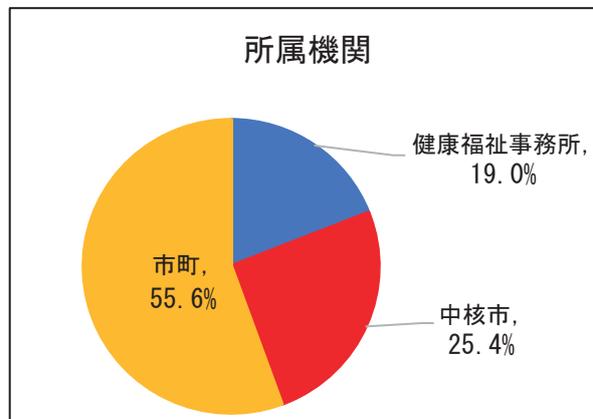
『課題の取り組み方について』の説明について、そのように思われた理由をご記入ください。 (主な意見の抜粋)	
講義と課題の関連性を 持たせた説明	先生の講義との関連や、違うシートの対応する箇所を説明してもらえたから。
	先生の資料のどこをみればいいのか、また、例年保健師のつまづく所を踏まえて質問してくれたので、分かりやすかった。
	課題内容と、講義内容を照らし合わせながら説明して頂き理解が深まった。
課題の取り組み方の理解	課題をどのように行うのか詳しく説明があり、不明点が解消された。
	事業をどのような視点を大切にしながら計画・評価すればいいのか分かりやすかったから。

研修全体を通しての感想などをご自由にご記入ください。(主な意見の抜粋)	
健康課題と行政課題の理解	課題を考える時に、人々の健康課題と行政課題を分けて考える必要があると理解できた。講義を受講し、もっと様々な視点で考える必要があると感じた。
担当事業への活用	担当している事業への介入方法がわかりました。研修を通じてより良いものにしたと思います。
	統計などをどのように事業に活かしていけば良いのかわかりにくい所も日々の業務の中ではあるため、利用の仕方を学ぶ良い機会となった。
	課題をこなす為だけの課題になってはいけないとはわかっているが、本日の講義により、課題に大変取り組みやすくなったと思います。課題をすることが、事業の発展へ繋がるよう、担当業務に取り組みたいと思います。貴重なご講義ありがとうございました。

研修参加者：83 名 アンケート回答者数 63 名（回答率 75.9%）

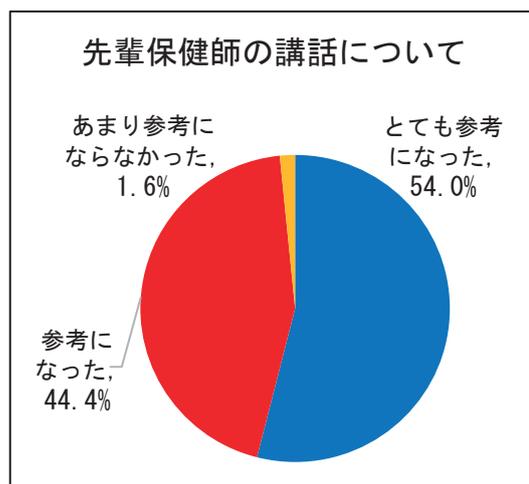
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	12	19.0
中核市	16	25.4
市町	35	55.6



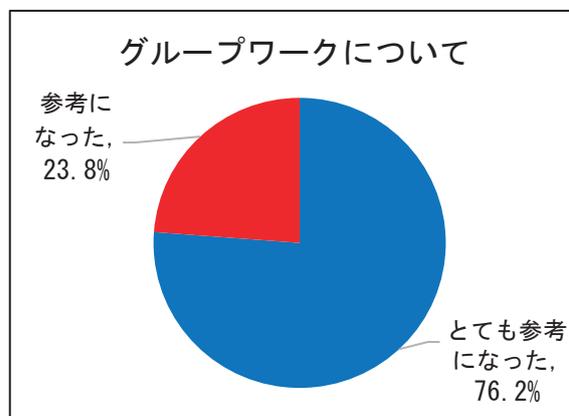
2. 先輩保健師からの講話について

	人数	割合(%)
とても参考になった	34	54.0
参考になった	28	44.4
あまり参考にならなかった	1	1.6
参考にならなかった	0	0



3. グループワークについて

	人数	割合(%)
とても参考になった	48	76.2
参考になった	15	23.8
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



先輩保健師からの講話の中で、学びになったことをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
個別支援の重要性	訪問することで、対象者の生活環境を直接知ることができ、また、信頼関係を築いていくことで、不安な思いなど話してもらうことができると学びました。 訪問だからこそ聞くことができる対象者の情報があるということです。
保健所業務（感染症対策業務）の理解	結核などの感染症の対応の仕方が分かった。保健所の業務を知れて興味深かった。 私は市で働いているので県での役割やどのようなことをしているのか聞くことができよかったです。 保健所の業務についてあまり知る機会がなかったので、勉強になりました。
先輩や上司とのコミュニケーション	分からないことは周囲の人に聞いて相談しながら業務を進める重要性に気づいた 日々の業務で分からないこと、困っていること、うまくできなかったことがあるときは、自分1人で抱え込まず、先輩・上司に共有・相談しながら対応を検討していくことが大事だと学んだ。 「わからないまま、悩んだまま進まない」という言葉が特に印象的だった。周囲の先輩方が忙しそうにしている時に、どうしたら良いか困ることがあったので、後々の自分の身を守るためにも、気を付けたいと思った。
失敗からの学び	失敗談や達成感があったことなど実際に困ったことも含めて聞いたことで今の自分の困りごとにも重ねて聞くことができよかったです。人と比べないことや、学ぶべきこと、自らの振り返りにもつながりとても参考になりました。 失敗談があったのがよかったです。自分がこれまで不安に感じていたことに対して「自分だけじゃない」と思えたのが、今後の励みになると思いました。
保健師の魅力・エール	保健師ならではの魅力を伝えてくださったこと、とてもモチベーションにつながりました。また、資料もとてもわかりやすく、このようにデータを使うと納得できるのだなと思いました。 1年経つとこんなに頼もしい姿になれるのはすごいなと思った。結核や新型コロナウイルスの対応など多忙な業務の中で様々な経験を積んできたことが自信につながっているように見えた。 社会経験はあるものの保健師としてはまだまだわからないことが多く自信がなかったのですが、「必ず戦力になっている」というメッセージがとても印象的で力になりました。 「1年目でも力になっていると自信を持ってください」ととてもありがたかったです。 私は役に立っているのかなと思っていたけど、「それぞれの職場で必ず戦力になっている」と思いながら働こうと思いました。
新任保健師としての共感	同じような動機で保健師に転職したため、とても学びになるお話をきけました。感染症対策がコロナと混ざってしまったり、いろいろ困ったことも同じで、誰もが通る道なんだととても気持ちが楽になりました。 先輩が困ったこと、達成感を感じたこと、それら全てが共感できるものしかありませんでした。今、自分が悩んでいることは私1人だけの悩みでないことも知れたので、今後も悩んだことは積極的に上司や先輩に相談しようと思いました。 大変だったことが、今の自分の思いと重なることもあって、みんな経験することなんだと知れて良かった。

グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
対象(個人・家族)の理解	対象者の状況やペース、思いを確認しながら支援することが大切だと学んだ。
	改めて、対象者をひとりの人としてみることや、強みを見つけることが大事であることを学びました。
	支援者側の思い・目標と、対象者の思い・目標にズレがあることがある。一方的な支援にならないよう対象者の意思決定を支援できるように、情報提供をして選択肢を提示できるような支援を行っていきたい。対象者だけに注目するのではなく、家族や周囲の人、社会資源にも注目しながら全体像をみれるようになっていきたい。
	対象者の背景を知り、個人の特性を知ることの大切さを学んだ。
	対象者だけではなく、その人の家族など、周囲の人についても情報を収集する上で大切だとわかった。
	精神のケース。本人の強みを活かして、強みに目を向ける。できていることに目を向ける。1回の訪問ですべて完結しようとせず、様々な情報にアンテナを向け、出てきた情報をつなぎ合わせて対象者の理解を深める。
個別支援に関すること	目的に沿って目標を立てること。家族(母子、父といったように)成員によって項目を分けて考えることが大切だと思った。
	事例としてゆっくり検討し、整理していくことで、課題の優先順位や保健師としての役割、目的が明確になりました。
	ウェルネスの視点を持ちつつも、上がってくるであろうリスクを考えることの大切さを学びました。
多角的視点からの気づき	複数の人の意見をもらうことで学びが深まったので、課題を進める中でも積極的に意見をもらおうと思う。
	多くの視点で事例を考えることで、自分だけでは見えていなかった課題に気づくことができ、それに応じて足りていない情報に気づくことができた。
	一人ではなく、皆で一つの方の事を考えることでその人の捉え方が広がり支援にも幅が出ると感じました。保健師は一人で抱える事例も多いのでこのような機会は大切にしていきたいです。
	ケースを多面的にみれたこと、自治体それぞれの事業の良さや足りない部分に気づくことができました。
	自分では気が付かなかった視点や考え方を知ることができた。
	他の事例を聞くことができ、自分の事例を客観視することができました。
多職種連携の重要性	連携がとても重要であることを学びました。
	他職種で話し合っ、いろいろな視点で対象者を見ていくことの大切さと、その調整の難しさを学びました。
他機関の活動の理解	他市町の保健師業務がどうなっているのかを知れて良かった。場所によって業務にかなりばらつきがあると分かった。
	市町の規模によって、業務の内容や方法が違っていることなど、その地域の特性に応じた業務内容を知ることができました。
	市の取り組みなどの情報も交換することができ、有意義な時間となった。
その他	人が読んでわかるように書かなければいけないと思いました。

**研修を受ける前の事前課題の作成を通じて学んだこと、課題に取り組むにあたって難しかったこと、感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)**

個別支援の振り返り	<p>情報をまとめ、アセスメントする際に、不安という抽象的な言葉で課題をまとめてしまい、本人の詳しい不安の内容や具体例まで把握できていなかったと、これまでの関わりを見直すいい機会になった。</p>
	<p>家族のケアについて深く考えられてなかったため、その大きさに気付いた。</p>
	<p>自分自信が行ってきた支援を振り返ることで、次への改善点を見出すことが出来ました。</p>
	<p>保健師の考えるゴールと対象者の考えるゴールが違い、すり合わせが難しいことや、対象者に行動変容してもらうためにはどう伝えることがいいのか深く考えるきっかけになった。</p>
	<p>事前課題として改めて訪問計画を立ててみると、訪問時に知りたい項目・情報がたくさんあることに改めて気づくことができました。しかし、これらの情報を一度の訪問で全て得ようとするのではなく、対象者と信頼関係を築きながら支援していくことが大切だと学んだ。</p>
対象者の選定	<p>悩んだ時には「本来は1件1件こうしたことをしっかり考えてケース対応して、学びを深めていくもの」と上司に教えていただいたことを思い出しながら課題に取り組みました。そうして取り組んだことで、普段のケース対応も「この人は何に悩んでいて、何が問題なのか、保健師としてどう関わられるのか」を考えながら、よりケース対応にあたれるようになったと感じています。</p>
	<p>訪問対象者（ケース）を選定することが難しかった どのケースで取り組むか悩みました。</p>
情報の整理	<p>経過がある方であったため、情報を整理することが難しかった。</p>
	<p>事例を整理することが難しかった。</p>
目標設定（評価）	<p>課題の中では、目標設定が特に難しかった。具体的に、計測可能なものを考えることや、優先順位を考えることの練習になった。日頃は目標まで詳細に支援方法を考えられていなかったため、よい機会となった。</p>
	<p>目標の設定について、何をいつまでに達成するというのを決めるのが難しかった。</p>
	<p>課題に対する目標を設定した際に、その目標の達成具合を測る尺度をどうするか、悩んだ。</p>
	<p>目標の評価の時期を設定することが難しかったです。</p>
全般	<p>アセスメント、課題、目標を対応させて書くことが難しかった。</p>
	<p>個別訪問がない担当部署だったので、そもそも訪問はどんなことを考えて行うものなのか、想像ができず、難しかったです。</p>
	<p>課題を作成してみて、文字に起こすことで少し整理できました。とても時間を使う作業だったのでもう少し早く出来ればと思いました。</p>
	<p>事前課題の対象者の状況が変わりすぎて、対応していくことが難しかったです。</p>
	<p>文章化してアセスメントする機会も少ないので、自分の中でどう考えているかの思考過程を言葉にするのが難しかった。</p>
	<p>伝えたいことを文章化することが難しかったです。しかし、文章化することで、自分の中でケースを整理でき、万全の状態での訪問に向かうことができると思いました。</p>

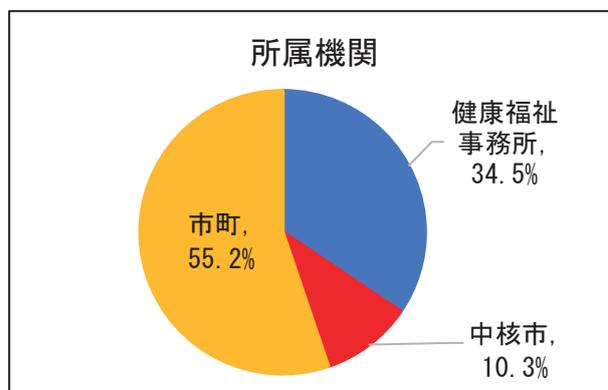
**研修全体を通しての感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)**

同期の保健師との交流 (日常業務の振り返り)	普段の業務について話し合う時間が楽しかったです。
	同年代の保健師と話ができてとても良い機会になった。業務についても他がどうなっているのか全く知らなかったの、それぞれどんな業務を担当しているのかが分かって良かった。
	同じ一年目ならではの悩みや不安を共有することができて、悩んでいるのは自分だけではないのだと感ずることができ、心強くなった
	同年代の保健師と話ができてとても良い機会になった。業務についても他がどうなっているのか全く知らなかったの、それぞれどんな業務を担当しているのかが分かって良かった。
	グループワークは保健師同士の交流ができ、とても良かった。
	対面での研修であったため、保健師同士の交流をもつ良い機会となった。
	私は中途採用だったので、新卒の同期と関わるのが今までありませんでした。なので今回のような新人交流を通して、色んな新人保健師と話することが出来、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。
	違う市町の同じ部署で勤務している人の悩みや思いを聞いて良かったです。
	同じ位の経験や世代でグループを組んで下さったおかげで、同じような悩みや意見を聞くことができ、とても有意義な研修となりました。ありがとうございました。
	同じ経験年数でも今までの経験も異なり、いろんな自治体の話が聞いてよかったです。
対面でグループワークができたことで、他市の業務内容や新任期ならではの悩みの共有ができてよかった。	
課題の学びに関すること	事例をとおして、支援の考え方やちょっとした信頼関係を築くこつなどを知ることができて、早速明日から実践したいと思うことが多かった。
	他自治体の事業や市民への説明媒体を知れて、業務に活かそうと思った。
	事例を多方面からの視点で見ることで色んな意見が聞け、今後に活かすことができると感じた。
指導に関すること	ファシリテーターから個別課題へのフィードバックが個別にもらいたかったです。
	ファシリテーターや同じ1年目の保健師と意見交換ができて非常に良かった。

研修参加者：56 名 アンケート回答者数 29 名（回答率 51.8%）

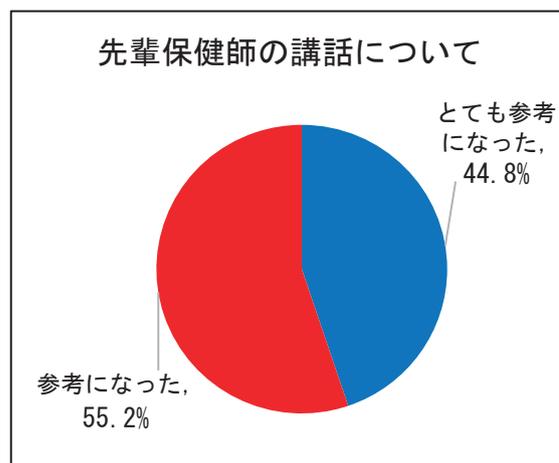
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	10	34.5
中核市	3	10.3
市町	16	55.2



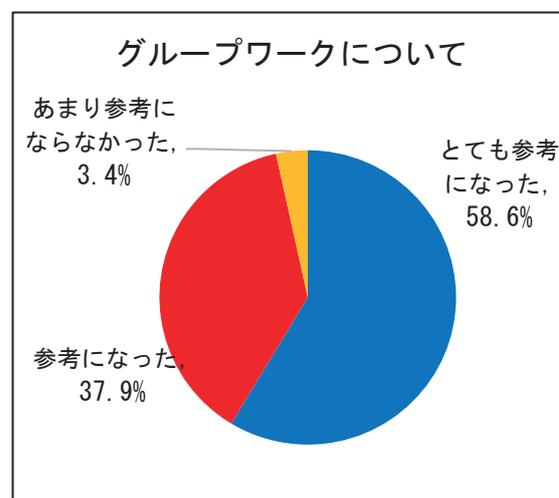
2. 先輩保健師からの講話について

	人数	割合(%)
とても参考になった	13	44.8
参考になった	16	55.2
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



3. グループワークについて

	人数	割合(%)
とても参考になった	17	58.6
参考になった	11	37.9
あまり参考にならなかった	1	3.4
参考にならなかった	0	0



先輩保健師からの講話の中で、学びになったことをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
中核市の業務の理解	中核市の業務分担等、仕事内容がわかり、勉強になりました。
	中核市の母子事業の活動の振り返りや事業について学ぶことができた。
個別支援に関すること (母子保健)	積極的に対面訪問で支援を行うことで、電話ではわからない部分が見えてくる、というのは実感していることでした。自分から積極的に顔の見える関係性を作っていきたいと思います。
	タイムリーな支援が大切というお話を聞き、コロナ禍で通常業務がスムーズにいかない中でもすばやく記録を作成し、今後の支援につなげていきたいと思いました。
	行政に対し拒否的な母子に対し、根気強く関わるのが大切という話が印象的だった。
	アプローチ方法について、信頼関係の構築が大切。拒否される方にも継続して関わることで関係性ができてくるパターンもあるということ。
今後の活動に関する 気づき	訪問や電話対応で、経験を増やしわからない事を聞いたり調べることで成長できる話が聞けて良かったです。
	何にでも積極的に経験していくことが大事
	単年で担当地区が変わってもしっかり地区の状況を把握されてたので、意識が高いなど感じた。また初めて向かう業務でも、先輩保健師に聞きながら、チャレンジされてる姿にすごいなと思った。
	自分のことではいっぱいになりがちだが、自分の業務以外にも周囲がどんなことをしているか、動き、にも気を払って仕事をすることで、視野が広がることを再確認できた。
	保健師としてたくさんの知識を身に着け、住民さんに対応できるようにしていきたい。
	報連相がとても大切であることの再認識。自分の時間を大切にすること。
	2年目で伝えたいことは勉強になりました。やはり職場環境を良くすることで仕事しやすくなったり相談しやすくなったりするので、自分のできる範囲で環境づくりに取り組みたいです。
	わからなかったことは自分で後で学べる。わからないままにしない。 自分自身の健康管理
	質疑応答であった、学習方法が参考になりました。今後、異動等で新しいことを学んでいくことになるため、活用したいと思います。
各年毎に取り組んだことが参考になった。今後、自分の成長を促すために、私自身も何に力を入れて保健活動を展開するのかを考えていきたい。	
新任期保健師としての共感	同じように悩んだりしている实际が聞けて共感しました。
	自分の健康管理ができていないなと振り返りができました。

グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
情報収集について	<p>保健師として、住民と関わる時には、住民がどのように健康に対して意識を持っているか、アンテナを張りながら話すことが大切だと思った。</p> <p>データの取り方、アセスメントの仕方などがとても大切であること。データの取舍選択。</p>
アセスメントについて	<p>強みを含めてアセスメントすることで深いアセスメントになることを学んだ。</p> <p>住民がどういう姿になるために、何が課題なのかを分析することが大事だなど。データは比較し、状況を分析する。あれ、何でだろうと思ったことは、地域に出たり、住民の特性や価値観を知ることで、課題が見え、解決へとつながるきっかけになることだということ。私のグループはどうしても対策を考えがちだったが、対策は分析したあと分かるものだということを学んだ。</p> <p>自分の地区の強みを見つけるという視点を持つ。なんとなく感じていた課題を、情報とアセスメントを元に分析することができる。分析によって、自分の感じていたことと一致したこと、違いが出たのはなぜか、改めて考えるきっかけになった。</p> <p>強みに目を向けること、同じ課題でも背景や地域の抱えている問題は異なるということ。地域をさまざまな視点で捉えることが大切だと知った。</p>
地域の課題について	<p>対象者の課題か、行政の課題かがわかるようにする。</p> <p>データから課題を出す、また課題が見えたところでデータにて裏付けすることで課題が明らかになると感じた。</p>
他事例からの学び	<p>他の地域での保健医療体制や実情を知ること、自分の担当地域の強みや課題に気づくことができました。</p> <p>地区診断におけるアセスメントや情報収集について、ぼんやりとしていたイメージが、グループワークで口にしていくことで、少しはっきりしたように思う。</p> <p>他市町との比較でわかる強みがあることに気づいた。地域の問題点に注目しがちであったため、広い視点をもって、自分の担当地域をもう一度みていたいと思った。</p> <p>他市と比較することで、自らの市の強みを知ることができた。</p> <p>データの種類、どんなデータが必要なのか、他のメンバーの課題を通して学ぶことができた。地域課題に向き合うことができた。先輩にしっかり相談しながら取り組んでいきたい。</p> <p>地域の強みがいまいちよくわかっていなかったが、グループワークを通して、他市町と比較したからこそ見えてきた。</p> <p>目標は同じでも連携を強めたい部分が異なることに気づけた。地域差があり興味深かった。</p>
モデル事例から自事例への広がり難しさ	<p>グループ内で事例の検討を行ったが、自分の事例につなげることが難しいと感じた。</p>

**研修を受ける前の事前課題の作成を通じて学んだこと、課題に取り組むにあたって難しかったこと、感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)**

情報収集について	どのデータを取ってよいか、どこまで取るかが難しかった。研修課題だけに時間が取れず、もう少しやり込みたい気持ちもあったができなかった。
	精神という大きな領域からデータを集めてしまったため、何を課題と考えたものかわかりづらくなっていた。今後は、特定の集団や特定の事象についてアセスメントを行うためのデータに着目していきたい。家族や地域の支援者の対応力の向上や、精神疾患患者を支援するための連携や体制づくりが上手くいくことで、より目的としている姿に近づくと考えたため、関連するデータをもう一度振り返ってきたい。
	アセスメントするために必要な情報は何か、という整理をする。量的なデータだけでなく、住民の生の声が課題の背景や要因を裏付けることがあると学んだ。
	時間を見つけながら作成していくこと、必要な情報を収集し、まとめていくことが大変でした。
	課題に至るまでの、データの読み取りや地域の社会資源について知らないことがたくさんあり大変だった
	何のデータが必要なかがわからないことが多い。
	情報収集が難しい。ほしい情報がない。
	データの描き方等で迷うこともあったが、今回話し合う中で情報の書き方が整理できた。
	データの抽出方法がわからず、難しかった。
アセスメントについて	データの取り方、アセスメントが難しかった。家庭訪問で聞いていた個別の課題が地域課題にも反映されていた。地域について知るきっかけになった。
	情報があっても整理しきれずアセスメントまで落とし込めないことがあり難しさを感じました。
	データをアセスメントに十分活用するのが難しかった。
地域診断の意義	日委の業務の中で感じた「これでいいのかな」「もっと良くできないかな」という思いを、「なぜそう思うのか」「本当に自分の見立ては合っているのか」を深めていくことが、地区診断を行う一つの意義だと思った。
課題の取組について	”課題”をどのように書けばいいのか、どのようにまとめていけばわからないことが多かった。
	仕事量が多く、地域診断のようなデータの引用をよくする課題をする時間が取れない状態で大変だった。
	課題への描き方がわかりづらく苦戦した。忙しい中、作成したが、結構プレッシャーを感じながら作成した(締切りが近づくにつれてプレッシャーになった)。
	業務担当制の場合、地域診断が市全体になるので、アセスメントや課題の抽出が難しい。
	一つのテーマについてグループで取り組みたい。

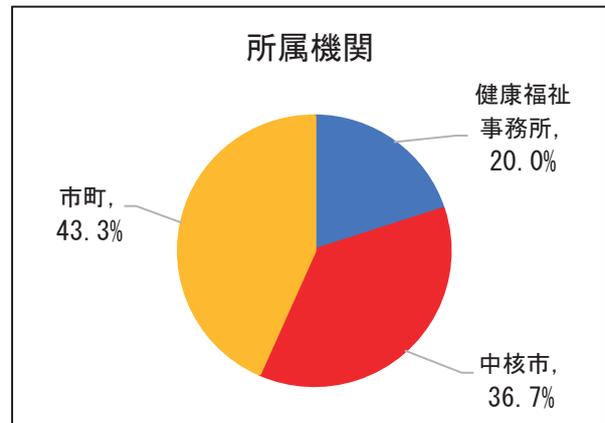
**研修全体を通しての感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)**

地域診断に関する学び	<p>担当地域の経年の比較も大切だが、規模にもよるが他の市町との比較をすることも必要と気付いた。それを身近に感じ取れるととても良い機会になりました。</p> <p>地域についてじっくりと考えることができて良かったです。</p>
同期の保健師との交流	<p>様々な自治体の様子を聞けたり、同期と交流するきっかけとなり、楽しかったです。ありがとうございました。</p> <p>同じ領域を担当する保健師と話が出来て、楽しく取り組めた。</p> <p>対面でのグループワークは学びが深かったです。</p> <p>PDCA の回し方などを分野別に検討してみたいです。</p> <p>やっぱり対面のほうがいいので、来年以降もぜひ、対面希望します！</p> <p>保健師同士で話し合う機会があまりなかったので、直接顔を見て、関係を作ることができて良かったです。</p> <p>同期保健師がいないので、この場で情報共有できて良かったです。</p>

研修参加者：37 名 アンケート回答者数 30 名 (回答率 81.1%)

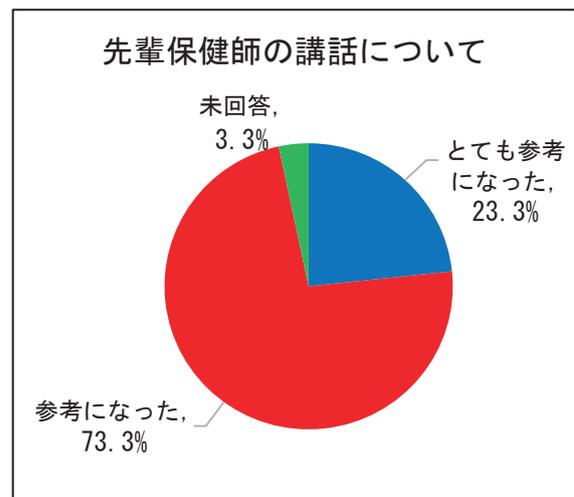
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	6	20.0
中核市	11	36.7
市町	13	43.3



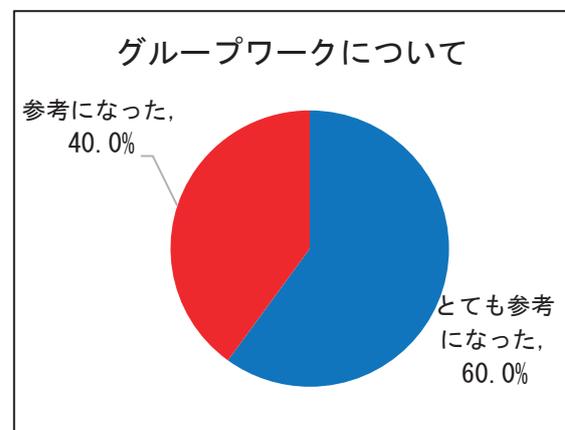
2. 先輩保健師からの講話について

	人数	割合(%)
とても参考になった	7	23.3
参考になった	22	73.3
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0
未回答	1	3.3



3. グループワークについて

	人数	割合(%)
とても参考になった	18	60
参考になった	12	40
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



**先輩保健師からの講話の中で、学びになったことをご記入ください。(主な意見の抜粋)**

目的の重要性の理解	<p>活動の目的を明確にすることは、仕事に慣れてこなすことはできるようになった3年目で意識したいところだと思いました。</p> <p>対象者への関わり方や声かけの仕方など、悩むのは皆通る道なのだと思う。</p> <p>事業の目的など、ちゃんと考える機会が少なかったなので、もう一度振り返りたいと思う。</p> <p>業務や担当事業について目的をもち、日々疑問をもって改善点を見つけ、より良い方向にもっていけるよう努めることが大切だと思った。</p>
コミュニケーションの重要性(報告・相談・連絡)	<p>事業の振り返り、事業評価のための調査をすることの必要性を学べた。</p> <p>また、日頃のコミュニケーションの中で報告・連絡・相談するようにしようと言う思いと、環境づくりにも努めようと思う。</p> <p>報告・連絡・相談の効果に、思い込みを防ぐというものがあり、自分の中で考えていると、捉え方や見方が偏ってしまうことがあるので、他の視点からの意見を聞くためにも、報連相が必要だと感じた。</p> <p>コミュニケーションをとる、ということは、対住民だけでなく、対先輩、同僚、上司にとっても大切だと思った。</p> <p>新任期のみなさんへお伝えしたいことの所で、コミュニケーションをとるという内容が普段からやっていることで間違っていないんだと確認することができた。</p>
日頃の活動の振り返り	<p>失敗したことだけではなく、成功したことも振り返り糧にしていきたいと思った。</p> <p>自分の対応を振り返ることの大切さを学んだ。</p> <p>対応の振り返りを丁寧に行う。</p> <p>例年通りではダメという言葉が印象に残った。</p> <p>例年通りのことをやっていると、タイムリーな支援につながらない。振り返りが大切。</p> <p>日々の業務の中で、市民との関わり方や、上司・先輩・後輩との関わり方を見直す機会となった。</p> <p>自身の日々の業務の振り返り、やりっぱなしではなく改善し、事業を運営することは、毎年研修のたびに心に残る内容です。今年も原点に立ち帰って考える機会になりました。</p> <p>対象者との関係性の取り方や関連機関との連携の仕方など、自分の業務に無駄なことはないため、自分なりに、または上司と振り返りながら実施したい。</p> <p>現行している事業をそのまま続けるのではなく、見直し、修正していくことが大切と学んだ。</p>

グループワークを通して、今後、課題に取り組む上で参考になったことや、学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
情報収集について	<p>課題をみつける中で、必要なデータが抜けていることに気づいた。自分の主観による分析になっていたため、根拠となるデータが必要。</p> <p>日々の業務の中でPDCAサイクルを回していくことの必要性を再認識した。</p> <p>自身で思いつかない、知らないデータ情報についても、もう少しこんなところが(情報)あればよいと気づくことができた。</p>
アセスメントについて	<p>事業全体をみるためのアセスメントでは、その事業に特化した年代やライフステージをみたアセスメントとなっていたが、その事業が何のためにされているのか、何をきっかけにするようになったかを考えるためには、全てのライフステージから読み取ることが必要だと感じた。</p> <p>同じ業務を担当する他自治体の保健師と普段の業務について大変なことを話し合えたことが良かったです。</p> <p>ファシリテーターの指導もいただき、モデル事例について複数の視点で考えることで、より事業運営について理解が深まりました。</p> <p>アセスメントとして不足している点に気付いたり、情報とアセスメントや計画や評価を一連の流れとして自然に考えられるような思考を癖づけていきたいと思った。</p>
評価に関すること	<p>事業の評価をする時、数や割合が増えたかどうかで考えがちだが、増えなかった理由が何か、元々困り感がなかったのかもしれないという視点で考えることが必要だと感じた。</p>
PDCA全般に関すること	<p>現状、アセスメント、課題が関連しているか再度確認が必要であること 誰の、どんな課題なのかを具体的に記載すること</p> <p>担当業務が市の政策や健康づくり一つということを再認識できた。</p> <p>同じ事業や健康課題についても視点を変えると見え方が異なること、何を目的にして事業を行っているか考えて事業を行うことが大切と感じられた。自分がしている事業について実際に書きだすことで、根拠を裏付けることができた。</p> <p>現状→アセスメント→課題→事業・計画の流れを実感できた。</p>
他事例からの学び	<p>他者の課題を通して、自分の課題を振り返り、自分の課題に足りていなかったところを発見することができた。また、他グループの発表でもあったように、事業ありきでデータを集めたり、アセスメントしていたことに気づいた。</p> <p>他の保健所・市町の保健師の日々の業務を共有する事で同じ仕事内容でも体制が全く違うことを知る事が出来た。</p> <p>自分の課題を様々な視点から振り返り、改善点を考えることができたのがよかった。</p> <p>市で、事業後のフォローの仕方など違うことがわかった。参考にしたい。</p> <p>他市町の実情、事業について知ることができた。</p> <p>健康課題は同じでも、異なるアプローチ方法があるため、参考にできる。</p> <p>他の市町の取り組みや、アセスメントの視点、市の規模などの違いでできることの違いなど、参考になった。</p>
地域診断の意義	<p>地域特性により、事業の目標やアプローチ方法も異なるため、地域診断がとても大切だと思った。事業の目的にたちかえることも大切と思った。</p> <p>地域診断に基づく事業展開、という流れの大切さを実感しました。</p>

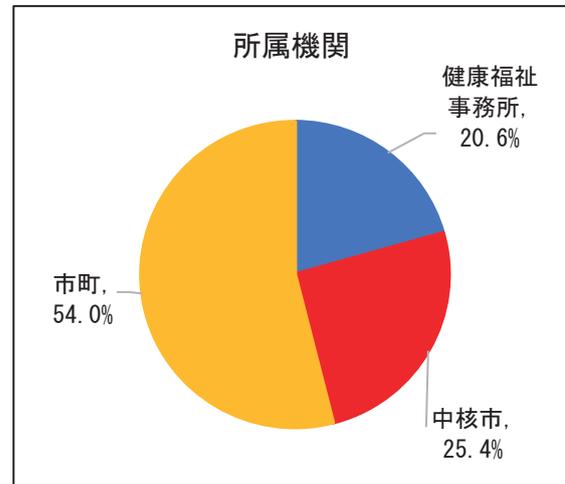
研修を受ける前の事前課題の作成を通じて学んだこと、課題に取り組むにあたって難しかったこと、感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)	
アセスメントについて	健康課題の抽出や、優先順位の付け方に難しさを感じた。
	統計等データからアセスメントする際、根拠が十分なのか迷うことが結構あった。
評価について	事業の評価指標を考えることが難しかったです。
	評価指標や評価方法などを具体的に考えるのが難しかった。
	評価指標、必要データの収集が特に難しかった。
地域診断に基づく保健活動 (PDCA) の意義の理解	日々の業務で、感覚として持っているものを文字化、データとして表すという作業が難しいが、すごく大切な過程と感じた。
	事業計画、事業評価というのは本来なら業務の優先にあるべきものかと思うが目の前のことに追われ後回しになっている。業務を調整し、計画や評価を計画的に行えるようにしていかなければならないと感じた。
	業務の中での研修課題であり、おろそかになりがちであったが、実際に担当している業務のアセスメントをすることによって、今年度の事業計画の改善になり、大切だと思った。事業のゴールはわかっているが、PDCAを上手くできていなかったため、事業計画によって、事業全体を見ることが出来た。
日頃の活動の振り返り	自分が所属する自治体で、どのような事業を、どのような目的で実施しているのか把握するいい機会になった。
	担当している事業の目的や目標の振り返りをすることができ、たちかえることができた。
	日常のケースワークから感じていることがデータから分析できたことで間違っていなかったと実感できた。

研修全体を通しての感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)	
同期の保健師との交流	同期の保健師とも交流する機会がほとんどない中で、対面で研修機会を設けていただき、良い機会となりました。同期の保健師と交流する機会が今後もあれば是非参加したいです。
	対面開催であり、同期の顔を見ながら様々な話をするので非常に良い機会になりました。
	対面での研修になり、オンラインの時よりも意見交換が活発にできると感じました。ありがとうございました。
	新任研修 3 年目で初めてグループワークをして、とてもいい気づきがありました。良い学習の機会をありがとうございました。
新任研修全般について	新任保健師として、個別支援から事業計画まで、業務の実践の面で学ぶことができ、良い研修となっている。そして、対面の研修をすることにより、県内の同期とコミュニケーションをとれる良い機会となった。
	ファシリテーターの方が入って下さり、グループワークがより深まりました。
	グループワークの時間はもう少し短くても良いかも、と思いました。

研修参加者:81 名 アンケート回答者数 63 名 (回答率 77.8%)

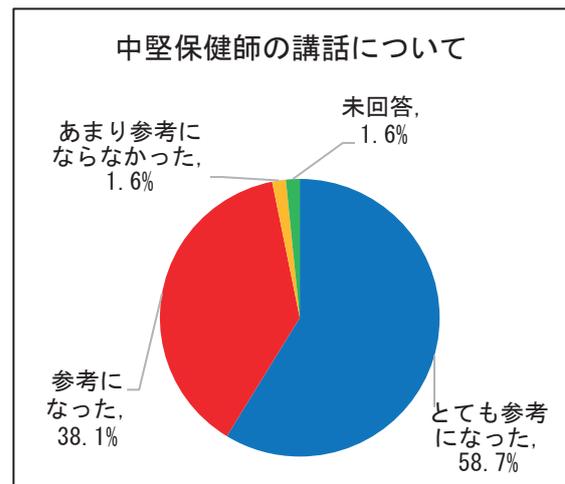
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	13	20.6
中核市	16	25.4
市町	34	54.0



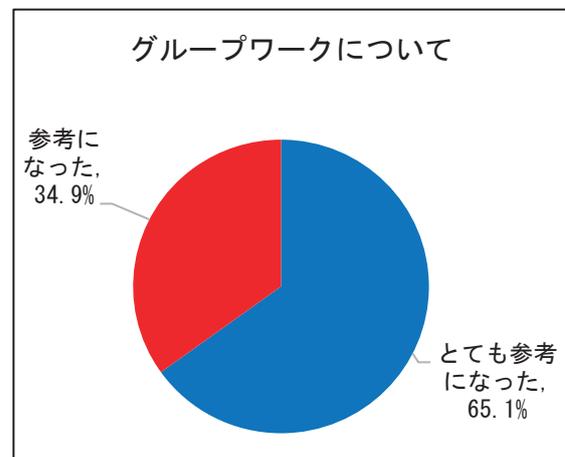
2. 中堅保健師からの講話について

	人数	割合(%)
とても参考になった	37	58.7
参考になった	24	38.1
あまり参考にならなかった	1	1.6
参考にならなかった	0	0
未回答	1	1.6



3. グループワークについて

	人数	割合(%)
とても参考になった	41	65.1
参考になった	22	34.9
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



中堅保健師からの講話の中で、学びになったことをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
対象者の理解と支援	情報を様々な視点から得る。自分から見てダメと決めつけるのではなく、なぜこの行動をとっているのかを考える。
	普段から関わって信頼関係を築く、普段の様子を知ること
	相手を知るとい姿勢を大切にし、訪問など直接対象者と会って、対象者の生活環境を知ることができるのが保健師の強みだとわかりました。普段の状態を知ることがいざというときの判断材料になることや、まずは自分の体調管理も大切であることも改めて学ぶことができました。
	個別支援のお話しでは、こちらが正しいと思うことを押し付けるのではなく「対象者にとってどうあるべきか」を考える、というお話がとても印象に残りました。今後の業務の中で大切にしていきたいと思います。
信頼関係の構築	自分を知ってもらうことも大切ということが学びになった。
	定期的な訪問を基本に不定期に訪問することで、信頼関係の構築を行っていくことが大事であると思いました。
継続的関わりの重要性	普段のことも知ることで、悪化のサインにも気づくことができ、信頼関係構築にも繋がるため、悪い時だけ関わるのではなく、継続的かつ定期的な関わりが重要であるということ。
	迷惑行為だとしても裏を返せば体調悪化時の SOS だという話から、1 つのことでも多角的に捉えることが重要であると改めて実感できた。
	突然の訪問に出ないことはわかっている、付箋を残して、次回訪問時のヒントに繋げていたところが印象的でした。
	継続して対象者と関わり、普段の落ち着いている時を知り支援が必要なサインを把握できるよう関わりを持つ必要性
日頃の活動の振り返り	丁寧に事例についてなど説明してくださったので、どのような状況で支援されたのか想像しやすかったです。学びになったこととしては、個別支援を通して、自分自身の対応を振り返ることが大切ということです。
	自分自身の対応の振り返り、目的を明確にして支援していくことの大切さを学べた。
保健師活動の理解	経歴をお話しいただき保健師という仕事の中にも様々な業務があることがわかりました。
	新任期での対象者との関わりの中での視点についてわかった。また県庁の仕事にも興味があったため、実際の業務について学ぶことができた。
	講師の方が個別支援において大切にされていることや、最後に伝えてくださったことは、私自身心がけていきたいと思う部分が多くあった。
新任期保健師としての共感	自分の出来なかつた所ばかり目に付いてしまい落ち込みがちなのですが、出来たことを認めることも大切であると気付くことが出来ました。
	不安なことだらけの日々で、今日の講話で私だけではないのだとほっとしました。うまくいったことには自信をもって！という言葉も嬉しかったです。
	新任期時代の話をしていただき、できないことやわからないことがあっても、今は先輩にたくさん質問すればいいんだなと思えた。その中でも先輩方とのコミュニケーションや関係づくり、積極的な姿勢が大切だと改めて感じた。

グループワークを通して参考になったことや学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。 (主な意見の抜粋)	
対象者主体の関わりの重要性	保健師が先入観や単独で目標を立てず、本人や家族、他支援者と情報共有しながら統一した目標を立てていくことで同じ目線で生活を支えることが大事であると考えることが出来た。
セルフケア力向上への支援	対象者のセルフケア能力を高めていくことが保健師の大切な役割であることに気づいた。 対象者のセルフケア能力の向上をサポートするのが保健師
個別支援と地域課題との関連	個別支援で、対象者との信頼関係をどのように築くかという具体的な実践例を共有できたり、関係機関との情報連携で大切なことや、他市の取り組みを知って地域課題を考える機会となった。 事例の整理の仕方に加え、事例を通して住民の声、市のデータ、生活環境を踏まえ、担当地区の地区診断を行い、地域の健康課題を明らかにしていく。
他事例からの学び	自分以外の話を聞くことで、自分とは違ったアプローチなどを知る事が出来ると改めて学ぶことが出来た。 自分にはない視点や考え方がありとても参考になった。自身の記録の中でもややもやとしていたところがあったが、他のメンバーの考え方を活用できるところがあり、考えを整理することができた。 自分の視点にないところを他の人の意見で聞けて良かった。人の計画の中で自分を振り返ることもできた。 各市が行っている事業や個別支援での自身の課題への気づきがあり、非常に有意義だった。

前回の研修以降、課題に取り組むにあたって難しかったこと、感想などをご記入ください。 (主な意見の抜粋)	
情報収集・アセスメント	情報、課題、目標、計画を立てる際に、自分一人では不足する情報や考え方が多く、1年目のうちはアセスメント項目のヒントなどがあると、より細やかなアセスメントができたかと思う。自分でそういう視点をもてるようにも努力したい。 改めて、アセスメントや計画、目標を文字にすることで、支援の方向性の整理ができた。普段の支援ではアセスメントから計画を深く考えることができていないため、可能な範囲でケースの状況を整理しながら支援していきたい。
目標設定・評価	目標をもとに評価すると、足りない情報がわかったり、目標がアバウトで評価に困ることがあった。細かく、客観評価がしやすい目標設定が必要と感じた。 PDCA サイクルをまわしていく上で目標設定難しかった。 目標の設定の見直しや、対象者への情報収集が難しかったです。 目標設定、評価の仕方が難しかった。訪問の実施時点なのか、その後の時期での評価はどのように評価したらよいかがよくわからなかった。 目的を明確にすることを意識しながら取り組むことができ、良かったです。 短期目標と長期目標を見据えた上で、今後の方針を考えることが難しかった。

訪問で得られた気づき	<p>必要な社会資源や、その利用方法など、知識として不足していることがあると感じたので今後も勉強していきたいと思いました。また、訪問を重ねるごとに、対象者やそのご家族の今まで知らなかった一面を知ることが増え、自分が見えているものが氷山の一角でしかないことを改めて感じました。見えているもの、聞いたことだけで、こちらの価値観で対象者を判断せず、対象者の視点にたちながら支援をしていきたいと、おもいます。</p>
	<p>実際にケースを展開していくにあたり、電話では順調に育児に取り組んでいるようであっても、訪問したら生活が見え、課題が出てきたため、もっと早くに訪問に行けば良かったと思いました。</p>
	<p>どのようにするのがいいのか、正解はなにかを考えてしまいますが、まず対象者との関係を築きしっかり傾聴することが大切なんだと思いました。なかなか訪問に対するハードルを高く感じてしまっていたので、これからは下げて少しでも多く会って話していきたいです。</p>
	<p>研修に参加したことを通して自分の課題事例の情報整理が行えたので、訪問に落ち着いて臨めた。</p>
訪問で得られた気づき	<p>前回の課題で本ケースの理解を深めることができたこともあり、計画の実施→評価→アセスメントがしやすかったように感じた。</p>
	<p>日々の業務の中、課題にもっと時間をつかえたらと自分の時間管理についても改めて考えることができました。何気なく訪問に行っていたことも、目的やアセスメントにわけて整理ができました。他の訪問でも今回の個別支援シートを使って先輩に相談したいです。</p>
	<p>計画とは異なるアプローチが必要となり、その際どのように支援するかを考えることが困難で、プリセプターの助言を受けた。ケース支援は自分の想定通りに進まないことがあること、その都度、対象者の思いを確認し、寄り添うことの必要性を学んだ。</p>
対象に合わせた対応の 難しさ(記録含む)	<p>優先順位が変わり柔軟に対応することが必要となった時に、その判断をすることが難しかった。</p>
	<p>計画を立てても実際に訪問してみると抜けるところが多く、聞けなかったことや確認できなかったことがあった。計画通りに実施しなければならないと強く思いすぎていたところがあったように思う。</p>
	<p>複数回の訪問をした後、プランや目標を変更する場合どう明記すればいいかわからなかったため、記録用紙には明記しなかった。</p>
	<p>訪問計画通りに家庭訪問ができなかったときに、今後の支援の方向性に悩むことがあった。ただその際は、上司の意見も聞き、複数の視点から支援の方向性を見出すことによってその住民のニーズに合わせた支援ができた。</p>
	<p>計画通り進まなかったことや、対象者の反応が予想外だったことなどもあり、思う通り進まないことの連続だと思った。</p>
	<p>情報の収集からアセスメント、課題、目標へと繋げて、その後の訪問計画へいかに繋がるかが難しかった。特に計画を通して課題が解決できるのか、解決できるような計画を考えることが難しいと感じた。</p>
個別支援と地域課題の 関連性	<p>「地区活動から、担当地域の健康課題についての気づき」の部分が難しかった。</p>
	<p>1つの事例を深く知ることができ、地域についても振り返ることができた。</p>

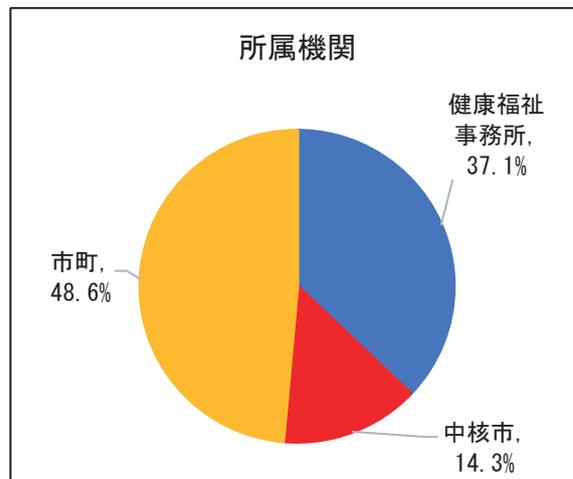
今後、新任期研修で学びたいことや取り入れてほしい内容などがありましたら、ご自由にご記入ください。(主な意見の抜粋)	
保健師の講話	保健師としてのあり方を講演として聞いてみたい。
	先輩の話を聞けるのはとても参考になったので続けてほしいです。
	先輩方が経験された困難事例や、その事例をどのように支援されたのかお話しを伺ってみたいです。また、実際に事業化に繋がった PDCA サイクルの事業を勉強してみたいです。
保健師同士の交流	保健師が情報交換しながら、質問も気軽にできる雰囲気ですとありがたいです。
	保健師同士の悩みの共有
その他	統計、解析、データの読み方、活かし方などを基礎から学びたい。
	保健師自身のメンタルヘルス
	自治体発信でアプローチを行う方に対する関係構築
	健康講話等を行う際の効果的な講話方法

研修全体を通しての感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)	
個別支援の学び	個々を見ていくことで、足りない地域資源を知り、それが地域課題に繋がっていくことを学ぶことが出来た。計画を評価することで、目標が適切であったのか無かったのが明確になると知る事が出来た。
	家庭訪問計画書をまとめることは、かなり時間を要し、業務時間内では余裕がなかったというのが正直なところです。しかし、一つの事例の PDCA サイクルを丁寧に書き起こすことで、自分に足りなかった視点や、グループワークではさらに、ケースワークの実践例を聞くことができ視点が広がり、とても有意義でした。参加したことで、記録の仕方や支援の幅が広がり力になったと感じます。
同期の保健師との交流	医療圏をまたいで同年代の保健師と会う機会が無いため、地域の特色など興味深い話を聞けてとても良い機会だった。
	他市の保健師と意見を交わすことによって、自分の市に戻ってから活かせることもあった。普段、1年目の保健師と関わる機会がなかったので、このような場を設けていただけるのはとてもありがたい。
	同じグループの方が保健師、看護師経験者の方しかおらず、新卒同士でも色々話したかったです。ですが、他市や看護師の経験や知識も聞けたので、その点はよかったです。
	新任期保健師同士での情報共有や各々の取組の実際について知る貴重な機会になった。6月以降、長期的に研修が続き、自分自身の成長した点、これからの課題も明らかにできた。
	同じ新任期の保健師と話す機会が無かったので、研修を通して日常について話すことができて良かった。繋がりを持てて嬉しかった。
	課題についてだけでなく、大変なこと、困っていること、それぞれの保健センターの事業についてなどを話すフリートークの時間があれば嬉しいです
中堅期保健師の講話	中堅期保健師の方の話をもう少し聞きたかった。できれば市町の方の話も聞きたかった。
	中堅期の先輩の講話やファシリテーターの先生方の助言をいただき、学びを深められた。

研修参加者:54 名 アンケート回答者数 35 名(回答率 64.8%)

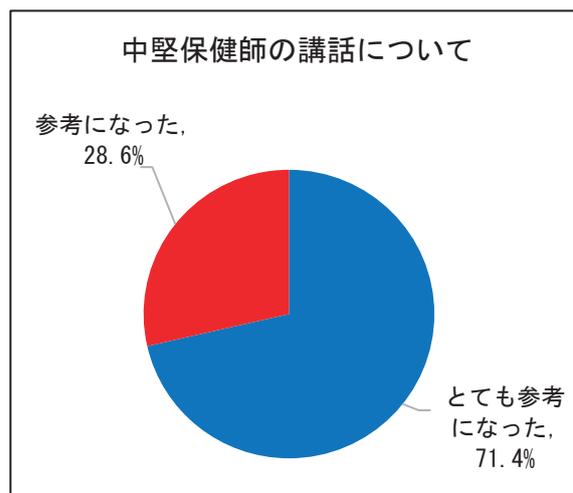
## 1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	13	37.1
中核市	5	14.3
市町	17	48.6



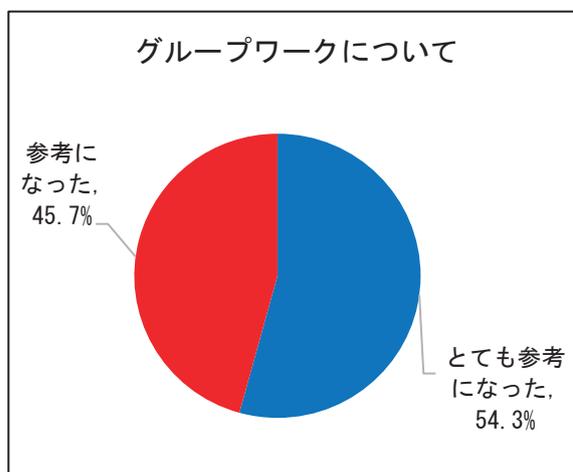
## 2. 中堅保健師からの講話について

	人数	割合(%)
とても参考になった	25	71.4
参考になった	10	28.6
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



## 3. グループワークについて

	人数	割合(%)
とても参考になった	19	54.3
参考になった	16	45.7
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



中堅保健師からの講話の中で、学びになったことをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
地域診断の意義の理解	データを見ていくことで課題が「なんとなく気になる」から根拠を持って明らかになっていくということ。
	日頃の活動のなかでふと疑問に思うことや何となく感じていることについて、地域診断を用いることで視覚化できる根拠を示すことができると学びました。
	地域診断する事で、健康課題を可視化することができ、根拠に基づく事業展開ができること。
	事業の中でケースの情報をつなげて地域全体の分析へつなげることの重要性を学んだ。また、具体的にデータを示していただけたので、実際に活かすことができそうです。
	地域診断を行うことで健康課題が明確になり、根拠に基づく活動を行えるようになるため、地域診断を定期的に行い PDCA を回していく必要があると学びました。
地域診断のプロセスに関する学び	健康課題と行政課題をわけることで評価しやすい。
	地域診断の 4 つのポイントとして緊急性・可視性などを見た上で診断していくことの重要性を学べた。
	小さな情報でも日々繰り返しアセスメントを行うことが大切だと学びました。
	可視化できたことは有用な資料として、地域への情報提供に役立てることができること。
	データ収集、分析の具体的事例
	日頃の気づきから、地区診断というプロセスをもとに目標に向かって事業を展開させる考え方がわかりやすかった。実際の事例をもとに講話をして頂き、理解がしやすかった。
	健康課題を明確化するポイントを学ぶことができました。具体的な地域診断の流れがわかりやすかったです。
	地域診断 (PDCA サイクルや計画にどう活かすか) をわかりやすく学べた。
	地域診断における思考の流れを知ることができ、参考になりました。
	気づきが積み重なることで地域診断のきっかけになり、目的と対象者を明確にすることで課題が明確になることがわかった。
	対象に関わっているのは保健師だけではないため、関わる機関はどんな役割をもっているのか、それらの機関が保健師には何を望んでいるのか？多角的な視点をもつ、知ることが大切であるということが地域診断を通して明確化すると学びました。
	データからの課題の抽出、そこからの優先順位のつけ方等、振り返ることができ学びとなった。全体的にとってもわかりやすかったです
	地区診断の必要性や方法を事例から学べてイメージしやすかった。
	課題の明確化から活動計画立案時には、住民の顔が浮かぶと話されていた。住民が地域で生活できるには？を考えて地区診断を進めたい。
具体的な考え方の明示があり、今までの研修の中で最もわかりやすかったです。同じように落とし込むためにはまだまだ難しいですが、PDCA がよくわかりました。	

今後の活動への気づき	日々の業務の中で疑問をもって取り組むことが大切だと思いました。
	地域診断するにはマッピングの手法を活用することで、地域の偏りなどをまで見て分かるものができることがわかった。
	マッピングの視点が欠けていたのでやってみようと思いました。
	保健師のやりがいあらためて感じられた。
	中堅保健師がどのような視点で地域を見ているかを知れて学びになりました。

グループワークを通して参考になったことや学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。 (主な意見の抜粋)	
地域診断の意義	<p>この地域診断をしたことが事業の分析につながったり、予算を確保する際の根拠になるようなことにつながるようになった。</p> <p>本来保健師活動は地区分析の結果見出された健康課題に対して行うべきであるので、自分たちの活動の根拠として大切にすべきことを学んだ。</p>
地域診断を深める視点	<p>モデル事例となったので、話を進めていく内に、不足しているデータ、データの取り方、課題内容や課題の優先順位の妥当性など掘り下げて考えることができた。</p> <p>前回からどんな情報を追加したり、修正したか参考になった。具体的にはアンケート結果を加えることでより課題が明確になっていたと思う。また、他の地域の取り組みやデータを比較することで、より健康課題が見えやすくなったと思う。</p> <p>データ収集で自分が欲しいものは取りに行く必要がある。</p> <p>量的データを多く集めていたが、質的データとバランスよく集める必要があったことがわかった。</p> <p>地区の健康状態の分析をするにあたって、必要な情報の取捨選択が重要であること。</p> <p>保健師活動が可視化され明確になった。</p> <p>感覚だけでなんとなく考えていたことを、データを集めて数値化、分析することで、目標設定ができる。数値化することで評価もしやすいと学びました。また、データの分析には、比較対象が必要だと学びました。</p> <p>データを分析する際は、男女別・年齢別・地区別に分けて分析することを学びました。</p> <p>地域診断の際には、同規模自治体との比較や経年比較など多角的な視点で情報を収集する必要があること、計画はいつどこで誰が何をするという具体的な計画を立てないと実行には至りにくいためそれらを明確に記載する必要があることを学びました。</p> <p>アセスメントから、課題、目標、計画を行きつ戻りつさせながら、課題解決に向けたプロセスを実体験することができた。</p> <p>事例に選ばれたことで、健康課題と行政課題を分けて考えたりすることを学んだ。</p> <p>健康課題と行政課題を分けて考える。</p>

他事例・共有からの学び (視点の広がり、情報交換等)	他の事務所の事業や支援者との連携について聞くことができた。情報共有をすることで、一人で考えずみんなで考えられる事を学んだ。
	グループメンバーとの意見交換を通して一人では気付くことができなかった視点をえることができました。
	他市町と情報共有の場になった(事業もろもろ)。
	他の市町の事業や、地区診断する上で必要な情報、目標や課題の考え方を話し合いながら、整理することができた。
	みんなでモデル事例を話し合うことで広い視点で事例を見つめ直せました。他の人の知識などが知れて良かった。
	他市の保健事業について学ぶことができた。
	一人で悩むだけでなく、いろんな人の意見や視点を取り入れた方が視野が広がり、良い案が出ると気づいた。
担当地域の理解	自身の地区についてや他の地区についての強み、取り入れるべきところを知り、自身の地区に活かせるところがあると感じた。
	事例に選ばれたことで自分の地域の特性に気づけた。
	それぞれの地域診断を聞くことで自分の地域の弱みや強みが見えてくることに気づきました。
	各市町の担当者と一緒に事業について考えることで、自分の地域の強みや弱みを感じられた。
	他市町の情報を知ることで、自身の市町の強みを知ることができた。
	自分の市の強みを知ることができた。
今後の活動への気づき	他市でしている支援方法を知れて、今後そのような支援をしようと思い、参考になった。
	関係機関に伝えるときはデータを見える化して働きかけることが大切だと思いました。
	地域診断を通して、担当地域の特色がわかっただけでなく、抱える問題に対してのアプローチにいろんな手段があつて勉強になりました。
	同じ悩み(支援をしていく中で)を抱えていることを共有しながら、対応方法など話し合えた。
	他の自治体の取り組みデータ収集、分析の具体的事例

前回の研修以降、課題に取り組むにあたって難しかったこと、感想などをご記入ください。

(主な意見の抜粋)

地域診断全般	課題、目標、活動計画それぞれの整合性を図ることが難しかった。
	普段の業務が地区担当制ではないため、地域住民との関わりの中で感じるような健康課題の可能性になりうるものがなく、住民に対して具体的にどのように支援できるのかを考えられなかった。
情報収集について	データ収集にとっても労力を要した。
	欲しいデータの収集に苦労しました。
アセスメントについて	既存の事業がどのような課題から継続されているのか位置付けを考えることや、アセスメントに必要な不足情報の収集、再分析が大変だった。
	課題を見直すために、新たにデータ収集・分析した。難しかったが、そのことで新たに増えてきたと思います。
	データのアセスメント、視覚化が難しかった。
目標設定について	数値目標の設定
	評価を見据えた目標や計画など具体的な内容を書く必要性を実感できた。
	優先順位の立て方、目標の書き方が難しかった。
	住民が主語か、行政が主語か考えながら、計画・目標を立てることが難しかった。
	住民主体で考えられていなかったため、自分(支援者 or 行政)主体ではなく、住民としてその人に何ができるか、どうなるのが理想なのか考えることが大切だと思った。
計画立案について	計画を立てる際、抽象的な計画となってしまう、細かく多岐にわたる具体的な計画を立てることに困難さを感じました。
	課題解決のための事業立案は難しいと感じた。
	既存の事業と合わせて実現可能な計画を立案するのが難しかった。
	計画を立てる際、できるかどうか考えて計画を立てることが難しかった。
	具体的活動計画において、自分の体験や経験のある事業は、イメージが付きやすく考えやすかったが、知らない範囲はイメージがつきにくく、考えにくい点が多く、現場や状況について知る必要性を感じた。
	計画立案について、新しい計画を1から立案することは簡単ではないが、既存の事業を活用し展開していくなど、まず出来ることから始めていきたい。
課題の捉え方	健康課題を立てる際に、住民課題と行政課題が混在し、分けて考えることが難しかった。
	健康課題と行政課題を区別できていなかった。住民からの顕在化しているニーズの把握、訴えがない人の潜在的なニーズ(そもそもニーズがあるのか)、保健師として必要だと考える健康課題、これらの問題をどう結び付けるのか、難しいです。

今後、新任研修で学びたいことや取り入れてほしい内容などがありましたら、ご自由にご記入ください。(主な意見の抜粋)

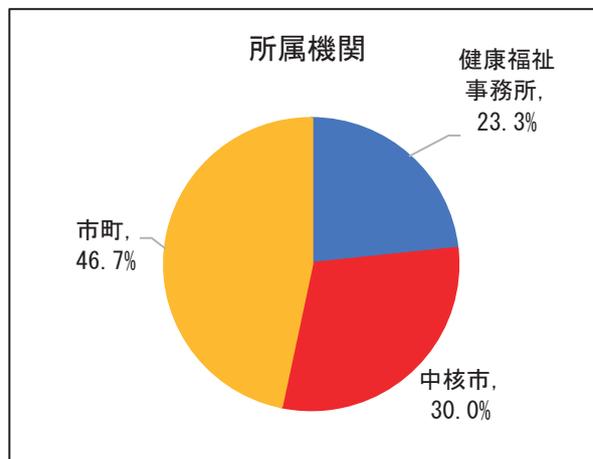
PDCA について	データの活用方法
	事業の立案
	評価の仕方についてアウトプットやアウトカムなどきちんと理解できていない部分があるので具体的に教えていただきたいです。
	PDCA の良い事例を聞いたり、見たりしたいです。
タイムマネジメント	タイムマネジメント
困難事例への対応	困難事例への対応
保健師同士の交流 情報交換	課題のことだけでなく普段の業務について共有するグループワークがある方が、興味をもって学べると思った。
	他の事務所の活動内容や、困っている事を話し合えるグループワークの時間が多くあれば嬉しい。
先輩保健師の体験	PDCA の取り組みについて先輩方の経験を参考にしたいと思いました。
研修に関する要望	課題の抽出方法の注意事項の用紙がほしい。
	課題を行うにあたって、実際に今までやってこられた先輩方の課題の例をもう少し見せてくれると嬉しいです。
	学びの研修に少しアイスブレイク的なものも入れてほしい。
	保健師が参加できる研修の紹介をもっとしてほしいです。

研修全体を通しての感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)	
課題の捉え方	課題の優先順位の考え方を整理する機会となりました。今回の学びを自分に落とし込むには訓練というか経験を重ねていくことが必要だと改めて感じました。
活動の振り返り	日頃の業務では、個別支援に注意が向きやすいため、地域全体を見る視点を持ちたいと思う。
	今回の地域診断を通して、普段行っている様々な活動の意味・目的を改めて考えることができ、今後の活動も地域・住民の健康課題や目的を意識して行っていきたいと感じました。
	地域診断は大変だったが、地域の強みを知るきっかけにもなり、改めて担当地区が身近に感じられた。
	地域に根差した保健師になりたい気持ちがより強くなりました。
情報交換	悩みや現在実施している事業についての情報交換などが出来て良かったです。
	他の市町の方の意見やお話を聞くことができ、有意義な研修となった。
	他の事務所の情報を共有できたのは良かった。
	コロナ禍で他機関との会議などが中止になっているため、情報交換できる良い機会になった。
	コロナ禍で機会も少ない中、同年代の方と対面で話し合い情報交換することができて良かったです。
	グループワークを行うことで、メンバーから自分の中にはなかった意見をもらえるなど、ブラッシュアップできた。また、他市町の事業についても情報交換ができ、横のつながりができたと思う。
	他市の実際を知ることができ、所属の状況と比べ、個人の活動にも活かそうなどところを取り入れてみようという点が見つかりました。地域の理解も深まり、今後に活かしていこうと思います。
	課題の内容以外にも同期と情報共有でき、とても有意義だった。
グループメンバーの意見が自分の市では行っていないことも多く、グループワークが楽しくできたと思います。	
研修に関する要望等	対面研修は顔を合わせる機会でもあり意見が出しやすい雰囲気があると思います。今後も対面で研修に参加できたら嬉しく思います。
	集合研修では直に疑問や質問がしやすい。
	対面方式、顔の見える研修がいいです。
	グループワークの間や発表する際に発言しやすい雰囲気で参加しやすかったです。
	ファシリテーターの方が、グループワーク以外の普段の仕事状況についても話していいよと言ってくれたり、思ってることを話しやすくしてくださった。型にはまった「〇〇を話しましょう」では、話しづらさがある。
	同じ課題領域の人が少なくて、話が合わなかった。

研修参加者:33 名 アンケート回答者数 30 名(回答率 90.9%)

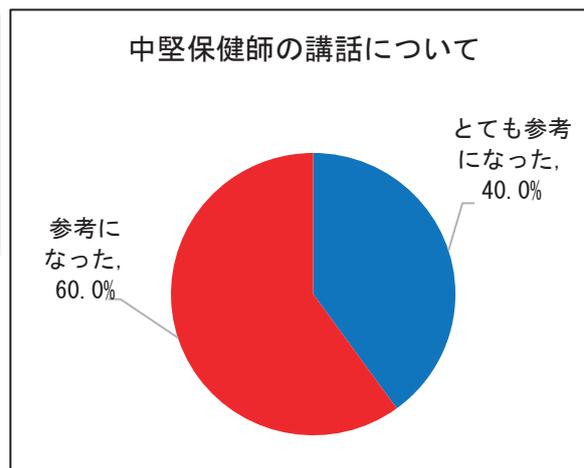
## 1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	7	23.3
中核市	9	30.0
市町	14	46.7



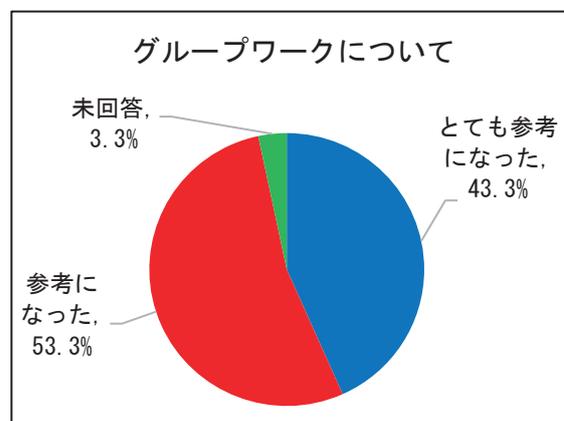
## 2. 中堅保健師からの講話について

	人数	割合(%)
とても参考になった	12	40.0
参考になった	18	60.0
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



## 3. グループワークについて

	人数	割合(%)
とても参考になった	13	43.3
参考になった	16	53.3
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0
未回答	1	3.3



中堅保健師からの講話の中で、学びになったことをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
PDCA に基づく保健活動の意義(活動全般)	毎年同じ内容を繰り返していくのではなく、その地域に応じて、より地域住民のためになることをすること。そのために現状を丁寧にアセスメントし、どこにアプローチするのか考えること。
	特定健診受診者の中で、基準に照らせば対象外になる人にも生活習慣病のリスクが高い人がいて、その人をどのように支援するか。
	事業実施するにあたって、事業が行われる理由や根拠を理解しておくことは必要な事ですが、それに加えて今の事業内容で良いかの確認をすること、疑問を持つことが必要な視点であることを学びました。設定した目標を達成できることと合わせて、効果的な事業であったかも考えて行くことが必要だと分かりました。
	事業を担当していると、つい、「法律に基づいて」というところをベースに考えてしまうことがあるが、「健康の増進」など大きな目標や保健師の役割を考えることを大切にして、法律で定められたことに限らず、尼崎市のように、本当に市民にとって大切なことを実施できるよう PDCA を回していきたいと思った。
	国が定めた指導対象のみでなく、市の現状を見て、独自の対象を設定していたことが、工夫されていると感じました。対象の設定に目を当てられていることがすばらしいと思い、もっと自分も考えて業務に取り組みたいと思いました。
	市の特徴を理解して反映させていく。その結果どうか(経年的に)を PDCA で実施する必要がある。
	PDCA サイクルを、具体的なデータや分析をもとにどのように展開しているのか学ぶことができた。データの分析がまずはとても大切だと思った。
	「地域を知る」→「課題を見つける」→「改善するために事業を実施」の背景を知ることが事業展開に繋がると再確認できた。
活動の根拠の再確認	何のために日々の業務を行っているかを考える。
	事業が始まった経緯を理解して、取り組むことが大切だとわかった。法律も大切だが、それだけでは取りこぼれてしまう人もいるため、地域をみてアセスメントすることが大切だと学ぶことができた。
	なぜこの制度が始まったのか、なんのためにしている事業なのか、しっかり把握しておくことが大切だと学びました。
	PDCA を展開する際に、なぜこの活動を行うのか根本的な部分を理解した上で担当地区の特徴に当てはめて事業を展開する必要がある事を学んだ。
特定健診・特定保健指導の取組の理解	特保指導の取り組み、課題がよくわかり、今後どうしていくのかなど、PDCA がわかりやすかった。
	特定保健指導について知らなかったなので、知れて良かった。内容がとても分かりやすかった。
	保健指導の際、結果や解決策だけを伝えるのではなく、見通しを伝え、今いる時点、段階や今後どうなっていくかを理解してもらうことが重要だと感じた。
その他	当たり前のことですが、中堅保健師も新任期の時代があり、私たちと同じように研修を受け、PDCA サイクルの視点や活用方法を身につけているのだと改めて感じた。

グループワークを通して、参考になったことや学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。 (主な意見の抜粋)	
PDCA に基づく保健活動の意義(活動全般)	<p>まずは地域診断を丁寧にするのが大切なこと。</p> <p>目標を達成することで、地域の健康課題の解決になるような事業を計画し、その目標に合った評価計画を立案する必要がある。</p> <p>今回は1つの事業をPDCA サイクルで評価したが、他の事業でも同じことがいえると思うので、今後、地域活動していく中で活用していきたい。</p>
健康課題と行政課題の捉え方	保健師活動は住民が中心となるため、人々の健康課題は何か、その課題に対して行政がすべきことは何かを明確にしておかないと軸がブレてしまう。
目標設定について	長期・短期目標をもつことも良いと学びました。
計画立案について	<p>PDCA サイクルの中で、P の部分をしっかり具体的に立てておくことがとても重要だとあらためて感じた。</p> <p>普段の何気ない業務も計画に入れることで、事業に厚みが出る</p>
評価について	<p>アンケートを取る際は、きちんと評価ができるような内容にすること。</p> <p>評価しやすい言葉遣いや指標を評価項目に記載することは必要ではありますが、事業内容によっては対象者の声といった質的評価を用いることが望ましく、必ずしも数値的な評価を入れなければならないことはないことがわかりました。各評価項目が達成されていることと合わせて、事業全体としての有効性や効率性を考慮することで他の事業に注力することができるため評価ごとの繋がりを意識することも評価時点では必要であることがわかりました。</p> <p>評価を縦の視点(アウトプット、アウトカムの有効性、効率性)でみること、評価指標に経年的(前年+〇%)な視点も入れることを学びました。他の事業も同様に評価し、それぞれの事業の関連を見ることも大切と気づきました。</p> <p>「全体の総合評価」が難しいと思ったが、各評価の関連(有効性・効率性など)、PDCA の流れを意識して評価するとよいことがわかり、学びになった。</p> <p>数値評価だけでなく質的評価の大切さ、質的評価につながる情報を日々の地域活動で情報収集をしていく大切さを感じた。</p> <p>自分では気づけなかった評価方法や評価のタイミングを教えてもらった。</p> <p>評価指標を具体的に設定しておくこと、次の実施に向けた課題がみえやすくなる。</p>
多角的な視点での学び情報交換	<p>色んな視点からの意見が気づきになった。</p> <p>目標の立て方や評価の難しさについて、グループの方と考えることができ、考え方や味方を学ぶことができました。</p>
多角的な視点での学び情報交換	<p>他の方がどのようなことをしているのか、どんなことに困ったか、自分に何が足りないのかを考えることができた。</p> <p>同じ事業でも、市町の特性などにより、視点が違う。</p> <p>対面の研修で、他市町の事業について知ることができ参考になった。</p> <p>他の健康福祉事務所の取り組み、同期の工夫点、とても勉強になった。</p> <p>自身の勤務する市のやり方しか知らなかったが、他市の事業を知ることで、方法は1つではないことを学んだ。</p>

<b>前回の研修以降、課題に取り組むにあたって難しかったこと、感想などをご記入ください。</b> <b>(主な意見の抜粋)</b>	
PDCAに基づく保健活動の意義(活動全般)	事業を組み立てること、評価することは、様々なデータや指標をもとに様々な視点から考えることが大切だと思ったし、難しかった。
	PDCA サイクルでの分析をしっかり行ったのが初めてだったため、自分が担当している事業の現状を把握できて良かった。
	研修後、市町保健師からのヒアリングを行うことで、市の業務内容や普段の活動の中で不安に思っていることを知ることが出来た。結果、人々の課題や行政課題をより具体的にすることが出来た。
目標設定(評価)について	評価しにくい目標に対してどうやって評価したらいいのか悩んだ。はじめの目標設定が大切だと改めてわかった。
	評価の視点が具体的でなく、実際評価するときに難しかった。
	評価指標の再検討、不足する情報やその評価方法を考えることが難しかった。
	「評価のしやすさ」を考えるのが難しかった。評価をしてみて初めて難しかったことに気づくことがあり、評価方法を修正した。
	評価対象者の設定方法や、数値と日々の支援で感じることとの合わせ方やアセスメント
	評価指標の設定(数値以外の指標)
	評価期間が短かったこと、評価対象数が短かったので、評価しにくかった。
	評価指標の設定が難しく、事業目標に沿った指標になっていなかった。
	評価時期が難しかった。年間通じての事業となるため、事業全体の評価といえるのか悩んだ。
	アンケート評価を主にしており、項目の不足や修正に評価の段階で気づいたので、変更が難しかった。
課題にアドバイスを頂き、改善しようとした時に、大幅な変更だったため時間を要した。また、本来の評価時期は年度末になるため、課題の提出時の評価に困った。	
今後の保健活動への示唆	事業運営にあたって今回学んだ内容は今後も継続して使用していくことがあるため、講義資料や課題作成等で助言いただいた内容を保健活動に活用していきたいと思いました。"
研修課題について	通常業務を行いながら課題に取り組むことや、所属で確認してもらう時間的余裕があまりなく、課題について正しく理解できているかどうかの難しさはありました。
	実施したいと考えていた事業が実施できず、市として必要な事業や、市全体の目標に対して必要か、再度考える必要があり、難しかったです。
	具体例・記入例があったので、課題が進めやすかったです。

**今後、新任期研修で学びたいことや取り入れてほしい内容などがありましたら、ご自由にご記入ください。(主な意見の抜粋)**

他保健師の体験 (具体例からの学び)	先輩保健師の話や、他の市の状況を聞けることはとても良かったので、続けていただければいいなと思いました。
	1つの事例で紹介して頂けるとイメージしやすい。
	PDCA サイクルをどのようにまわしているか、具体例をもとにイメージしやすくなればいいなと思いました。
	評価の例が少しあればより課題に取り組みやすいと感じた。
住民組織活動への支援	いずれは住民が主体となって運営する組織の立ち上げ支援
保健師同士の交流	同じ担当をしている人との交流
	大きい市町は複数採用により同期の保健師がいるが、小さい市町は同期がいない。同年数の保健師の日々の悩み等を共有できる機会があればうれしい。
その他	災害対応

**研修全体を通しての感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)**

PDCA について	多忙な中での作成でしたが、分析を行い、政策の目標、施策の方向を確認しながら、目標・計画・評価をすることで、今後の事業にも活かせると思いました。
保健師同士の交流 情報交換	グループワークを通して、事業計画のデモンストレーションができ、勉強になりました。
	課題をするのは難しかったですが、対面でディスカッションしたり、他の市の取り組みを聞くことができ、とても楽しく研修を受けることができました。
	対面で顔を見て話ができ良かったです。
	普段、他の事務所がどのような取り組みをしているのか知る機会がないので、このような場は貴重でした。
	対面式の研修は会場に来るまでが大変ですが、オンラインでは得られない話し合いの濃さがあり、対面で良かったと思いました。
	研修の機会がなければ知ることができなかった、他の地域の取組について知ることができ、勉強になった。
	他の市町の保健師と交流できて良かった。
	他市町の同期の保健師と話す機会があまりなかったので、こういう機会を設けてくださりありがとうございました。
新任期研修全般	3年間、段階的に研修し学ぶことができ、大変いい機会となった。日常業務の中で課題をこなすことに大変だと思うこともあったが、それを両立させるのも研修の1つであると感じることができた。

## 2022年度 プリセプター研修会実施要領（2022.11.10 修正版）

### 1. 目的

すべての住民が自ら健康を保持増進し、安心して質の高いケアシステムの中で暮らすことができるよう、専門的知識・技術を備え、研鑽に努めることのできる保健師を育成するため、新任期保健師の特徴を踏まえた指導ができるプリセプターを育成し、現任教育体制を構築することを目的とする。

### 2. 目標

- (1) プリセプターの活動内容及び役割を理解する。
- (2) 新任期保健師への支援に活かせるよう、コロナ禍における新任期保健師の教育背景や経験等新任期保健師の特徴を理解する。
- (3) 新任期保健師にとっての個別支援の重要性と、その支援方法について理解を深め、プリセプターとして支援できる能力を習得する。

### 3. 実施主体

兵庫県（運営：兵庫県保健師キャリア支援センター）

### 4. 日時

2022年11月18日（金）13:30～16:30

### 5. 場所

兵庫県中央労働センター 1階 小ホール  
神戸市中央区下山手通6丁目3番28号 TEL:078-341-2271（代）

### 6. 対象

- (1) 健康福祉事務所地域保健専門員・健康管理専門員及び現任教育担当者
- (2) 新任期保健師（採用後3年未満）を指導している県及び市町保健師
- (3) 新任期保健師（採用後3年未満）のトレーナー保健師として従事する者

### 7. 内容

- (1) 講義  
「新任保健師の個別支援能力を高めるプリセプターシップ～新任期の強みや特性を活かして～」  
講師：甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授 合田 加代子 氏
- (2) グループワーク  
「プリセプターとしての現状や課題を踏まえた支援のあり方」  
助言者：甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授 合田 加代子 氏
- (3) 話題提供  
「新任期保健師研修におけるファシリテーターの役割」  
講師：兵庫県保健医療部健康増進課

### 8. 申込み

- (1) 申込方法  
兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2022年プリセプター研修会申込書（別紙1）」を添付して申し込む。その際、メールの表題に「プリセプター研修」と明記すること。トレーナー保健師の参加希望がある場合は、トレーナー保健師用研修会申込書（別紙2）も併せて提出すること。
- (2) 申込期限  
2022年11月2日（水）

## 9. 提出物等

「事前課題（別紙）」を事前に作成の上、研修当日に持参し、研修終了時に提出する。

10. 問合せ先 兵庫県保健師キャリア支援センター事務局 担当：磯濱  
TEL 078-794-8084（直通）/078-794-8080（代表）  
FAX 078-794-8084  
E-mail phncenter@kobe-ccn.ac.jp

## プリセプター研修会プログラム

時 間	内 容
13:30～13:35	挨拶
13:35～14:45 (70分)	講義 テーマ：新任保健師の個別支援能力を高めるプリセプターシップ ～新任期の強みや特性を活かして～ 講師：甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授 合田 加代子 氏
14:45～14:55 (10分)	休憩
14:55～15:00 (5分)	グループワークオリエンテーション
15:00～15:20 (20分)	グループワーク 1 「プリセプターとしての現状や課題と新任期保健師の理解について」
15:20～15:40 (20分)	グループワーク 2 「新任期保健師の個別支援に対するプリセプターとしての支援の現状と課題、効果的な支援のあり方について」
15:40～15:55 (15分)	全体発表
15:55～16:00 (5分)	まとめ 講師：甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授 合田 加代子 氏
16:00～16:30 (30分)	話題提供 テーマ「新任期保健師研修とファシリテーターの役割について」 講師：兵庫県保健医療部健康増進課

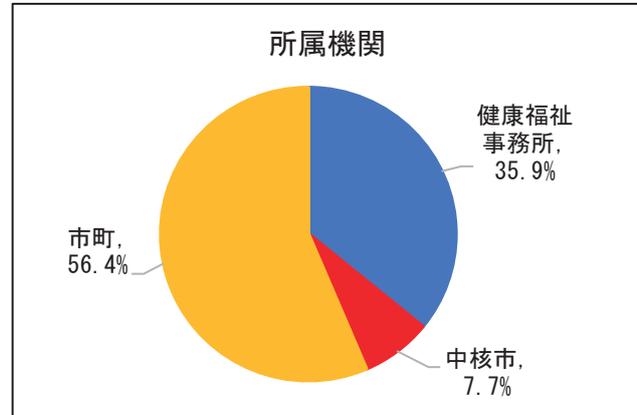
## 2022 年度 プリセプター研修会実施状況

1. 日時:2022 年 11 月 18 日(金)13:30～16:30
2. 場所:兵庫県中央労働センター 1 階小ホール
3. 参加状況:44 名(健康福祉事務所 18 名、中核市 5 名、市町 21 名)
4. 研修内容:
  - 1)講義「新任保健師の個別支援能力を高めるプリセプターシップ  
～新任期の強みや特性を活かして～」  
講師 甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授 合田加代子 氏
  - 2)グループワーク  
「プリセプターとしての現状や課題を踏まえた支援のあり方」  
助言者 甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授 合田加代子 氏
  - 3)発表及びまとめ  
助言者 甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授 合田加代子 氏
  - 4)話題提供  
「新任期保健師研修とファシリテーターの役割について」  
講師 兵庫県保健医療部健康増進課
5. 研修結果アンケート:回答数 39 回答率 88.6% (結果は P80～85 参照)

研修参加者:44名 アンケート回答者数 39名(回答率 88.6%)

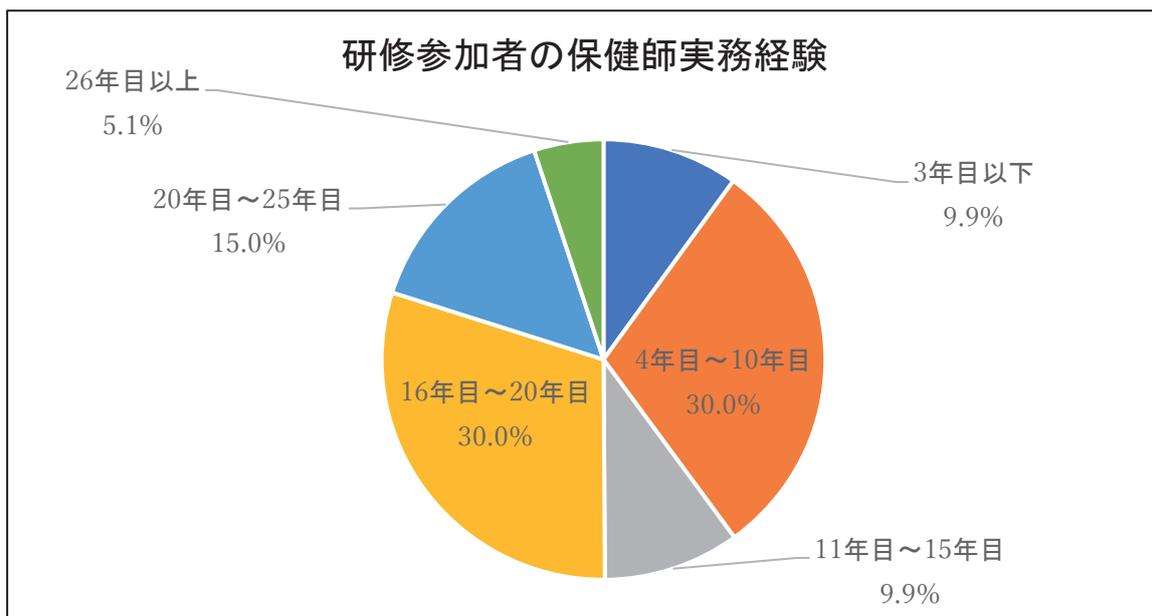
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	14	35.9
中核市	3	7.7
市町	22	56.4



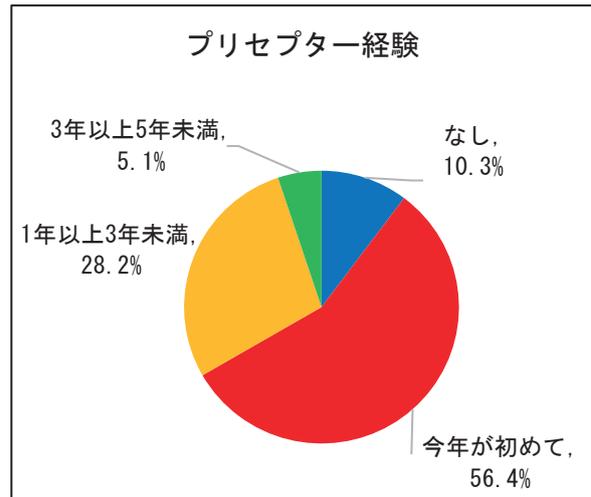
2. 研修参加者の実務経験(保健師のみ)

	人数	割合(%)
3年目以下	2	5.1
4年目～10年目	23	15.4
11年目～15年目	6	5.1
16年目～20年目	2	15.4
20年目～25年目	1	7.7
26年目以上	5	2.6



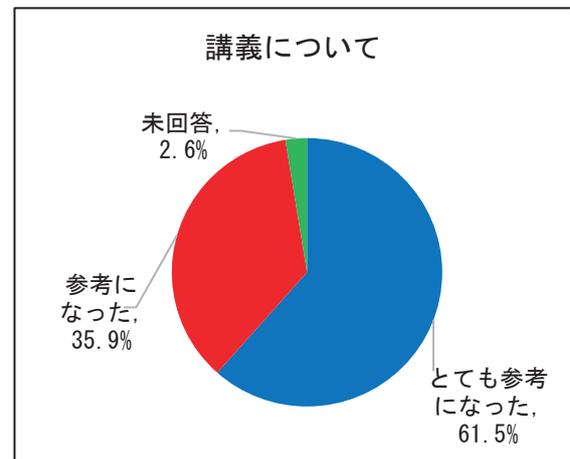
### 3. 研修参加者のプリセプター経験

	人数	割合(%)
なし	4	10.3
今年が初めて	22	56.4
1年以上3年未満	11	28.2
3年以上5年未満	2	5.1
5年以上	0	0.0



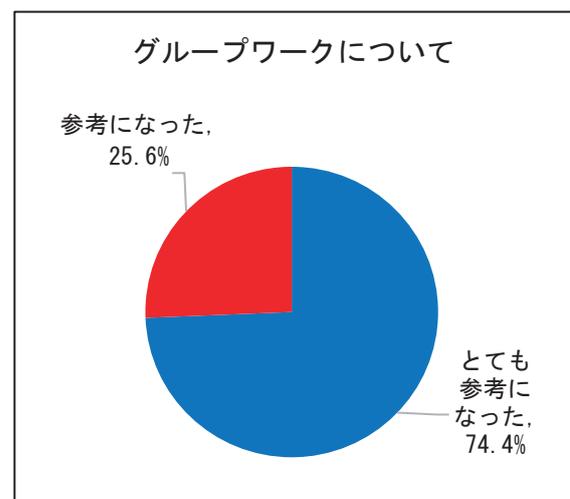
### 4. 講義について

	人数	割合(%)
とても参考になった	24	61.5
参考になった	14	35.9
あまり参考にならなかった	0	0.0
参考にならなかった	0	0.0
未回答	1	2.6



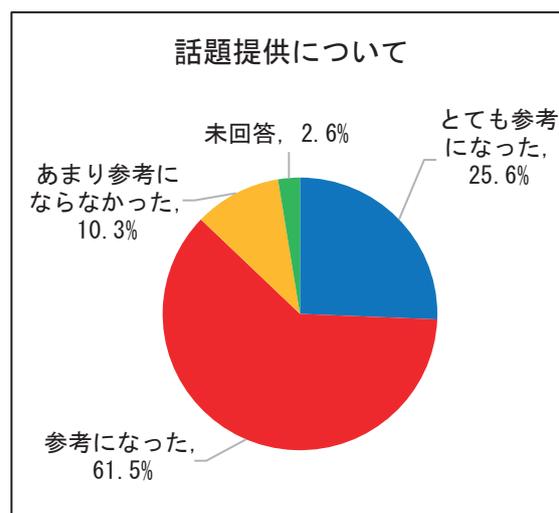
### 5. グループワークについて

	人数	割合(%)
とても参考になった	29	74.4
参考になった	10	25.6
あまり参考にならなかった	0	0.0
参考にならなかった	0	0.0



## 6. 話題提供「新任期研修におけるファシリテーターの役割」について

	人数	割合(%)
とても参考になった	10	25.6
参考になった	24	61.5
あまり参考にならなかった	4	10.3
参考にならなかった	0	0.0
未回答	1	2.6



合田先生の講義で学びになったことをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
新任期保健師の理解	近年の新任期の特徴、置かれた立場を踏まえ、その上で一人一人の個を見なくてはならないこと。また、体験が何よりの経験になること。
	新人さんが不安に感じていることや最近のコミュニケーションの考え方
	新卒の保健師がコロナでほとんど実習を経験できず、不安が強いこと。
	先生のご講義を聞きながら、新任期保健師の良いところ(強み)を改めてたくさん見つけられました。
	新任期の特徴、よいところがわかった。
	新人保健師のもつ力、伸びしろ
	基礎教育や新任期保健師の現状や特徴を知ることができた。
新任期の特徴に応じた育成のあり方	新人期の特徴に合わせた教育の必要性について
	一年目保健師は実践力の土台を作る時期であり、個別訪問を通して倫理観を考慮することで、質の高い地域保健活動につながる。
	保健師としてまず対人支援が基本であること、プリセプターとしては、新人の特性を理解して新人のペースに合わせて、新人保健師自らが主体に学習するよう関わっていくことが大切であることが分かった。
	「個別支援が保健師の基本」改めて認識できた。1年目の経験が今後の保健師としての土台になることを念頭において、関わっていこうと思う。
	個人、家族に責任をもって関わることを新人保健師に身につけてもらうこと
	一緒にするということが大切なんだと改めて思いました。
	タイミングよく、問いかけをしていくこと。何気なく自ら考え解決していけるような質問をしていきたいなと思いました。
	問いかけを行うことで内省を促し学びにつながる。

プリセプターとしてのあり方	今、職場で感じている新任育成の課題について、わかりやすく整理していただき、今後の参考になることが多かった。タイミングよく問いかけや声かけをすること、実践していきたい。
	プリセプターとしてしんどさを感じていましたが、プリセプターの役割は難しいものではなく、新人と一緒に成長していくことが大切だと気持ちが軽くなりました。
	プリセプターとは「どのようなことをしたら良いか」不安であったのですが、先生のお話の中で、一緒に学び、育てていくことが大切とあり、少し安心しました。また、プリセプティさんから聞かれたことに対して、すぐに回答していましたが、その疑問を感じた思い、意図を聞くようにしたいと思いました。
	プリセプターとして、新任期保健師がどのような困難感を感じており、その中で強みを活かして支えていくか考える機会となりました。また、自分自身の保健師像や保健師として目指していきたい部分を改めて振り返る機会となりました。
	プリセプターとしてどうか、頭の整理とともに最近の新任期保健師で参考となった。
	経験学習モデルや具体的な事例紹介で、プリセプターの関わりのポイントを学べた。
	新人保健師を育てる→新任保健師と育つ、姿勢で良いことがわかって勉強になった。
	保健師の基盤となる部分の復習、保健師を選んだ新人職員自身が強みであることへの気づきを得る事ができました。多様な経験を積んで保健師になる方が増えている今、1人ひとりの価値観を大切にしながら相互に成長できる存在でありたいと感じました。
組織における人材育成の意義	個性を大切に、育ちあうこと。
	人材育成とは新人保健師を育てることではなく自分や組織を育てることというのは、とても納得出来ました。
	人材育成は後輩を育てること以外に自分自身はもちろん、職場組織を育てることである。
	組織全体で育てることが大切であることを学びました。
	チーム全体で新人を育てていくことの大切さを改めて学んだ。
	人材育成において、保健師を育てることが目的ではなく、質の高い地域保健を展開できるよう環境を作り上げていく、住民の幸福度を上げるということが目的となってくることを改めて学んだ。
保健師全般に関すること	保健師の姿勢として相手を理解すること、まず知ることからはじめること。
	保健師活動の本質等あらためて講義をうけ、個別支援の大切さ、そこから集団支援、施策化へというところで、やはり個別支援の大切さを感じ、プリセプターとして伝えていきたいと思った。また、育てるから自分も学ばせてもらっている、と実感した。
	保健師の基本の考え方、大切なことを確認することができた。
	保健師の本質や新人さんにどんな方向性を持って指導していけばいいのか、よくわかり、参考になりました。
	保健師の年代や職歴有無の割合

グループワークを通して、プリセプターを担う上で参考になったことや、学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。(主な意見の抜粋)	
新任期保健師の理解	一人一人背景は違うため、相手を理解することから始め、一緒に考えていく姿勢が大切であることが分かった。
	新人さんによって、みんな様々な悩みを抱えていることを知った。どれが正解という答えはないが、これからも一緒に考えていく姿勢を大切にしていこうと思った。
	新任期の良いところを学べた。
支援のあり方	効果的な支援のあり方
	新人保健師の個性に合わせた関わり
	新任期の方に対する関わり方について参考になる部分がたくさんありました。
	一緒に家庭訪問、事業に取り組むこと、一緒に成長をしていくという視点が大切であると思った。タイムリーに家庭訪問から帰ってきた時、一緒にやった事業がどうだったか振り返ること。
	新人の意見(アイディア)も聞き、一緒に考えていける関係でありたいと感じた。
	いつでもヘルプをプリセプティが出せるようにこまめに声かけを行うことが大切。
	プリセプターとして2か月目ですので、プリセプター経験がある方等の考え方や接し方は学ぶところばかりでした(例えば、その方の性格を考えて接することや、受け身の方には声をかけるようにしたりしているところ)。
	解決策やアセスメントをすぐにこちらから提示するのではなく、あなたは どう思う? と考えられ、相手に伝えるという機会を持つようにしたいと思ったことと、職場の上司やプリセプター同士で、現状の報告や相談が今まであまりされていなかったと思うので、やっていきたいと思いました。
寄り添って指導している。	
自分では気づかなかった意識の方が良いことや関わり方について参考になりました。	
組織における人材育成の意義	プリセプター1人で新人を育てるのではなく、組織として育てていくことや、教えすぎず、新人の意見をこちらから積極的に聞いていくこと。新人の個性を大事にすることが大切と学んだ。
	プリセプターとして1人で対応するのではなく、課内を巻き込んでみんなで新任期を支えること。みんなで育てること。
	一人で抱え込まず組織全体で見守ることが大切と思った。
	コロナ禍において職員同士のコミュニケーションが希薄になる中での、新任教育の難しさ。忙しい中でのコミュニケーションの重要性を改めて感じた。
	1対1で育てるのではなく、職場全体でみていって良いんだなと改めて気づいた。
	課内みんなで育てるという意識が必要と感じた。
	1人で抱え込まず、チームで考えていけばよい。
	プリセプターだけでなく、組織(全体)として一緒に成長していくことが大切である。
チーム・課内全体で育てる意識、協力依頼をすることで、プリセプティも様々な視点で学ぶことができる。	

プリセプターとしての共感・ 情報交換	プリセプターとして悩んでいるのは私だけではないと感じることができた。
	様々な悩みがあって、皆、後輩のためにというのが伝わってきました。
	共通する意見が多く、さらに新人を大切にしようという意識が高まった。
	自分だけが感じているわけではない困りごとや悩みを共有できたのが、少し気持ちが軽くなった。
	悩みを共有できて、アドバイスももらえてとても参考になりました。
	困難感を共有することができ、その中で、新任保健師を支えるための支援方法を考えることができて良かったです。
	それぞれの所属で年齢構成やプリセプティの経験値、プリセプターの経験知が異なり、特融の課題や困難さがある一方で、同じ難しさややりがいを抱えておられる部分もあり、共感できる場所が多くありました。
	他市町でも同じような悩み、取り組みがされていて共有できて良かったです。
	他のプリセプターがどう対応しているのか知ることができた。
	職場には経験ありの採用保健師ばかりだったため、新卒のプリセプターをしている人の話を聞いて、参考になった。
3年目、5年目でプリセプターをしておられることに驚いた。	
プリセプターの悩みを話し合えたことで、プリセプターの感じていることや困りごとがよくわかった。プリセプターへの支援も必要だと改めて感じました。	

研修全体を通しての感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)	
プリセプターとしての共感・ 情報交換	保健師が集まって対面でグループワークができる貴重な時間を頂き、ありがとうございます。普段他市町村、県の方々とお話する機会がないので、お互いの状況を話し合え、とても勉強になりました。
	普段プリセプター同士で現状や悩みを話すことがないので、同じ様に思っていることや、良い関わり方について学ぶことができました。
	グループワークを通してメンバー同士でやりがいや悩み、課題などを共有でき、今後の励みになりました。
	他のプリセプターと情報交換ができ、自分も安心できた。
	グループワークは非常に盛り上がりました。こういった機会は貴重ですし、職場でもこのような時間を設けたいと思います。
	自身の経験が浅い分、研修の最初に全体名簿や全体を見渡して、自分がここにいる良いのか？という漠然とした戸惑いがありましたが、実際に講義やグループワークを通していろいろな気づきが得られ、結果的に満足度の高い研修となりました。ありがとうございました。
	対応で悩んでいたことが自分だけでないと気づけました。今回の学びを参考にして関わりをしていこうと思います。
	グループワークの時間がもう少しあっても良かった。
ファシリテーターについて	ファシリテーターの技法を学ぶことができた。

## 地域ケアの総合調整研修事業実施要領

### 1 目的

地域保健活動に従事する保健師が、地域全体や活動における課題及び疑問などについて、科学的手法（量的・質的調査など）を用いて明確にした上で、その成果を学術集会や報告会等で公表し、多様な関係者と意見交換することにより、根拠に基づいた課題解決の方策を提案する能力を育成する。

### 2 目標

- (1) 地域や保健活動において生じている課題を察知し、その明確化と解決に向けて、科学的手法を用いて取り組むことができる。
- (2) 地域保健活動分野において公表されている研究成果を用いることができる。
- (3) 取り組みの成果を、学術集会や報告会等で、プレゼンテーションをするとともに、同僚や関係者とともに検討することで、成果をブラッシュアップすることができる
- (4) 取り組みの成果をもとに、今後の課題解決に向けた方策を検討することができる。

### 3 実施主体

兵庫県（運営：兵庫県保健師キャリア支援センター）

### 4 内容

#### (1) 公開講座

日時：2022年8月25日（木）13:30～16:30

場所：三宮研修センター 8階 805号室

神戸市中央区八幡通4-2-12 カサベラFRⅡビル TEL:078-232-0081（代）

対象：健康福祉事務所及び市町保健師

（地域ケアの総合調整研修の課題研修の受講者以外も受講可）

内容：①公開講座「地域活動において、科学的手法（調査研究）を用いて疑問や課題を明らかにする必要性とその手法について」

講師 武庫川女子大学看護学部 教授 和泉 京子氏

②地域ケアの総合調整研修の課題研修受講者：サポート講師との打ち合わせ

公開講座のみの受講者：希望者は課題解決に向けた方法についての相談可

#### (2) 課題研修

保健活動における課題や疑問を選定し、別途指定された講師とともに、科学的手法を用いて課題や疑問を明らかにするための計画書を作成する。講師の助言を得ながら計画に基づき調査等を行い、課題や疑問を明確化する。取り組みの成果について学術集会や報告会等の場を活用して公表し、意見交換を行い、成果に基づく方策など現場への活用を提案する。

#### ア 対象

健康福祉事務所及び市町保健師

#### イ 定員

特に定めないが、公開講座は会場の都合上、申込み期限前に募集を締め切る場合がある。課題研修については、申し込み者が多数の場合は、次年度での実施をお願いする場合がある。なお、新規申し込み及び継続実施である受講者が1組もない年度は実施を見合わせる。

#### ウ 研修期間

研修受講決定日から翌年度末まで（2年程度実施）

## エ 集合研修

2日（開始時（公開講座）と実践報告会）

## オ サポート講師

- ① 助言にあたる講師は、県内看護系大学教員、その他テーマに応じた領域の教員等
- ② 講師が行うこと

受講者との打ち合わせ及び研修期間を通して、計画立案、調査等の実施や分析、学術集会や報告会の発表の助言、活動展開について、受講者のニーズに基づきサポートする。

## カ 経費

集合研修における講師及びサポート講師の派遣にかかる報償費及び旅費については、兵庫県保健師キャリア支援センターが負担する。

集合研修以外のサポート講師の派遣にかかる報償費及び旅費の支給は、対面で行った助言指導に限るものとする。経費の支出については、「6 提出物及び提出期限」に示す別紙3で報告された活動実績に基づき、年度内の活動にかかる経費を年度末に一括して精算するものとする。

## キ サポート体制

- ① 課題達成に向けて、原則として受講者1組に対して、講師1人がサポートにあたるものとする。
- ② サポート方法は、現地及び集合研修による助言等のほか、受講者と講師が調整の上、受講者が大学等に出向いて助言を受けることも可能とする。
- ③ 職場のリーダー保健師（専門員）は、研修者が研修を受けやすい環境づくりに配慮するとともに、過程を管理し、適宜助言を行う。
- ④ 集合研修のうち、報告会については別途通知する。

## 5 申込み

2022年8月10日（水）までに、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2022年度地域ケアの総合調整研修課題研修受講申込書（別紙1）」を添付して申し込む。その際、メールの表題に「地域ケアの総合調整研修」と明記すること。

## 6 提出物及び提出期限

区分	提出物	内容
事前課題	別紙2	地域ケアの総合調整研修事前レポート 内容：現場で困っていること、疑問に思っていること、課題だと感じていること
経過報告	計画書	様式自由 記載内容：課題を明らかにするために、取り組む具体的な方法とスケジュール、公表方法について記載する（内容：背景、調査方法と調査時期など）
報告会	地域ケアの総合調整研修報告書	様式自由 記載内容：内容：背景、方法、結果、考察（現場への提案）
	活動発表資料	学術集会へ発表した抄録、プレゼンテーション資料
活動報告	別紙3	活動実績報告書 内容：今年度のサポート講師からの助言指導実績（日時、内容、業務従事者等）について

<提出期限>

① 事前課題（別紙2）：

2022年8月10日（水）までに、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2022年度地域ケアの総合調整研修事前レポート（別紙2）」を添付して提出する。その際、メールの表題に「地域ケアの総合調整研修」と明記すること。

② 経過報告（計画書）：

作成出来次第随時提出とし、1年計画で実施する場合は2022年12月16日（金）、2年計画で実施する場合は2023年2月28日（火）を提出期限とする。提出の際は、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2022年度地域ケアの総合調整研修計画書（様式自由）」を添付する。その際、メールの表題に「地域ケアの総合調整研修」と明記すること。

③ 報告会用資料：

別途通知する。

④ 活動報告（別紙3）：

2023年2月28日（火）までに、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメールに「2022年度地域ケアの総合調整研修活動実績報告書（別紙3）」を添付して提出する。その際、メールの表題に「地域ケアの総合調整研修」と明記すること。

7. 受講決定

別紙1申込書及び別紙2事前レポートを総合的に判断した上で、受講及びサポート講師を決定し、通知する。

8. 問合せ先

兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会事務局 担当：岩本・磯濱

TEL 078-794-8084（直通）/078-794-8080（代表）

FAX 078-794-8084

E-mail phncenter@kobe-ccn.ac.jp

附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和4年4月1日から施行する。

## 2022 年度 地域ケアの総合調整研修会実施状況

### 1. 公開講座

1) 日時:2022 年 8 月 25 日(木) 13:30~16:30

2) 場所:三宮研修センター 8 階 805

3) 参加状況:5 名(健康福祉事務所 1 名、中核市 1 名、市 3 名)

4) 研修内容:

#### ①講義

「地域活動において、科学的手法(調査研究)を用いて疑問や課題を明らかにする  
必要性とその手法」

講師:武庫川女子大学看護学部 教授 和泉 京子 氏

#### ②課題解決に向けた助言・指導

講師:武庫川女子大学看護学部 教授 金谷 志子 氏

教授 和泉 京子 氏

講師 松井 菜摘 氏

助教 枝澤 真紀 氏

神戸市看護大学看護学部 教授 岩本 里織 氏

講師 山下 正 氏

5) 研修結果アンケート:回答数 4 回答率 80.0% (結果は P90~91 参照)

### 2. 課題研修

保健活動における課題や疑問を選定し、別途指定された講師とともに、科学的手法を用いて課題や疑問を明らかにするための計画書を作成する。講師の助言を得ながら計画に基づき調査等を行い、課題や疑問を明確化する。取り組みの成果について学術集会や報告会等の場を活用して公表し、意見交換を行い、成果に基づく方策など現場への活用を提案する。

1) 研修期間:2022 年度~2023 年度

2) 参加状況:3 市

①宍粟市:テーマ「高齢者保健」、サポート講師 武庫川女子大学

②淡路市:テーマ「高齢者保健」、サポート講師 関西看護医療大学

③洲本市:テーマ「母子保健」、サポート講師 神戸市看護大学

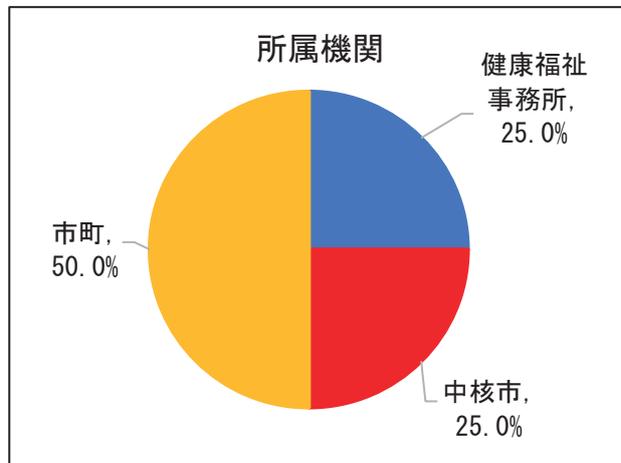
3) 研修内容:各市を担当するサポート講師の助言のもと、チームで検討したいテーマに沿って調査や事業の検討を行い、根拠に基づいた保健事業の展開につなげる。  
(実践報告会は 2023 年度実施予定)

4) 研修実績:3市で対面協議延 3 回、その他随時オンライン面談やメール等で助言指導を受けて実施している。(2022 年度分)

研修参加者：5名 アンケート回答者数4名（回答率 80.0%）

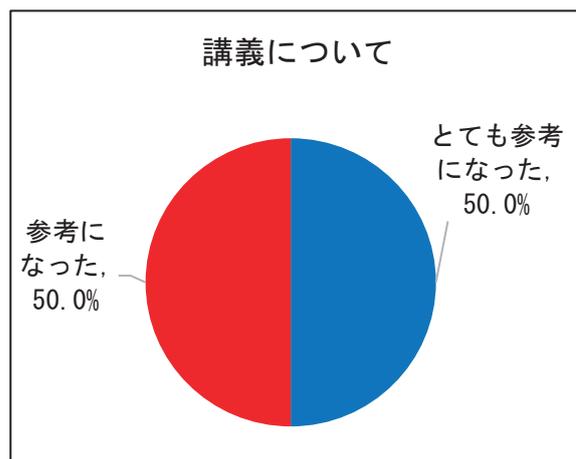
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	1	25.0
中核市	1	25.0
市町	2	50.0



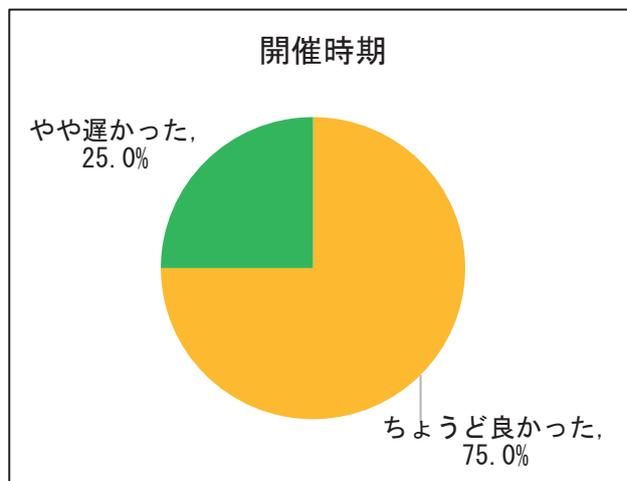
2. 講義について

	人数	割合(%)
とても参考になった	2	50.0
参考になった	2	50.0
あまり参考にならなかった	0	0.0
参考にならなかった	0	0.0



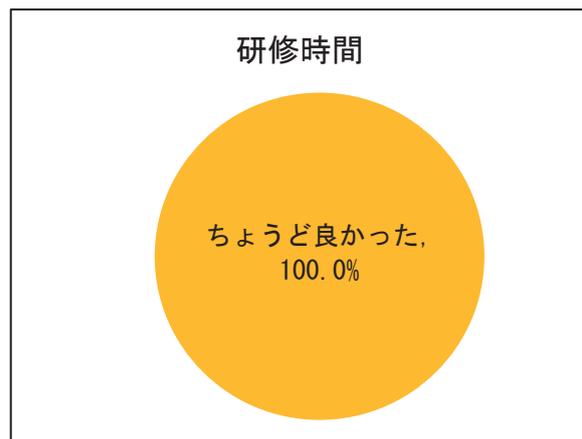
3. 研修開催時期

	人数	割合(%)
早かった	0	0.0
やや早かった	0	0.0
ちょうど良かった	3	75.0
やや遅かった	1	25.0
遅かった	0	0.0



#### 4. 研修時間

	人数	割合(%)
長かった	0	0.0
やや長かった	0	0.0
ちょうど良かった	4	100.0
やや短かった	0	0.0
短かった	0	0.0



#### 「講義について」で、そのように思われた理由をご記入ください。

地域診断の方法について理解できた

調査研究と聞くと、大変なイメージでしたが、具体的なお話をお聞きし、ハードルが少し下がりました。保健師の活動方針にも明記してあり、やらなくてはならないことと改めて感じました。

調査研究の進め方を丁寧にご説明いただき、科学的手法を用いて課題や疑問を明らかにすることへのハードルが少し下がったように思います。テーマを何に絞るか、どのような手法を用いるのか等、事例を交えた具体的なお話も聞かせていただけたので、イメージしやすかったです。中でも地区診断の重要性を改めて感じました。

また、事例のお話の中で「アンケート調査の回答を得られない方のほうが心配」とおっしゃられていましたが、一つの調査研究を通じて新たな課題や疑問の発見にもつながるということも理解できました。

本当に支援につながらない隠れたニーズをどう捉えていくのか、どうアプローチするのかという難しさは日々感じているところです。

調査研究が日々の保健活動にとって必要であることがわかった。

#### 研修全体を通しての感想などをご自由にご記入ください。

2年目の課題の地域診断に参考にしたいと思う。

講座のみでなく参加者の感想やグループワークを通して他市の状況を把握することができ、また違う分野のお話も聞くことができたので大変貴重な機会になりました。

グループワークでは講師の先生方がマンツーマンのような形でゆっくりお話を聞いて情報を整理していただき、自分が今感じている業務の課題や疑問を整理することにつながりました。ありがとうございました。

最初は参加者が5人、かつ、事業に申し込んだのが当市だけと知り驚きました。自分たちだけではなかなかできない調査研究を、大学の先生方と一緒にやることで、実践しながら手法も学ぶことができるので、非常に良い機会であると感じました。

他市の課題や状況を聞くことで、同じ課題等で悩んだりしていることが共有できて、また頑張ろうと思えた。また、普段あまりお会いする機会のない大学の先生方のお話を聞いたり、相談することができて参考になりましたし、先生方を身近に感じ、とても楽しい研修でした。ありがとうございました。

## 2022 年度 統括期保健師研修会実施要領

### 1. 目的

市町・県において様々な部署に配置されている保健師を専門的側面から組織横断的に調整・支援し、健やかに生まれ育ち穏やかな死を迎えるまでの地域全体の健康水準の向上を図ることのできる環境・体制を整えるための能力を強化する。

### 2. 目標

- 1) 統括保健師の役割や機能を理解し、その説明ができる。
- 2) 統括保健師としての意識が高まる。
- 3) 統括保健師としての役割・機能を発揮できる。
- 4) 組織の中で統括保健師としての位置づけを確保できる。

### 3. 日時

2022 年 10 月 31 日（月） 10：00～16：50

### 4. 会場

UNITY（大学共同利用施設） セミナー室3 TEL(078) 794-4970  
神戸市西区学園西町1丁目1-1 ユニバープラザ2階（神戸市営地下鉄 学園都市駅横）

### 5. 対象

県健康福祉事務所または市町（政令中核市含む）において、現在、統括保健師（統括的役割を担う立場の保健師）である者、または次期統括保健師となる予定の者

### 6. 内容

統括保健師の役割・機能、期待する役割、自組織における統括保健師の課題、  
統括保健師としての行動計画の立案、実践の評価について 等  
（詳細は別添プログラム参照）

### 7. 講師

- 1) 神戸市看護大学 教授 岩本 里織氏
- 2) 兵庫県保健医療部

### 8. 申込み

#### 1) 申込方法

兵庫県保健師キャリア支援センターホームページよりお申し込みください。  
保健師人材育成研修【2022 年度 統括期保健師研修会】の研修申し込みページの URL  
<https://kobe-phn-cc.jp/news/1884/>

#### 2) 申込期限

2022 年 9 月 30 日（金）

### 9. 事前学習

#### 1) 学習様式

- ①自己評価シート：統括保健師として担うべき役割を振り返る
- ②様式1：組織見える化シート
- ③様式2：課題焦点化シート（これまでの統括保健師としての実施状況における課題を焦点化し、具体的な行動計画につなげる）

## 2) 提出方法

表題に「統括期保健師研修」と明記し、兵庫県保健師キャリア支援センターあてのメール (phncenter@kobe-ccn.ac.jp) で提出すること。

## 3) 提出期限

2022年10月24日(月)

## 10. その他

1) 感染対策を十分講じて開催いたしますが、当日発熱等の症状がある場合は、事務局へ連絡の上ご参加をお控えください。

2) 事前学習のための参考文献を以下にお示ししますので、ご活用ください。

### \* 参考文献

保健師活動指針活用ガイド(平成26年3月公益社団法人日本看護協会)

※<http://www.nurse.or.jp/nursing/hokenshi/guide/index.html> 参照

- ・平成27年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業報告書統括保健師人材育成プログラムの開発～2年間の試行を踏まえて～, 2016年3月 公益社団法人日本看護協会
- ・平成24年度地域保健総合推進事業 地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書, 平成25年3月, 地域における保健師の保健活動に関する検討会
- ・保健師に係る研修のあり方等に関する検討会 最終とりまとめ ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～, 平成28年3月31日
- ・井部俊子, 中西睦子監修, 井部俊子, 勝原裕美子編集: 日本看護協会出版会, 看護管理学学習テキスト第2版看護組織論第2巻(第1章 組織とは何か P.1～89)
- ・平野かよ子, 渡戸一郎: ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障① 健康と社会・生活第4版)

## 11. 問い合わせ先

兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会事務局 担当: 磯濱

TEL 078-794-8084 (直通) / 078-794-8080 (代表)

FAX 078-794-8084

E-mail: phncenter@kobe-ccn.ac.jp

## 統括期保健師研修会プログラム

時 間	内 容
10:00～10:05	挨拶
10:05～10:50 (45分)	講義 テーマ：統括保健師の役割や機能について（仮題） 講師：神戸市看護大学看護学部 教授 岩本 里織氏
10:50～11:30 (40分)	グループワーク テーマ：自組織における統括保健師としての課題
11:30～12:00 (30分)	講義 テーマ：組織内のリーダーシップと調整力について（仮題） 講師：神戸市看護大学看護学部 教授 岩本 里織氏
12:00～13:00 (60分)	休憩
13:00～14:00 (60分)	講義 テーマ：統括保健師の実践（仮題） 講師：兵庫県保健医療部
14:00～14:30 (30分)	個人ワーク テーマ：行動計画立案(課題・目標)
14:30～15:40 (70分)	グループワーク テーマ：統括保健師としての自組織での活動計画と提案と課題
15:40～15:50 (10分)	休憩
15:50～16:20 (30分)	全体発表 テーマ：統括保健師としての活動計画
16:20～16:50 (30分)	全体のまとめ 講義 テーマ：実践の評価（仮題） 講師：神戸市看護大学看護学部 教授 岩本 里織氏

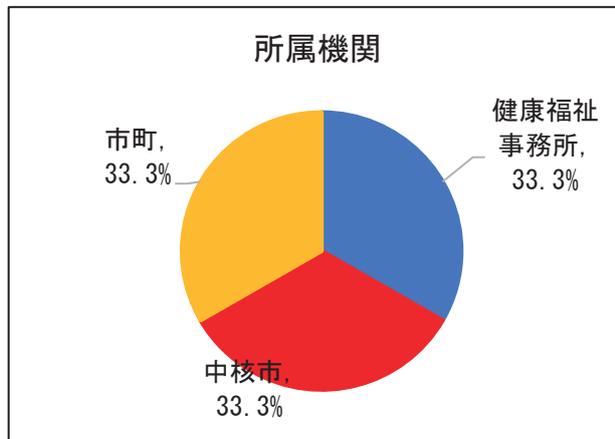
## 2022 年度 統括期保健師研修会実施状況

1. 日時:2022 年 10 月 31 日(月)10:00~16:50
2. 場所:UNITY(大学共同利用施設 セミナー室 3)
3. 参加状況:6 名(健康福祉事務所 2 名、中核市 2 名、市町 2 名)
4. 研修内容:
  - 1) 講義 「統括期保健師の役割や機能・期待する役割」  
「統括保健師の組織内のリーダーシップと調整力」  
「実践の評価」  
講師 神戸市看護大学看護学部 教授 岩本 里織 氏
  - 2) 講義 「統括保健師の実践を振り返って」  
講師 兵庫県保健医療部
  - 3) グループワーク  
テーマ「自組織における統括保健師としての課題、統括保健師としての自組織での活動計画、提案と課題」
  - 4) 個人ワーク  
テーマ「行動計画立案(課題・目標)」
  - 5) 全体発表・共有
5. 研修結果アンケート:回答数 6 回答率 100% (結果は P96~97 参照)

研修参加者：6名 アンケート回答者数6名（回答率100%）

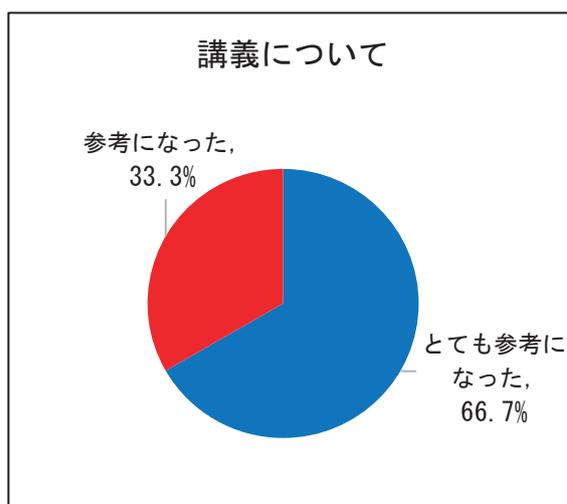
1. 研修参加者の所属機関

	人数	割合(%)
健康福祉事務所	2	33.3
中核市	2	33.3
市町	2	33.3



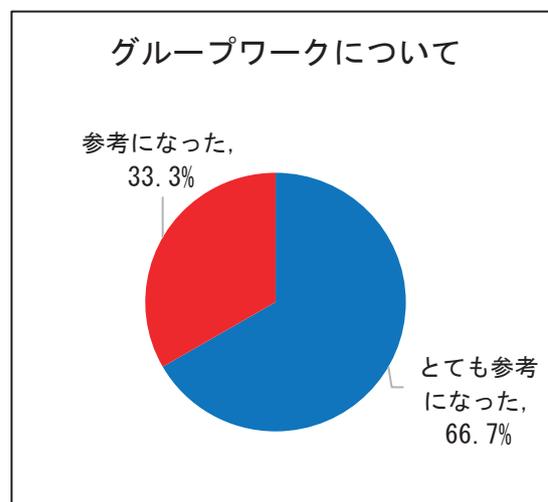
2. 講義について

	人数	割合(%)
とても参考になった	4	66.7
参考になった	2	33.3
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



3. グループワークについて

	人数	割合(%)
とても参考になった	4	66.7
参考になった	2	33.3
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0



**岩本先生の講義で学びになったことをご記入ください。(主な意見の抜粋)**

統括保健師の理解	統括保健師の業務が明確になり、理解が深まったように思う。
	漠然としていた統括保健師像が講義を受け、何ぞやということが分かりかけました。統括ひとりだけでなく、うまく協力体制を作っていくことが大切。次期統括はそれが役割なのかと思いました。
	今回、初めて統括保健師の役割やその必要性の背景、求められる能力（リーダーシップとマネジメント能力）を学ぶことが出来ました。目指す姿のイメージが見えてきたところで、最後の評価のところをもう少し聞きたかったです。

**グループワークを通して、統括保健師または次期統括保健師として活動する上で参考になったことや、学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。(主な意見の抜粋)**

共感・情報交換	立場や組織が違いましたが、似たような悩みや異なる悩み、たくさん話が聞け、よい刺激になりました。
	他市、県の体制、利用しているツールを知ることができました。悩みも共有できました。
	他の方の話を聞き、情報交換でき良かったし、何より共感でき安心できました。
今後の活動への気づき	参考にできることをさっそく取り入れていきたいです。
	県全体の人材育成を考えていけないといけないかと思いました。ただ、時間などできるか不安です。
	統括保健師を支える協力者や補佐する人を置くこと、組織への認知度を上げる必要性を感じました。

**研修を受ける前の事前学習を通じて学んだこと、取り組むにあたって難しかったこと、感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)**

自組織の振り返り	統括、次期統括で事前学習に取り組むことができ、自組織なりに、考えるきっかけを与えて頂きました。
	まだまだ何もできていないので、出来るところから、まずは自組織内での共有と、看護協会、厚労省から出ている文献を読み、自分なりに自己研鑽したいと思います。
	市全体で取り組むと思って難しいと思っていたが、自分の課・かかりからまずは取り組めばいいと気づきました。
	統括の立場でなかったため、どの程度まで課題として取り上げたらよいか悩んだ。
	何も出来ていない自分を再認識しました。
	事前課題は大変だったが、整理できるよい機会となった。
	組織見える化シートの表現が難しかった。

**研修全体を通して、今後取り組んでみたいこと、感想などをお聞かせください。(主な意見の抜粋)**

今後の活動に関する事	保健師の思いを聞く場を持っていきたいと思います。
	まずはジョブローテーションの土台作り。他市町、健康福祉事務所の方々との情報交換等の機会が有意義でした。参加者人数も少なかったかもしれませんが、案外良かったです。



## 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

保健師及び地域保健に携わる関係者への調査研究



## 2022 年度 保健師及び地域保健に携わる関係者への調査研究実施状況

### 1. 現在実施中の調査研究課題

- 1) 保健師のキャリア支援に関するニーズと支援体制に関する研究
- 2) 職歴を考慮した新任期保健師の人材育成支援に関する研究
- 3) 保健師の産休・育休復帰支援に関する研究



## 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

保健師キャリア支援(再就業支援含む)



## 2022 年度 保健師キャリア相談

1. 目的:保健師活動や保健師のキャリアアップに関する相談に応じることで、保健師活動の資質向上および離職防止につなげる。
2. 対象:①現在保健師として活動している方  
②産前・産後休暇、育児休暇中の保健師の方  
③再就業を考えている保健師の方  
など保健師免許を有する方ならどなたでも利用可
3. 主な相談内容:①保健師活動に関する具体的な相談(事業、個別支援等)  
②スキルアップに関すること  
③キャリアラダーに関すること  
④保健師活動に関する調査研究に関すること  
⑤その他保健師活動に関すること  
など保健師活動に関する相談全般
4. 相談定例日:毎月第3水曜日 13:00~20:00 (左記以外の日程も応相談)
5. 方法:面談(来所・遠隔)または電話(予約制)
6. 予約方法:保健師キャリア支援センターホームページの相談申し込みフォームまたはメール(随時) Mail:phncenter@kobe-ccn.ac.jp
7. 相談員:保健師キャリア支援センター教員  
神戸市看護大学いちかんダイバーシティ看護開発センター教員:磯濱  
神戸市看護大学公衆衛生看護学分野教員:岩本、山下

## 2022 年度 保健師キャリア相談実績

番号	相談者 所属	相談方法	相談概要
1	県	メール	地域診断の研修の講師の紹介
2	不明	メール	再就業先の情報
3	県	ZOOM 面談	キャリアアップ
4	不明	電 話	再就業のための勉強会
5	県	電 話	組織育成・ソーシャルキャピタル研修の講師の紹介

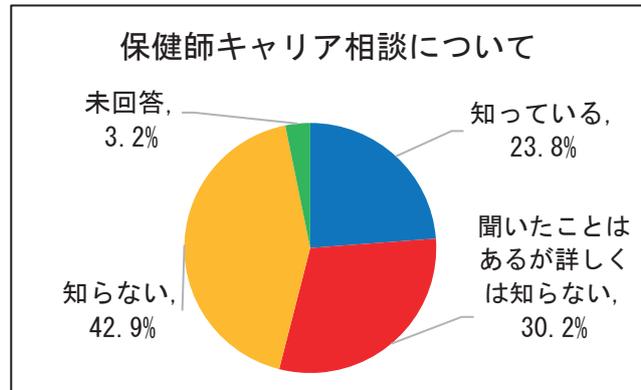
## 「保健師キャリア相談」に関するアンケート結果

1 年目：研修参加者 81 名、回答者 63 名（回答率 77.8%）

2023.1.19

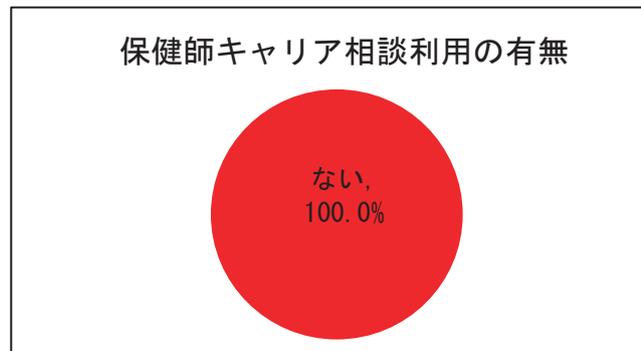
### 1. 兵庫県保健師キャリア支援センターが行う「保健師キャリア相談」について

	人数	割合(%)
知っている	15	23.8
聞いたことはあるが詳しくは知らない	19	30.2
知らない	27	42.8
未回答	2	3.2



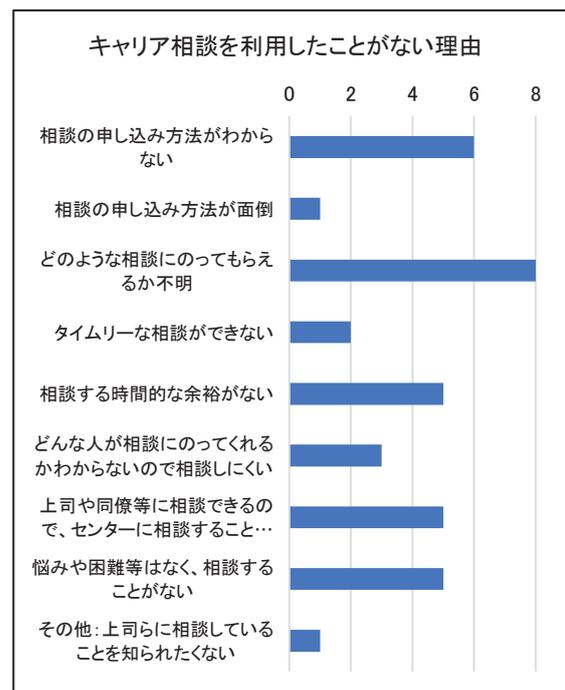
### 2. 保健師キャリア相談の利用について（問 1 で「知っている」と回答した方）

	人数	割合(%)
ある	0	0
ない	15	100



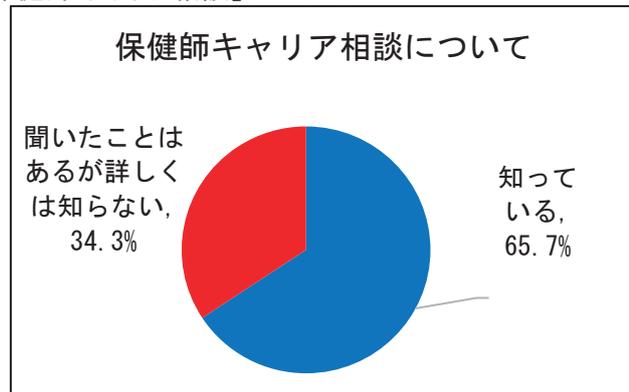
### 3. 保健師キャリア相談を利用したことがない理由について（問 2 で「ない」と回答した方）（複数回答）

	人数	割合(%)
相談の申し込み方法がわからない	6	40.0
相談の申し込み方法が面倒	1	6.7
どのような相談にのってもらえるか不明	8	53.3
タイムリーな相談ができない	2	13.3
相談する時間的な余裕がない	5	33.3
どんな人が相談にのってくれるかわからないので相談しにくい	3	20.0
上司や同僚等に相談できるので、センターに相談することがない	5	33.3
悩みや困難等はなく、相談することがない	5	3.3
その他：上司らに相談していることを知られたくない	1	6.7



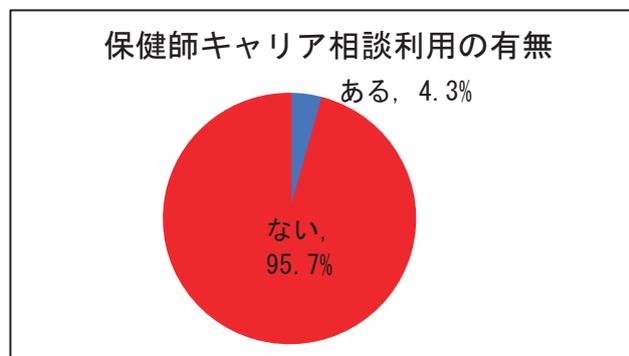
1. 兵庫県保健師キャリア支援センターが行う「保健師キャリア相談」について

	人数	割合(%)
知っている	23	65.7
聞いたことはあるが詳しくは知らない	12	34.3
知らない	0	0



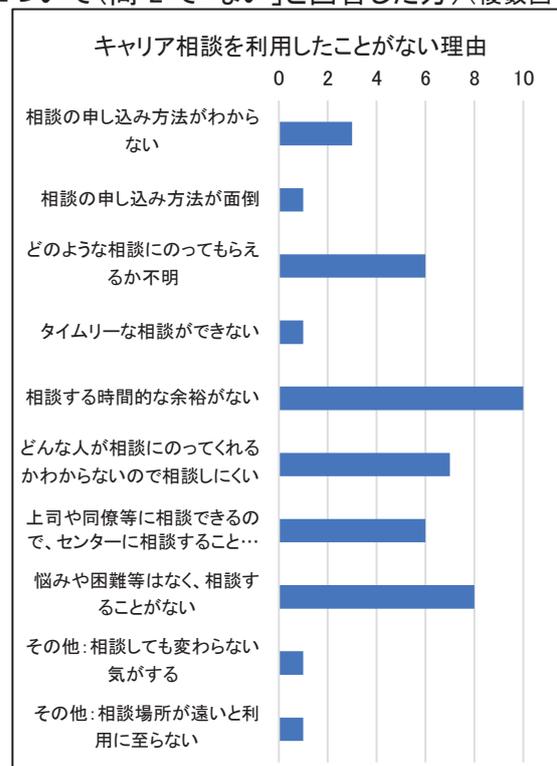
2. 保健師キャリア相談の利用について(問1で「知っている」と回答した方)

	人数	割合(%)
ある	1	4.3
ない	22	95.7



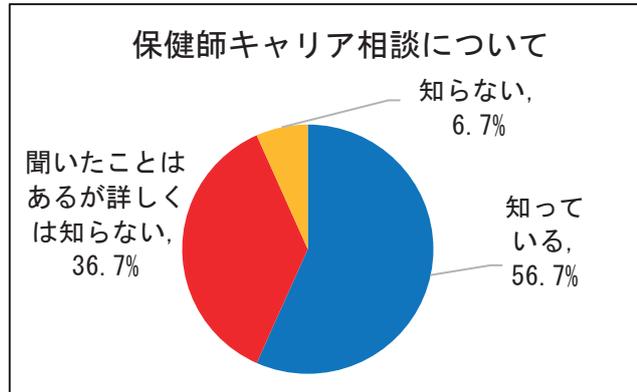
3. 保健師キャリア相談を利用したことがない理由について(問2で「ない」と回答した方)(複数回答)

	人数	割合(%)
相談の申し込み方法がわからない	3	13.6
相談の申し込み方法が面倒	1	4.5
どのような相談にのってもらえるか不明	6	27.3
タイムリーな相談ができない	1	4.5
相談する時間的な余裕がない	10	45.5
どんな人が相談にのってくれるかわからないので相談しにくい	7	31.8
上司や同僚等に相談できるので、センターに相談することがない	6	27.3
悩みや困難等はなく、相談することがない	8	36.4
その他:相談しても変わらない気がする	1	4.5
その他:相談場所が遠いと利用に至らない	1	4.5



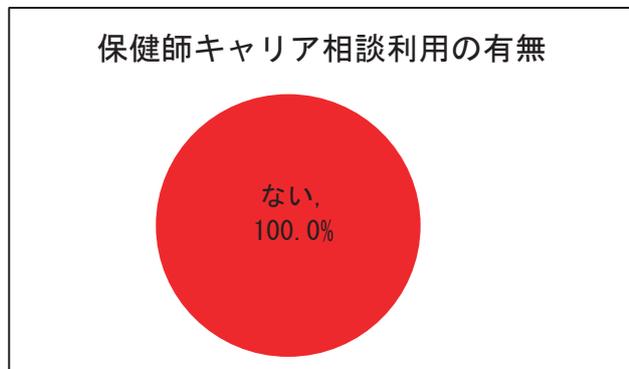
1. 兵庫県保健師キャリア支援センターが行う「保健師キャリア相談」について

	人数	割合(%)
知っている	17	56.7
聞いたことはあるが詳しくは知らない	11	36.7
知らない	2	6.7



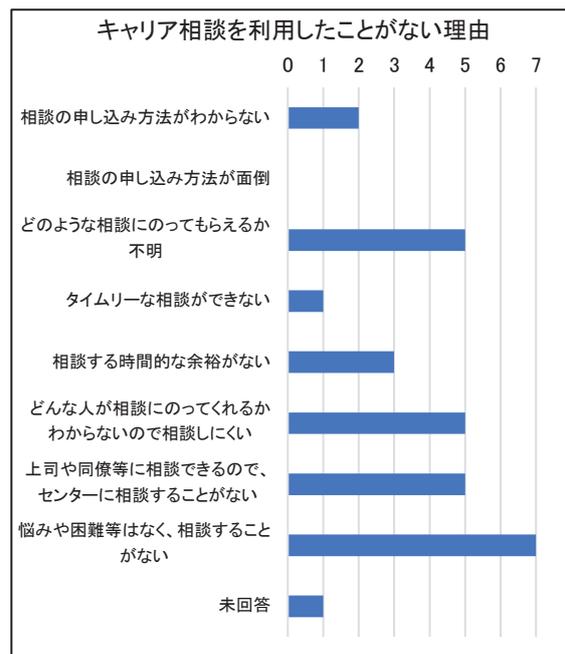
2. 保健師キャリア相談の利用について(問1で「知っている」と回答した方)

	人数	割合(%)
ある	0	0
ない	17	100



3. 保健師キャリア相談を利用したことがない理由について(問2で「ない」と回答した方)(複数回答)

	人数	割合(%)
相談の申し込み方法がわからない	2	11.8
相談の申し込み方法が面倒	0	0
どのような相談にのってもらえるか不明	5	29.4
タイムリーな相談ができない	1	5.9
相談する時間的な余裕がない	3	17.6
どんな人が相談にのってくれるかわからないので相談しにくい	5	29.4
上司や同僚等に相談できるので、センターに相談することがない	5	29.4
悩みや困難等はなく、相談することがない	7	41.2
未回答	1	5.9



## 2022年度 保健師就業・復職支援研修会 実施要領

### 1. 目的

新型コロナウイルス感染症の流行を機に、感染症対策の要である保健所や、予防接種など住民の生活に密着した支援を行う市町村など、主に行政機関で働く保健師の需要が増しており、自治体においても保健師の確保に尽力しているところである。

このような背景の中、保健師資格取得後、保健師活動から離れていた人材を有効に活用するため、潜在保健師等の就業・復職にあたり、最新の保健・医療・福祉の動向を理解し、行政機関で働く保健師に求められる基本的な知識等を学ぶことを目的とする。

### 2. 目標

- (1) 最近の保健・医療・福祉の動向を理解する。
- (2) 兵庫県における保健活動に関する施策を理解する。
- (3) 行政機関における保健師活動の実際を理解する。

### 3. 実施主体

兵庫県(運営:兵庫県保健師キャリア支援センター)

### 4. 対象

行政保健師として就業を希望する潜在保健師等(兵庫県看護協会の保健師バンク登録者等)  
(定員 30名)

### 5. 内容

- (1) 講義(最近の動向、兵庫県の保健福祉施策、行政機関における保健師活動の実際)
- (2) 座談会(現職保健師との座談会)
- (3) 実地見学

### 6. スケジュール

#### (1) 講義

日時:2023年2月1日(水)13:30~16:30

場所:中央区文化センター 11階 1112会議室

神戸市中央区東町115番地

内容:①講義「最近の保健・医療・福祉の動向と兵庫県における保健施策について(仮題)」

講師:兵庫県保健医療部健康増進課

②講義「行政機関における保健師活動の実際について(仮題)」

講師:神戸市健康局

③座談会(実地見学オリエンテーション含む)

#### (2) 実地見学

日時:2023年2月17日(金)13:00~

場所:神戸市中央区保健福祉部(神戸市中央区役所3階)

神戸市中央区東町115番地

内容:保健事業(乳児健診)の見学

特記事項:希望者のみで、先着10名以内とします。

## 7. 申込み

(1)申込み期限 2023年1月20日(金)

(2)申込み方法

兵庫県保健師キャリア支援センターホームページより、各自申し込んでください。

研修案内サイトのURL <https://kobe-phn-cc.jp/news/2620/>

## 8. その他

(1) 実地見学については、施設の受け入れ状況もありますので、先着10名まで希望者を募ります。

(2) 研修の参加申し込みは、定員に達し次第締め切らせていただきますので、あらかじめご了承ください。

(3) 感染対策を十分講じて開催いたしますが、当日発熱等の症状がある場合は、事務局へ連絡の上、ご参加をお控えください。

(4) 新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、研修形式の変更または、中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 9. 問合せ先

兵庫県保健師キャリア支援センター事務局 担当:磯濱

TEL 078-794-8084(直通) / 078-794-8080(代表)

FAX 078-794-8084

E-mail [phncenter@kobe-ccn.ac.jp](mailto:phncenter@kobe-ccn.ac.jp)

## 2022 年度 保健師就業・復職支援研修会実施状況

### 1. 講義

- 1) 日時:2023年2月1日(水)13:30~16:30
- 2) 場所:中央区文化センター 11階 1112会議室
- 3) 対象:行政保健師として求職中の者(新卒除く)
- 4) 内容:講義「最近の保健・医療・福祉の動向と兵庫県における保健施策について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課  
講義「神戸市の保健師活動」  
講師:神戸市健康局  
現職保健師との座談会(実地見学オリエンテーション含む)  
助言者:神戸市健康局健康  
兵庫県保健医療部健康増進課  
神戸市看護大学看護学部 教授 岩本 里織 氏  
講師 山下 正 氏
- 5) 参加者:6名

### 2. 実地見学

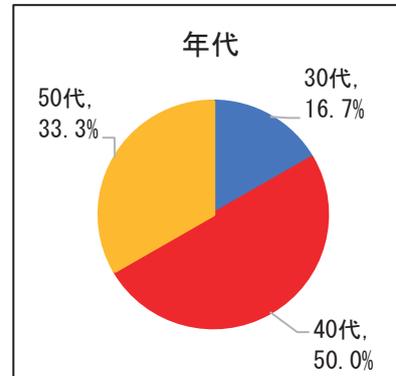
- 1) 日時:2023年2月17日(金)13:00~16:00
- 2) 場所:中央区保健福祉課
- 3) 対象:保健師就業・復職支援研修会受講者のうち希望者
- 4) 内容:4か月児健康診査の見学  
講師:神戸市健康局健康企画課
- 5) 参加者:2名

研修申し込み者：10名 研修参加者：6名 アンケート回答者6名（回答率100%）

1. 参加者の概要

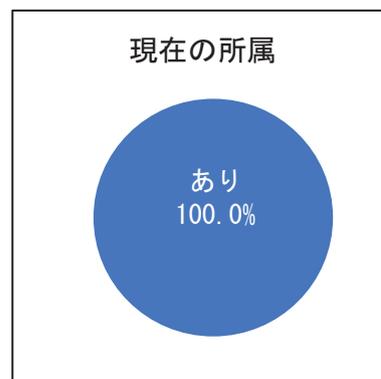
1) 年代

	人数	割合(%)
30代	1	16.7
40代	3	50.5
50代	2	33.3



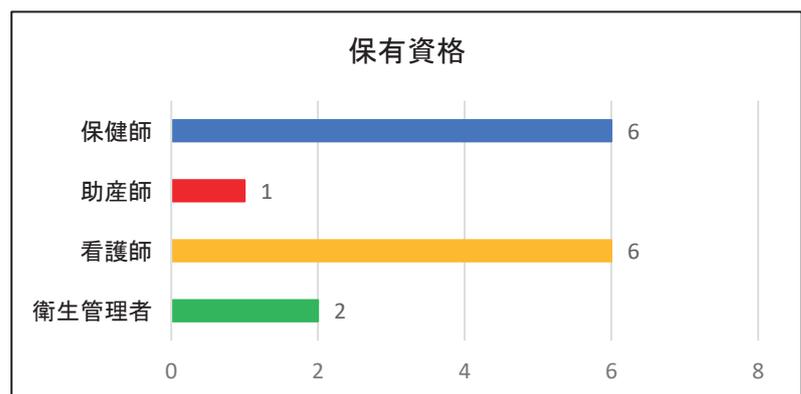
2) 現在の所属

	人数	割合(%)
あり	6	100
なし	0	0



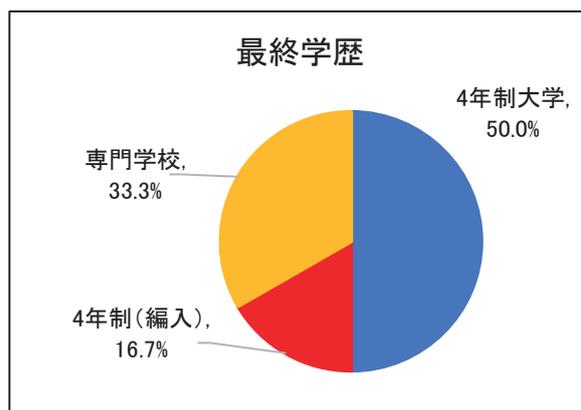
3) 保有資格(複数回答)

	人数	割合(%)
保健師	6	100
助産師	1	17
看護師	6	100
衛生管理者	2	33



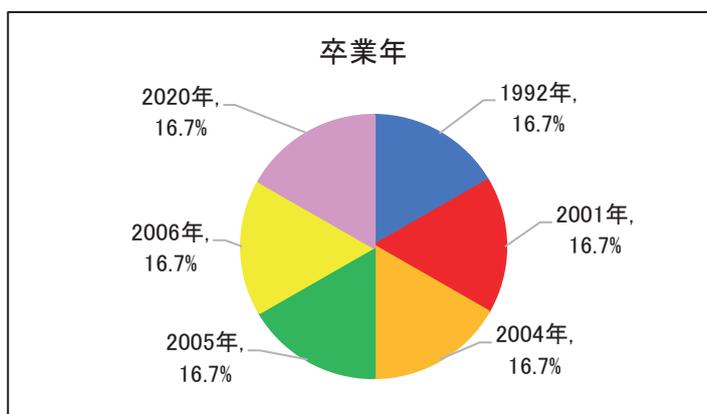
#### 4) 最終学歴

	人数	割合(%)
4年制大学	3	50.0
4年制(編入)	1	16.7
専門学校	2	33.3



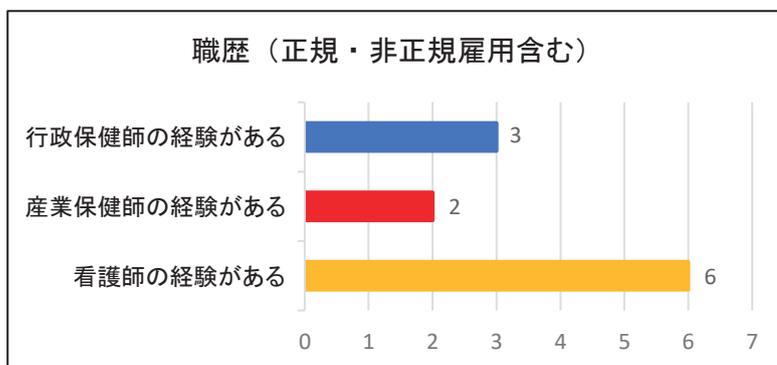
#### 5) 卒業年

	人数	割合(%)
1992年	1	16.7
2001年	1	16.7
2004年	1	16.7
2005年	1	16.7
2006年	1	16.7
2020年	1	16.7



#### 6) 職務経験

	人数	割合(%)
行政保健師の経験がある	3	50.0
産業保健師の経験がある	2	33.3
看護師の経験がある	6	100.0

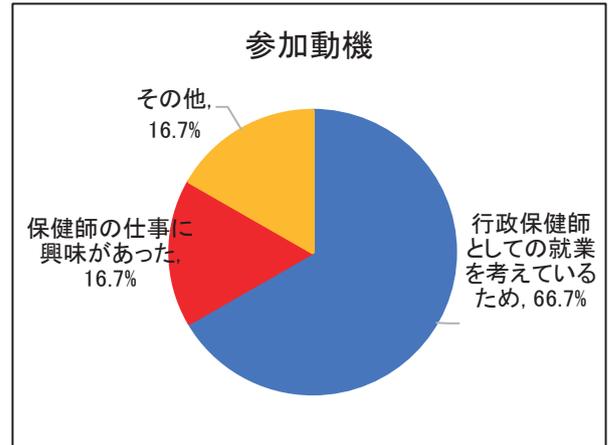


## 2. 研修への参加動機

	人数	割合(%)
行政保健師としての就業を考えているため	4	66.7
保健師の仕事に興味があった	1	16.7
その他 (※)	1	16.7

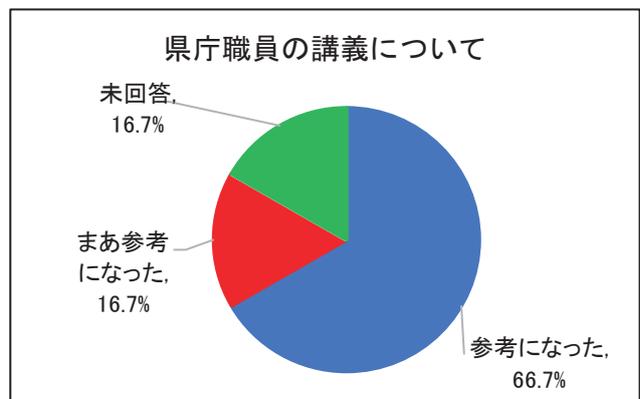
※その他 (自由記載)

「保健師としてパート勤務をしているが  
入職前後の教育がなく、参考にするため」



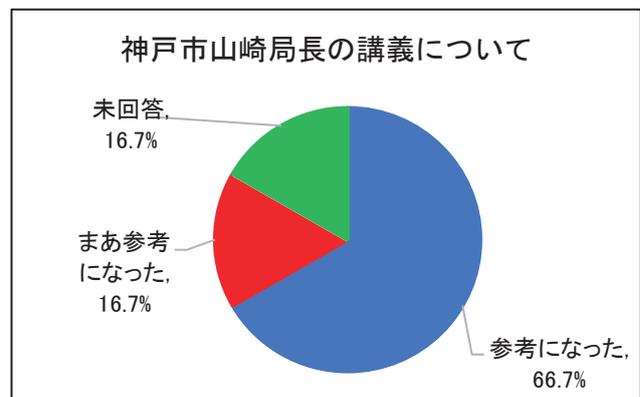
## 3. 県庁職員による講義について

	人数	割合(%)
参考になった	4	66.7
まあ参考になった	1	16.7
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0
未回答	1	16.7



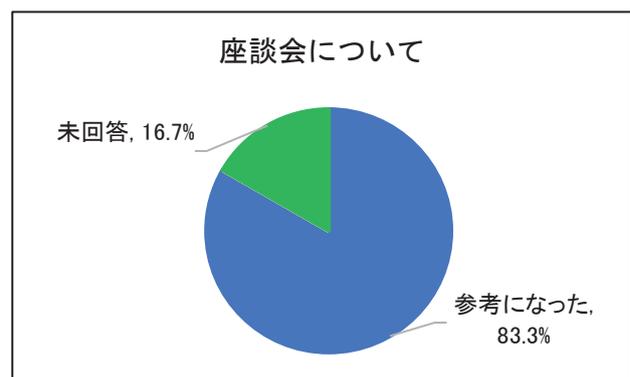
## 4. 神戸市山崎局長による講義について

	人数	割合(%)
参考になった	4	66.7
まあ参考になった	1	16.7
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0
未回答	1	16.7



## 5. 座談会について

	人数	割合(%)
参考になった	5	83.3
まあ参考になった	0	0
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0
未回答	1	16.7



<事前アンケート>

座談会で話題にしたいこと	
試験対策に関するもの	勉強方法、勉強内容
採用に関するもの	兵庫県下や他府県での採用状況について
	正規雇用における年齢制限について（コロナ前は年齢制限があったことについて）
	保健師経験がなくても働くことができるか。
	採用にあたり、どのような人材が求められているか。
コロナ禍による影響について	保健所業務への影響（人員体制、超過勤務の状況、他事業への影響）
	大変さ、やりがいについて
人材育成について	会計年度職員のキャリアアップ支援（研修体制）について

<事後アンケート>

県庁職員の講義で学びになったことをご記入ください。	
保健師の役割	制度について、県の職員としての保健師の役割
	県庁職員の役割を学ぶことができた。
保健師の活動	活動の具体的な内容を聞くことができました。活動内容が資料にまとめられていてわかりやすかったです。
	今、現在の保健師の活動のイメージができた。時代に応じて活動する項目（認知症など）が増えたことなど
保健行政の動向	最近の動向、県の取り組み等がざっとわかり、良かった。

神戸市山崎局長の講義で学びになったことをご記入ください。	
保健師の役割	市での保健師の役割を学ぶことができた。
実際の保健師活動	訪問活動の実際について知ることができました。現場の様子や対応のことがわかりやすかったです。不安を想定してあらかじめ質問を考えておくことは、日々の業務でも心がけてできると思いました。
	市民との直接のやりとり、コミュニケーションの大切さ
コロナ対応	コロナ対応で Q&A の作成をタイムリーに行ったことなど、今の仕事においても参考になるような実際の活動を聞くことができた。
全体的な感想	とても具体的な内容だったので、大変良かった。イメージがわきやすかった。

座談会を通して、参考になったことや、学んだこと、気づいたことなどをご記入ください。	
採用・就業状況	現在の保健師採用試験の詳しい状況を聞くことができた。
	今、現在の保健師の就業情報が聞けて良かったです。
就業に向けた理解	試験内容や傾向、実際の仕事内容、3年目の若い保健師の経験、教育体制（研修内容）など、聞きたいことが聞けたので大変良かった。参加して大変役に立った。
保健師の活動・やりがい	保健師に求められることについて、活動すること、日々考えて行動することの大切さを知ることができた。やりがいについても興味深かったです。

今後、保健師就業・復職支援研修で学びたいことや取り入れてほしい内容などがありましたら、ご自由にご記入ください。	
採用試験について	就職試験対策（前年度の論文の題など）
	採用試験内容についてももう少し詳しく知りたかった。
非正規雇用保健師としての要望	相談援助における面接技法や健康教育の仕方など（現任教育が受けられない立場なので・・・）

上記でご記入された内容以外に、研修全体を通しての感想などをお聞かせください。	
身近に感じられた	初めて参加しましたが、市や県の職員の方の実際を聞くことができて良かったです。
	保健師就業に対して、すごく壁があった気がしたんですが、色々な情報が聞けて、身近に頑張れる気がしました。ありがとうございます。
就業への活用	全体的には大変役に立つ内容でありがたかったです。
非正規雇用保健師としての感想	お忙しい中、企画してくださりありがとうございます。私では場違いかなと思いつつ参加させていただきました。行政保健師として働き、やりがいを感じていましたが、復職は簡単ではありませんね。どこかで保健師ができればいいなと思います。

人材育成やキャリア支援で、兵庫県保健師キャリア支援センターで取り組んでほしいこと、期待することなどがありましたら、お聞かせください。	
広報について	こういった研修があるということを知らない人も多いと思います。いろんなところで広報していただけると、もっと参加希望者が増えるのではと思います。
スキルアップ支援	保健師の基本的なことや業務の実際、スキルアップのための情報があればと思います。
	色々な立場の保健師（正規以外）の教育研修も企画していただけると大変うれしいです

## 2022年度 オンデマンド研修

目的:新型コロナウイルス感染症禍で市町村間の保健師による直接的な情報共有の場がなく、活動方法を模索している方も多い。そのために、兵庫県内の先駆的活動や特徴的活動を実施している自治体やその活動を取り上げ、オンデマンドで活動紹介を行う。

方法:兵庫県保健師キャリア支援センターホームページ内のオンデマンド研修視聴サイトからパスワード入力 of 視聴ページへ遷移し、視聴する。

### 1. 先駆的保健活動の紹介

- 1) テーマ:「神戸市における介護予防の取り組み」と題した講話及び活動紹介  
講師:神戸市福祉局介護保険課

### 2. 新任期保健師研修

- 1) 合同研修(オンデマンド配信)
  - (1) 日時:2022年6月29日(水) 10:30~12:00  
(2) 内容:講義「伝える:災害時の保健活動」  
講師:兵庫県保健医療部
- 2) 課題説明
  - (1) 1年目の課題の取り組み方について  
日時:2022年7月11日(月) 15:10~16:30  
内容:講義「1年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課
  - (2) 2年目の課題の取り組み方について  
日時:2022年7月14日(木) 13:00~14:20  
内容:講義「2年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課
  - (3) 3年目の課題の取り組み方について  
日時:2022年7月14日(木) 15:10~16:30  
内容:講義「3年目の課題の取り組み方について」  
講師:兵庫県保健医療部健康増進課

## 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

### 総 括



## 2022 年度兵庫県保健師キャリア支援センター事業総括

### 1. 兵庫県保健師キャリア支援センター運営協議会

今年度は、5 月及び 3 月の 2 回開催し、主に新任期保健師研修を始めとする人材育成について協議した。新任期保健師研修は対面を基本とし、前期Ⅰ、前期Ⅱ及び後期の約 6 か月に及ぶ継続研修として、対象年ごとに年間 3 回ずつ実施することになった。グループワークや、先輩・中堅期保健師の講話の学びが好評であったことから、今後も企画することが確認された。一方で、講師の人選に苦慮している実態も共有され、日常の保健活動を実践しつつ、どのように効果的な OJT を進めていくかという課題も明らかになった。

### 2. 人材育成研修

#### 1) 新任期保健師研修会

新任期保健師の合同研修として、災害時の保健師活動についてオンライン研修を実施し、170 名(うち新任期 169 名)の参加を得た。継続研修としては、前期Ⅰ研修では各対象年のテーマ別講義(1 年目:個別支援、2 年目:地域診断、3 年目:PDCA)について神戸大学大学院の和泉比佐子先生を講師にお迎えし、7 月 11(月)及び 7 月 14 日(木)に実施し、聴講者を含みそれぞれ 86 名(うち新任期 82 名)、59 名(同 57 名)、40 名(同 38 名)の参加を得た。また、前期Ⅱ研修では、先輩保健師の講話とグループワークを行い、それぞれ 103 名(同 83 名)、68 名(同 55 名)、45 名(同 36 名)の参加であった。後期研修では、中堅期保健師による各テーマ別の保健活動の実際についての講話、及び課題に関するグループワークを行った。参加者は、それぞれ 101 名(同 81 名)、67 名(同 54 名)、42 名(同 33 名)で、前期Ⅱ研修及び後期研修のファシリテーターは、1 年目各 20 名、2 年目各 13 名、3 年目各 9 名であった。新任期研修全体では、フィードバック研修を含み、11 回、延 791 名(同 691 名)の参加であった。研修後のアンケートでは、全ての研修において 9 割以上が学びの効果を感じられたとの評価であった。

#### 2) プリセプター研修会

11 月 18 日(金)に開催し、44 名の参加を得た。甲南女子大学看護リハビリテーション学部の合田加代子先生を講師にお迎えし、新任期の特性を踏まえた上での個別支援能力を高めるプリセプターシップのあり方の講義、及びプリセプターとしての現状や課題を共有し、今後の支援のあり方を考えるグループワークを行った。研修後のアンケートでは 9 割以上が講義及びグループワークについて学びを実感できる研修となった。また、県庁職員の講師による、新任期保健師研修で重要な役割を果たすファシリテーターに関する説明もを行い、改めてファシリテーターについて学べる機会となった。

#### 3) 地域ケアの総合調整研修

8 月 25 日(木)に、武庫川女子大学看護学部の和泉京子先生を講師にお迎えし、地域活動において科学的手法を用いて課題を明らかにする必要性とその方法について、講演を行った。参加者は 5 名であった。本講座の受講者のうち、宍粟市と武庫川女子大学、淡路市と関西看護医療大学、洲本市と神戸市看護大学が各々チームを組み、課題研修に取り組んでいる。

#### 4) 統括期保健師研修会

10 月 31 日(月)に開催し、6 名の参加を得た。神戸市看護大学の岩本里織先生及び兵庫県保健医療部の保健師を講師とし、統括保健師について、理論と実践活動の両面からの学びを深め、ワークも取り入れながら今後の活動の示唆を得られる学びとなった。

### 3. 保健師及び地域保健に携わる関係者への調査研究

現在、「保健師のキャリア支援に関するニーズと支援体制に関する研究」、「職歴を考慮した新任期保健師の人材育成支援に関する研究」、「保健師の産休・育休復帰支援に関する研究」に取り組んでいる。これらの研究を通して、兵庫県下の保健師の実態を把握し、調査結果をもとに今後必要な支援の検討を進めていく予定である。

### 4. 保健師キャリア支援(再就業支援含む)

#### 1) 保健師キャリア相談

兵庫県内の保健師(保健師免許保有者)を対象として、活動に関する具体的な相談(事業、個別支援等)、スキルアップやキャリアラダーに関すること等保健師活動全般に関する相談窓口を開設している。今年度の相談実績は5件で、相談内容は、研修講師の紹介や、キャリアアップに関する相談などであった。必要に応じて相談ができる窓口をさらに周知する必要がある。

#### 2) 保健師就業・復職支援研修会

今年度からの新たな取組として、保健師資格取得後、保健師活動から離れていた人材を有効に活用するため、潜在保健師等の就業・復職を促進することを目指し、座学と実地見学で構成する研修会を行った。2月1日(水)には、県庁職員による最近の保健医療福祉施策等に関する講義や、神戸市健康局による神戸市の保健師活動についての講義を始め、現職保健師との座談会を行った。また、2月17日(金)には神戸市の乳幼児健診の実地見学を行い、それぞれ6名、2名の参加を得た。研修後のアンケートでは、8割以上が学びの効果を感じており、このような研修を広く周知してほしいという要望も寄せられた。

#### 3) オンデマンド研修

先駆的保健活動として、神戸市福祉局による神戸市の介護予防の取組についての講話及び活動紹介をオンデマンド配信した。その他、新任期保健師研修会の災害時の保健活動の話や、研修課題の説明に関する動画も配信し、随時活用できるよう提供している。

### 5. まとめ

兵庫県保健師キャリア支援センターでの取組を開始して2年目である今年度は、新たな研修も含めて、対面研修を基本とした人材育成の取組を中心に、さらに充実した研修となるよう企画実施した。まず、新任期保健師研修会について、健康危機管理分野をテーマにした合同研修を行ったところ、震災の体験に乏しい新任期保健師にとっては、平時からの保健活動の重要性に気付く機会となった。また、継続研修においても、研修課題に取り組む時間を確保できるようなスケジュール設定及び、対面でのグループワーク、先輩からの学びの場を毎回企画したところ、有意義であったと大変好評であった。さらに、地域ケアの総合調整研修として、根拠に基づく保健活動への支援や、保健師就業・復職支援研修会による潜在保健師の活用を目指した研修の実施など、前年度より多角的な人材育成に取り組み、参加者からは高評価を得た。このような企画が実現したのは、県内の自治体保健師及び看護系大学教員の協力によるところが大きく、県内全体で人材育成を進めていく機運を一層高め、継続して質の高い研修を実施していくことが重要であると考えます。

一方で、キャリア相談の認知度は低く、必要に応じて活用できる相談窓口として、更に周知する必要があるとともに、保健師活動を支える当センターの役割についても整理が必要である。

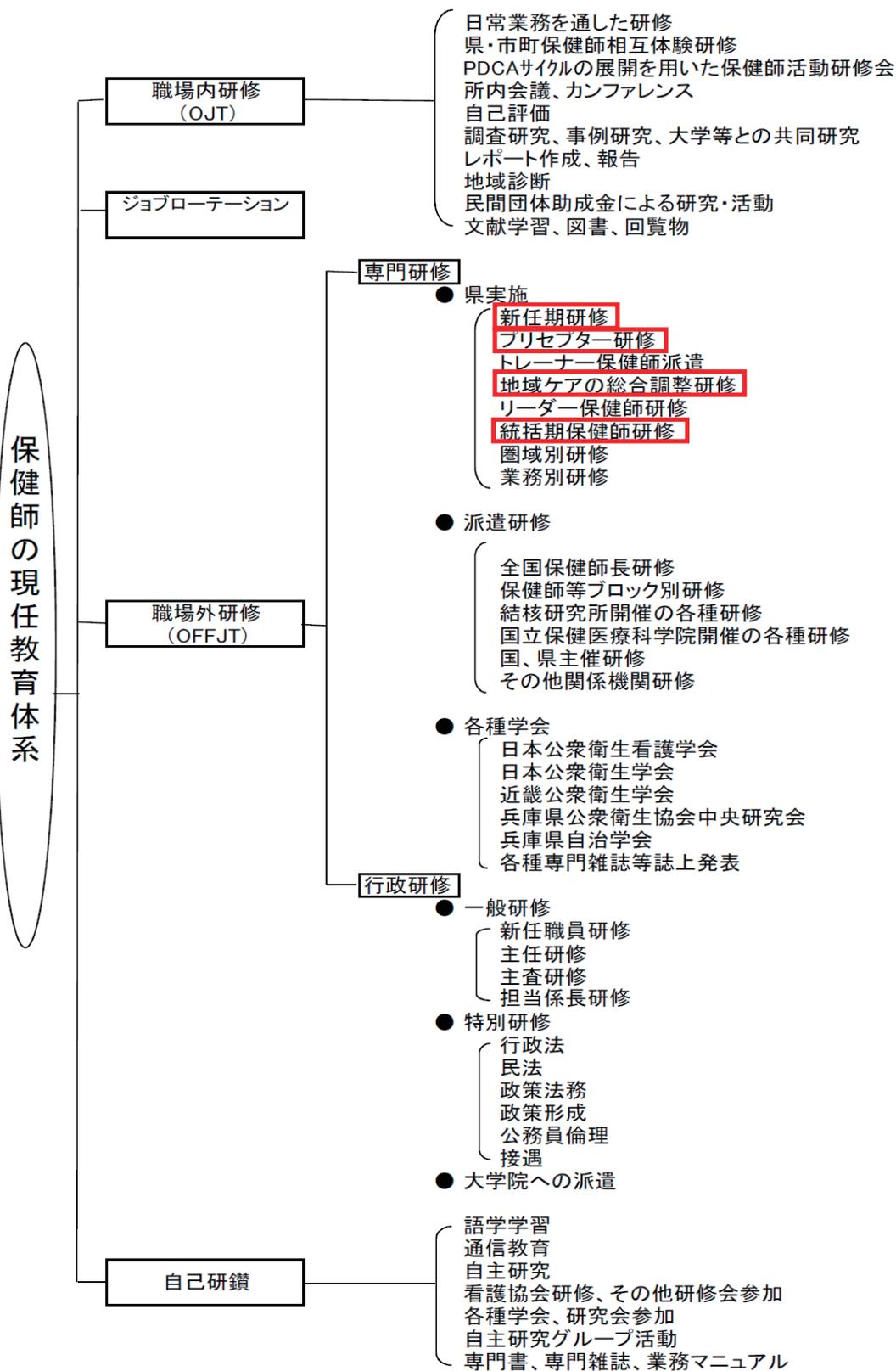
今後は、現在進めている調査研究や取組を通じて把握したニーズをもとに、質の高い保健師の確保・育成を図ることができるよう、関係機関とも協議しながら進めてまいりたい。

## 卷末資料



# 兵庫県の保健師の現任教育体系

※   は兵庫県保健師キャリア支援センター2021年度実施事業



出典: 兵庫県の保健師人材育成ガイドライン

自治体保健師の標準的なキャリアラダー（専門的能力に係るキャリアラダー）

出典：兵庫県保健師人材育成ガイドライン

別紙2-1

		キャリアレベル				
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
キャリアレベルの定義		<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の新任者であり行政組織人及び保健師専門職としての自覚を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画された担当業務を自立して実施する。</li> <li>プリセプターとして後輩の指導を担う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健活動に係る担当業務全般について自立して行う。</li> <li>役割や立場の違いを理解し、つなぎ役としての組織的役割を担う。</li> <li>自組織を越えたプロジェクトに参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属係内でチームのリーダーシップをとって保健活動を推進する。</li> <li>キャリアレベルA-5の保健師を補佐する。</li> <li>関係機関との信頼関係を築き協働する。</li> <li>自組織を越えたプロジェクトで主体的に発言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属課の保健事業全般に関して指導的役割を担う。</li> <li>自組織を越えた関係者との連携・調整を行う。</li> </ul>
所属組織における役割		<ul style="list-style-type: none"> <li>担当業務を的確に把握・理解し、個別事例に対して責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係の保健事業に係る業務全般を理解し、地域支援活動に係る担当業務に責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係の保健事業と施策との関係性を理解し、主担当として担当業務に責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課の保健事業に係る業務全般を理解し、その効果的な実施に対して責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の健康施策に係る事業全般を理解し、その効果的な実施に対して責任を持つ。</li> </ul>
責任を持つ業務の範囲		<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な事例への対応を主体的に行う。</li> <li>地域活動を通して地域特性や地域資源を把握し、地域の人の健康課題を明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例への対応を必要に応じて指導を受けて実施する。</li> <li>担当地域の健康課題の優先度を判断し、地域の人の主体性を尊重した解決策を立案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例に対して自立して対応する。</li> <li>健康課題を明確にし、チーム内で共有し、地域の人々と協働して事業計画を立案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例に対して、担当保健師等にスーパーバイズすることができ、地域の潜在的な健康課題を明確にし、施策に応じた事業化を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織横断的な連携を図りながら、複雑かつ緊急性の高い地域の健康課題に対して迅速に対応する。</li> <li>健康課題解決のための施策を提案する。</li> </ul>
専門技術の到達レベル						

		各レベルにおいて求められる能力				
1	対人支援活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学や公衆衛生看護学等の専門知識に基づき個人及び家族の健康と生活に関するアセスメントを行う能力</li> <li>個人や家族の生活の多様性を踏まえ、あらゆる保健活動の場面を活用して個人及び家族の主体性を尊重し、課題解決のための支援及び予防的支援を行う能力</li> <li>必要な資源を導入及び調整し、効果的かつ効率的な個人及び家族への支援を行う能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人及び家族の健康と生活について分析し健康課題解決のための支援計画を立てることができる。</li> <li>個人及び家族の多様性や主体性を尊重した支援を指導を受けながら実践できる。</li> <li>支援に必要な資源を把握できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例の支援を必要に応じて、指導を受けて実施できる。</li> <li>対象の主体性を踏まえ、支援に必要な資源を指導を受けて導入及び調整できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例の潜在的な健康課題を把握し、予防に係る支援を実施できる。</li> <li>健康課題に予防的に介入できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑かつ緊急性の高い健康課題を迅速に明確化し、必要な資源を調整し、効果的な支援を実践できる。</li> </ul>
	保健師の活動領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>求められる能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人及び家族の健康と生活について分析し健康課題解決のための支援計画を立てることができる。</li> <li>個人及び家族の多様性や主体性を尊重した支援を指導を受けながら実践できる。</li> <li>支援に必要な資源を把握できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例の支援を必要に応じて、指導を受けて実施できる。</li> <li>対象の主体性を踏まえ、支援に必要な資源を指導を受けて導入及び調整できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な事例の潜在的な健康課題を把握し、予防に係る支援を実施できる。</li> <li>健康課題に予防的に介入できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑かつ緊急性の高い健康課題を迅速に明確化し、必要な資源を調整し、効果的な支援を実践できる。</li> </ul>
	1-1. 個人及び家族への支援					
	1-2. 集団への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の特性を把握し、グループダイナミクスを活用し、集団及び地域の健康度を高める能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団のグループダイナミクスを活用して、特性に応じた支援計画を企画し、自立して支援できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団への支援を通して、地域の健康課題を明確化する事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団への支援を通して、地域の課題解決に向けた事業計画を立案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団への支援を通して立案した事業により、住民による地域の健康課題の解決を支援することができる。</li> </ul>

保健師の活動領域		各レベルにおいて求められる能力			
2 地域支援活動	2-1. 地域診断・地区活動	・地域の健康課題や地域資源を明確化し、地域組織や関係機関と協働して課題解決する能力	・担当地区の情報分析し、健康課題の明確化と優先性の判断ができる。	・地域診断や地区活動で明確化された課題を事業計画立案に活用できる。	・地域診断や地区活動で明らかになった課題を施策立案に活用できる。
	2-2. 地域組織活動	・地域の特性を理解し住民と協働して組織化・ネットワーク化を促す能力 ・地域組織を育成し、ネットワーク化し協働する能力	・多様な住民ニーズを把握しながら、地域組織と共に活動できる。	・住民ニーズに応じた組織化が提案できる。	・住民ニーズに応じた組織化と協働し、必要に応じて新たな資源やネットワークの立ち上げを検討することができる。
3 事業化のための活動策化	2-3. ケアシステムの構築	・健康なまちづくりを推進するため保健、医療、福祉、介護等の各種サービスの総合的な調整を行う能力 ・住民、学校、企業ほか、地域の関係機関と協働し連携を図り、地域特性に応じたケアシステムを構築する能力	・担当地区の各種サービスとの関係性を理解し、指導を受けながら担当事例への対応を通して必要なサービス調整ができる。	・地域の健康課題や地域特性に基づき、関係機関と協働し、地域ケアシステム改善・強化について検討できる。	・保健福祉政策に基づき、地域特性に応じたケアシステムの構築に係る施策化ができる。
	3-1. 事業化・施策化	・保健医療福祉施策を理解し、事業を企画立案し、予算確保できる能力 ・地域の健康課題を解決するため、自組織のビジョンを踏まえた保健医療福祉施策を提案する能力	・担当地区の健康課題を把握し、施策と事業との関連性について理解したうえで、事業計画立案に参画することができる。	・係内の事業の成果や評価等をまとめ、組織内で共有することができる。	・保健医療福祉計画に基づいた事業計画を立案し、事業や予算の必要性について上司や予算担当者に説明できる。
4 健康危機管理に関する活動	4-1. 健康危機管理の体制整備	・平時において、地域の健康課題及び関連連法規や自組織内の健康危機管理計画等に基つき、地域の健康危機*の低減策を講じる能力 *災害、医薬品、食中毒、感染症、飲料水その他何らかの原因により生じる地域住民の生命、健康の安全を脅かす事態	・健康危機対応マニュアルに基づき、予防活動を行うことができる。	・健康危機管理計画を踏まえ健康危機の事業を提案できる。	・有事に起こりうる複雑な状況の対応に備え、平時より関係者との連携体制を構築できる。 ・健康危機管理計画や体制の見直しを計画的に行うことができる。
	4-2. 健康危機発生時の対応	・健康危機発生時に、組織内外の関係者と連携し、住民の健康被害を回避し、必要な対応を迅速に判断し実践する能力	・発生要因を分析し、二次的健康被害を予測し予防するための活動を主体的に実施できる。	・必要な情報を整理し組織内外の関係者へ共有でき、変化する状況を分析し、二次的健康被害を予測し、予防活動を計画、実施できる。	・健康被害を予測し、回避するための対応方法について、変化する状況を踏まえて、見直しができる。 ・組織内の関連部署と連携、調整できる。

保健師の活動領域		各レベルにおいて求められる能力					
5 管理的活動	保健師の活動領域	求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルに基づく事業評価方法を理解できる。</li> <li>・担当する事例に係る評価結果に基づき支援方法の見直しができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属係内のメンバーと共同して事業の評価及び見直しを主体的に実施できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属係内で事業評価が適切に実施できるよう後輩保健師を指導できる。</li> <li>・事業計画の立案時に評価指標を適切に設定できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属部署内外の関係者とともに事業評価を行い、事業の見直しや新規事業の計画を提案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価に基づき保健活動の効果を検証し、施策の見直しについて提案できる。</li> <li>・施策立案時に評価指標を適切に設定できる。</li> </ul>
	5-1. PDCAサイクルに基づく事業・施策評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属部署内外の関係者とともに、事業評価及び施策評価を行う能力</li> <li>・評価結果等の根拠に基づき事業及び施策の必要を見直しを行う能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織における情報管理に係る基本指針を理解し、業務に係る文書等を適切に管理できる。</li> <li>・保健活動上知り得た個人情報等を適切に取り扱うことができる。</li> <li>・業務の記録を適切に行い関係者への情報伝達ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健活動に係る情報の取扱が適切に行われているか、自主的に確認できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属係内の保健師が規則を遵守して保健活動に係る情報を管理するよう指導できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健活動に係る情報管理上の不則の事態が発生した際に、所属部署内で主導して対応できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健活動の情報管理に関する規則の遵守状況を評価し、マニキュアル等の見直しを提案できる。</li> </ul>
	5-2. 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織内外の保健活動に係る情報を適切に保管、開示、保護する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の人材育成方針及び保健師の人材育成計画を理解し、作成する能力</li> <li>・継続的に自己研鑽するとともに、後輩を指導・育成する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のキャリア形成ビジョンを持ち、積極的に自己研鑽できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後輩保健師の指導を通して人材育成上の課題を抽出し、見直し案を提示できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の研修事業を企画し、実施・評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の人材育成方針に沿った保健師の人材育成計画を作成できる。</li> </ul>
5-3. 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づいた保健師の活動を実践する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域診断などにおいて研究的手法を用いて分析し、根拠に基づき保健事業を計画できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究的手法を用いた事業評価ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域診断などにおいて研究的手法を用いて分析し、根拠に基づき保健事業を計画できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づき、質の高い保健事業を提案し、その効果を検証できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づき、質の高い保健事業を提案し、その効果を検証できる。</li> </ul>	
6. 保健師の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の活動理念である社会的公正性・公共性について理解し、活動を倫理的に判断する能力</li> </ul>	<p>保健師の活動の理念である社会的公正性・公共性について理解し、活動を倫理的に判断できる</p>					

自治体保健師の標準的なキャリアラダー(管理職保健師に向けた能力に係るキャリアラダー)

別紙2-2

キャリアレベル	
B-1 (係長級への準備段階)	B-2 (係長級)
B-3 (課長級)	
B-4 (部局長級)	

保健師の活動領域	各レベルにおいて求められる能力			
	求められる能力	B-1 (係長級への準備段階)	B-2 (係長級)	B-3 (課長級)
管理的活動	1. 政策策定と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の動向や自組織の方針を理解し、担当部署に係る活動方針のビジョンを示し、必要に応じた見直しを行う能力</li> <li>自治体を代表して外部機関の上位者との調整や交渉を行う能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の健康課題等に基づく事業化、施策化及び事業評価に基づく見直しができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療福祉に係る国の動向や組織の方針、施策の評価を踏まえ、組織の政策ビジョンに係る提言ができる。</li> </ul>
	2. 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機等の発生時に組織の管理者として迅速な判断を行う能力</li> <li>組織内外の調整を行う能力</li> <li>危機を回避するための予防的措置が行われるよう管理する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルに沿って行動できるよう訓練等を企画できる。</li> <li>有事に組織内の人員や業務の調整を行い、課長の補佐や部下への指示ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課員が危機管理マニュアルに沿って行動できるよう各係長級に対し、訓練等の実施を指導できる。</li> <li>有事に、組織の対応方針に基づき、組織内の人的物的資源等の調整や管理ができる。</li> </ul>
	3. 人事管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当部署内の全職員の能力・特性を把握し、資質向上のしくみづくりと必要に応じた見直しを行う能力</li> <li>組織目標・計画を踏まえて保健師採用計画・配置基準・人事異動を提言する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の人材育成方針と保健師の人材育成方針を踏まえて、主体的に資質向上に取り組むことができる。</li> <li>係内の業務内容と量を勘案し、人材配置について係長に提案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係内職員の能力・特性を把握し、資質向上のための取組を企画、実施、評価できる。</li> <li>係内の業務内容と量を勘案し、人材配置について課長に提案できる。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療福祉政策に係る必要な計画や法制度整備について組織内で提言し、実現に向け組織の意志決定者及び関係機関にはたらきかけられることができる。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理に必要な計画・マニュアル・内規等の整備を組織に提言し、実現化することができる。</li> <li>有事に、行政の保健医療福祉組織を代表して、関係機関の代表者と連携し、部局を統括して対応できる。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>組織目標・計画を踏まえて、保健師採用計画・配置基準・人事異動を提言できる。</li> </ul>

# 兵庫県保健師キャリア支援センター事業

【2022年度の実績】

(神戸市看護大学 いちかんダイバーシティ看護開発センター内)

## 兵庫県保健師キャリア支援センター(2021.4月設置)

県内のすべての保健師の質の向上を目指す人材育成拠点

現職保健師

潜在保健師

資質向上・キャリア支援  
人材確保

### 人材育成研修

兵庫県人材育成ガイドラインに則った研修

2022年度参加者

新任期 延691名

プリセプター 44名

統括期 6名

地域ケアの総合調整研修

3市・3大学

### キャリア支援

リカレント教育・キャリア相談

2022年度実績(2022.3.15現在)

キャリア相談 5件

オンデマンド研修

保健師就業・復職支援研修会

6名

### 兵庫県保健師キャリア支援センター

事務局: 神戸市看護大学

兵庫県

運営委託

### 調査研究

- ①保健師のキャリア支援に関するニーズと支援体制に関する研究
- ②新任期保健師の職歴を考慮した人材育成支援に関する研究
- ③行政保健師の産育休取得前後の支援ニーズに関する研究

(2022年度全て現在進行中)

### 運営協議会

構成員12名

保健師代表

(県、政令市、中核市、市町)

兵庫県看護系大学協議会

県看護協会

2022年度 年2回開催

兵庫県看護協会

兵庫県内行政機関

ネットワーク構築

兵庫県内事業所等

兵庫県内看護系大学

## 新任期保健師研修 専門的能力評価表

### 1 個別支援(1年目相当)

※本評価表の記入者について、対象者が指導者のいずれかに☑を入れてください

評価年月日〔 〕  
 対象者(自己評価者)：所属〔 〕 氏名〔 〕  
 指導者(指導保健師評価者)：所属〔 〕 職氏名〔 〕

評価：  
 ◎達成できた  
 ○だいたい達成できた  
 △あまり達成できなかった  
 ×達成できなかった

能力・役割 (到着目標)	具体的説明 (行動目標)	(達成目標)	評 価	
(1)個人・家族、集団への支援	①訪問や面接などで相談者の話をしっかり聴き、信頼関係を築くことができる。	担当地区の訪問対象者を把握することができる		
		訪問の優先順位を考慮することができる		
		対象の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる		
		対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる		
		対象にあわせた必要物品を整えることができる		
		訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる		
		訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる		
		相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話をしっかり聴くことができる		
		個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる		
	生活者としての価値感や信念を尊重することができる			
	②個人や家族単位で行う保健指導に必要な情報収集、分析、計画の立案を行うことができ、行動変容を促す保健指導を行うことができる。	対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる		
		訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる		
		対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)		
		安全な方法で支援技術を提供できる		
		対象者の話を整理し、主訴を的確にとらえることができる		
		個人・家族のもつ力を引き出すことができる		
		家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる		
		判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)		
		個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる		
		必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる		
		現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる		
		保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる		
		対象者の変化を見ながら指導ができる		
		健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる		
		行動変容を促す援助ができる		
		今後のかかわり方等について対象者に伝えることができる		
		具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる		
	訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる			
	単独で継続訪問できる			
	困ったときには指導者の助言を求めることができる			
	継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる			
	③地域にある社会資源や地区組織活動・セルフヘルプグループの活動を理解する。	地区組織活動やセルフヘルプグループの活動内容を説明できる		
		個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる		
	④個別事例を地域全体の中に位置づけて考えることができる。	個別事例への支援を通じて地域の課題へ視点を広げることができる		
	(2)企画・立案・評価	①担当地域の健康課題を知る。	担当分野、地域について必要な情報を集めることができる	
	(3)情報収集・調査研究	①地域の特性、保健情報、援助対象の保健情報、社会資源等を収集できる。	必要な情報があるデータベースを知っている	
収集した情報を地域特性や健康課題を抽出するデータとして整理・選択し、保管することができる				
担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う				

## 新任期保健師研修 専門的能力評価表

### 2 地域診断(2年目相当)

※本評価表の記入者について、対象者が指導者のいずれかに☑を入れてください

評価年月日〔 〕  
 対象者(自己評価者)：所属〔 〕氏名〔 〕  
 指導者(指導保健師評価者)：所属〔 〕 職氏名〔 〕 職氏名〔 〕

※   は、1個別支援受講時に達成しているべき項目(再評価すること)

評価：  
 ◎達成できた  
 ○だいたい達成できた  
 △あまり達成できなかった  
 ×達成できなかった

能力・役割 (到着目標)	具体的説明 (行動目標)	(達成目標)	評価
(1)個人・家族、集団への支援	①訪問や面接などで相談者の話をしっかり聴き、信頼関係を築くことができる。	担当地区の訪問対象者を把握することができる	
		訪問の優先順位を考慮することができる	
		対象の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる	
		対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる	
		対象にあわせた必要物品を整えることができる	
		訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる	
		訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる	
		相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話をしっかり聴くことができる	
		個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる	
		生活者としての価値感や信念を尊重することができる	
	②個人や家族単位で行う保健指導に必要な情報収集、分析、計画の立案を行うことができ、行動変容を促す保健指導を行うことができる。	対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる	
		訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる	
		相談内容の緊急性や重要性について判断できる	
		対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)	
		安全な方法で支援技術を提供できる	
		対象者の話を整理し、主訴を的確にとらえることができる	
		個人・家族のもつ力を引き出すことができる	
		家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる	
		判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)	
		個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる	
必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる			
現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる			
保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる			
対象者の変化を見ながら指導ができる			
健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる			
行動変容を促す援助ができる			
今後のかかわり方等について対象者に伝えることができる			
具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる			
訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる			
単独で継続訪問できる			
困ったときには指導者の助言を求めることができる			
継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる			
支援に必要な関係機関を理解できる			
障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について、関係機関への連絡等により、情報収集ができる			
障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例について適切にアセスメントし、潜在化し健康ニーズを把握できる			
障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、支援方策を検討できる			

## 新任期保健師研修 専門的能力評価表

### 2 地域診断(2年目相当)

※本評価表の記入者について、対象者が指導者のいずれかに☑を入れてください

評価年月日〔 〕  
 対象者(自己評価者)：所属〔 〕氏名〔 〕  
 指導者(指導保健師評価者)：所属〔 〕 職氏名〔 〕 職氏名〔 〕

※   は、1個別支援受講時に達成しているべき項目(再評価すること)

評価：  
 ◎達成できた  
 ○だいたい達成できた  
 △あまり達成できなかった  
 ×達成できなかった

能力・役割 (到着目標)	具体的説明 (行動目標)	(達成目標)	評価
<b>(1)個人・家族、集団への支援</b>	③地域にある社会資源や地区組織活動・セルフヘルプグループの活動を理解する。	地区組織活動やセルフヘルプグループの活動内容を説明できる	
		地域の組織等と必要時連絡が取れ、連携して社会資源を活用できる	
		個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる	
		個人・家族等対象者が社会資源を利用できるよう調整できる	
	④個別事例を地域全体の中に位置づけて考えることができる。	個別事例への支援を通じて地域の課題へ視点を広げることができる	
		地域のデータと個別事例を関連させて考えることができる	
<b>(2)企画・立案・評価</b>	①担当地域の健康課題を知る。	担当分野、地域について必要な情報を集めることができる	
		担当地域の健康課題について説明できる	
<b>(3)情報収集・調査研究</b>	①地域の特性、保健情報、援助対象の保健情報、社会資源等を収集できる。	必要な情報があるデータベースを知っている	
		収集した情報を地域特性や健康課題を抽出するデータとして整理・選択し、保管することができる	
		地区診断をレポートにまとめることができる	
		担当する地域の統計資料を収集し、県、国の資料と比較や分析を行う	
	②調査研究課題を見出すことができる。	家庭訪問、保健事業への参加や関係機関との連絡をとおして地域特性を説明できる	
		データや情報から地域の潜在化している健康問題を抽出できる	
		担当する地域、業務から調査研究課題を明確にできる	
		職場内で地区診断結果をプレゼンテーションし、今後の方針について検討できる	
	職場内で地域の健康問題の解決策が立案できる		

### 新任期保健師研修 専門的能力評価表

#### 3 地域連携(3年目相当)

※本評価表の記入者について、対象者か指導者のいずれかに☑を入れてください

評価年月日〔 〕  
 対象者(自己評価者) : 所属〔 〕 氏名〔 〕  
 指導者(指導保健師評価者) : 所属〔 〕 職氏名〔 〕 職氏名〔 〕

評価：  
 ◎達成できた  
 ○だいたい達成できた  
 △あまり達成できなかった  
 ×達成できなかった

※  は1個別支援、2地域診断受講時に達成しているべき項目(再評価すること)

能力・役割 (到着目標)	具体的説明 (行動目標)	(達成目標)	評価
(1)個人・家族、集団への支援	①訪問や面接などで相談者の話をしっかり聴き、信頼関係を築くことができる。	担当地区の訪問対象者を把握することができる	
		訪問の優先順位を考慮することができる	
		対象の状況にあわせて、家庭訪問、面接相談、電話相談などを組み合わせて、適切な保健指導や生活支援が展開できる	
		対象者に事前連絡し、訪問日時を調整して設定できる	
		対象にあわせた必要物品を整えることができる	
		訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる	
		訪問先で、あいさつ・自己紹介・訪問目的を適切に伝えられる	
		相手の話の腰を折らず、適度なあいづちをうちながら話をしっかり聴くことができる	
		個別事例との援助関係(信頼関係)が確立できる	
		生活者としての価値感や信念を尊重することができる	
		障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例に対して、関わりの方策を工夫できる	
	障害や疾患・不安をもつ事例等、対応困難事例と面接し、円滑な信頼関係を築くことができる		
	②個人や家族単位で行う保健指導に必要な情報収集、分析、計画の立案を行うことができ、行動変容を促す保健指導を行うことができる。	対象者に保健指導を行うために必要な、発達・発育、疾患等についての知識をもつことができる	
		訪問場面での状況や健康ニーズ予測し、訪問計画を立案できる	
		相談内容の緊急性や重要性について判断できる	
		対象者の身体状況を把握できる(バイタルサイン・発育発達状況、母子手帳の確認など)	
		安全な方法で支援技術を提供できる	
		対象者の話を整理し、主訴を的確にとらえることができる	
		個人・家族のもつ力を引き出すことができる	
		家庭環境の観察や相談内容によって、訪問計画を修正できる	
		判断に迷うこと、わからないことについての対応がとれる(確認後の回答、上司の判断を得るなど)	
		個人、家族の健康課題をアセスメントし、健康ニーズを判断できる	
		必要な情報を収集し、科学的根拠に基づいて分析できる	
		現実的で対象者が納得できる保健指導計画が立案でき説明できる	
		保健指導案に基づき、対象者にわかり易く保健指導できる	
		対象者の変化を見ながら指導ができる	
健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる			
行動変容を促す援助ができる			
今後のかかわり方等について対象者に伝えることができる			
具体的かつ客観的に記録を作成し、今後の方針を立てることができる			
訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる			
単独で継続訪問できる			
困ったときには指導者の助言を求めることができる			
継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の支援方法について振り返って今後の活動に活かすことができる			
支援に必要な関係機関を理解できる			



# 保健師キャリア相談

無料

保健師の業務やキャリアに関することで  
困っていることや相談したいことはありませんか？

地域課題を多角的な  
視点から分析して  
みたい。

プリセプターとして  
どう対応したら  
いいだろう。

今関わっている  
個別対応はこれで  
いいのかしら？

保健師としてどのように  
キャリアアップして  
いったらいいのかな。

## 主な相談内容

- ①保健師活動に関する具体的な相談（事業、個別支援等）
- ②スキルアップに関すること
- ③キャリアラダーに関すること
- ④保健師活動に関する調査研究に関すること
- ⑤その他保健師活動に関すること 何でも！



**日時：**毎月第3水曜日 13:00～20:00

上記以外の日程（土曜日も含む）や相談方法は調整可能ですのでご相談ください。

**方法：**面談（来所・遠隔）または電話（予約制）

**予約方法：**メール（随時）

**相談員：**保健師キャリア支援センター教員（磯濱）

公衆衛生看護学分野教員（岩本、山下）

**連絡先：**保健師キャリア支援センター事務局

（神戸市看護大学 いちかんダイバーシティ看護開発センター内）

**Mail : [phncenter@kobe-ccn.ac.jp](mailto:phncenter@kobe-ccn.ac.jp)**

ご相談いただいた事やその内容は、ご所属の方など他者へお話しすることはありませんので  
安心してご相談ください。なお、ご自身が希望される場合には、他者へ情報提供することも  
できます。

**問い合わせ先:神戸市看護大学内 兵庫県保健師キャリア支援センター**

〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地

**TEL 078-794-8084（直通）** ※直通電話はつながりにくいこともありますのでご了承ください。

**078-794-8080（代表）**

相談内容は匿名の上統計的に処理し、今後の保健師支援に活かすための研究に活用させていただきますのでご了承ください。

# 兵庫県 保健師キャリア支援センター

2021年4月設置

保健師の質の向上を目的として、保健師人材育成の拠点となる  
兵庫県保健師キャリア支援センターを神戸市看護大学内に設置いたしました。

## 1 保健師のキャリア相談

保健師業務に関する質問をなんでもどうぞ！

予約制

毎月第3水曜日  
面談・電話

にて実施

- ・ホームページより随時受付中
- ・日時・方法は応相談（オンライン相談も可）
- ・いちかんダイバーシティ看護開発センター教員、  
公衆衛生看護学領域教員が相談対応



お申込フォームは  
こちら



## 2 保健師人材育成研修

兵庫県保健師人材育成ガイドラインに  
則り研修を実施します。

新任期 保健師研修

中堅期 保健師研修

統括期 保健師研修

オンデマンド研修

県下の先駆的保健師活動の紹介など、随時アップ



随時更新中！



## 3 保健師に関する調査研究



## 4 兵庫県 保健師キャリア支援センター ホームページ

キャリア相談の  
お申し込みも HP から

<https://kobe-phn-cc.jp/>

- ・キャリアアップ情報
- ・研修等の案内
- ・相談窓口フォーム等



〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地（神戸市看護大学内）  
（直通電話）078-794-8084 / （大学代表）078-794-8080  
phncenter@kobe-ccn.ac.jp

ご要望を  
お寄せ  
ください

兵庫県保健師キャリア支援センター事務局名簿

2022年度

機 関 名	職 名	氏 名
公立大学法人 神戸市看護大学 いちかんダイバーシティ看護開発センター	特任講師	磯濱 亜矢子
	非常勤教員	西村 康子
公立大学法人 神戸市看護大学 看護学部健康生活看護学領域公衆衛生看護学分野	教 授	岩本 里織
	講 師	山下 正
	助 教	山田 暢子
	助 教	遠藤 真澄
公立大学法人 神戸市看護大学 事務局	担当課長	篠原 良浩
公立大学法人 神戸市看護大学 事務局経営管理課	担当係長	小西 康之
		植村 茉菜美

## 編集後記

兵庫県保健師キャリア支援センターが設立し、今年で 2 年目を迎えました。当センターは、神戸市看護大学に委託され、いちかんダイバーシティ看護開発センターおよび公衆衛生看護学分野教員が事務局を担い、兵庫県健康増進課と協力しながら運営をしております。

今年度は、今まで新型コロナウイルス感染症流行の影響により、オンラインで実施していた研修をできる限り対面研修として実施し、顔の見える環境だからこそ得られるものを大事にさせていただきたい思いで取り組んでまいりました。ご参加の皆様からは、私達事務局の思いの通じた声として多く寄せられ、試行錯誤しながら取り組んだ甲斐があったと実感しています。

保健師の活動は、知識として学びを積み重ねるもののほかに、先輩保健師の後ろ姿から伝承されるものも多くあります。それらは、直接見聞きし、共に活動することで後輩保健師の意識となり、行動となって現れ、地域に根付いていくものです。各々の現場の中で相互から学び合うものが根底にあり、それを他機関の保健師同士と分かち合えることで、保健師全体の資質が高まっていくことを願っています。

当センターでは、今後も引き続き県下全体での学びを支える取組をしてまいります。その取組を下支えしているのは、県や市町など各現場の皆様の日々の活動です。県下の保健師の皆様と当センターが車の両輪となって、兵庫県の保健師活動の未来を作り上げられるよう、これからも尽力してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

2023 年 3 月

兵庫県保健師キャリア支援センター事務局

磯濱 亜矢子(いちかんダイバーシティ看護開発センター・特任講師)

岩本 里織(神戸市看護大学公衆衛生看護学分野・教授)

山下 正(神戸市看護大学公衆衛生看護学分野・講師)

山田 暢子(神戸市看護大学公衆衛生看護学分野・助教)

遠藤 真澄(神戸市看護大学公衆衛生看護学分野・助教)

西村 康子(いちかんダイバーシティ看護開発センター・非常勤)



兵庫県保健師キャリア支援センター事業実績報告書  
(2022年度)

発行日 2023年3月31日

発行者 兵庫県保健師キャリア支援センター事務局  
(公立大学法人 神戸市看護大学)

〒651-2103

兵庫県神戸市西区学園西町3丁目4番地

TEL 078-794-8080(代表) / 078-794-8084(直通)

